

HP OMi Management Pack for Oracle WebLogic

ソフトウェアバージョン: 1.01

HP Operations Manager i (Linux および Windows® オペレーティング システム)

ユーザガイド

ドキュメントリリース日: 2014 年 11 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 11 月



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™ は Adobe Systems Incorporated の商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインターフェイスが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。 <https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=>

このサイトを利用するには、HP Passport のアカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、HP Passport のサインイン ページで **[アカウントを作成してください]** ボタンをクリックしてください。

サポート

次の HP ソフトウェアサポートの Web サイトを参照してください。 <https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HP のお客様窓口のほか、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア サポート オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェアサポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、 <https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして **[Register]** をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。 <https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions & Integrations and Best Practices

HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) を参照してください。このサイトでは、HP ソフトウェアのカタログに記載された製品の説明を確認したり、情報を交換したり、ビジネス ニーズを解決することができます。

Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) からは、さまざまな ベスト プラクティス文書や資料にアクセスすることができます。

目次

第1章: OMi Management Pack for Oracle WebLogic	7
第2章: 作業の開始	8
BSM での作業の開始	8
タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加	8
タスク 2: トポロジ同期設定の確認	8
タスク 3: エンリッチメント ルールの有効化	9
タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ	9
タスク 5: 検出の確認	11
タスク 6: WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic アスペクトのデプロイ	12
タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ	12
タスク 6b: WebLogic アスペクトのデプロイ	15
タスク 7: 拡張トポロジの検出の確認	17
Oracle WebLogic 環境の監視	18
OMi での作業の開始	21
タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加	21
タスク 2: トポロジ同期設定の確認	22
タスク 3: エンリッチメント ルールの有効化	22
タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ	23
タスク 5: 検出の確認	24
タスク 6: WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic アスペクトのデプロイ	25
タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ	25
タスク 6b: WebLogic アスペクトのデプロイ	28
タスク 7: 拡張トポロジの検出の確認	30
Oracle WebLogic 環境の監視	31
第3章: コンポーネント	35
Weblogic 管理テンプレート	35
概要	35
タスク	36
基本 WebLogic 管理テンプレート	38
ユーザインターフェイスの参照情報	38
詳細 Weblogic 管理テンプレート	45
ユーザインターフェイスの参照情報	46
詳細 Weblogic およびデータベース管理テンプレート	58

ユーザ インターフェイスの参照情報	59
ハイブリッド Weblogic 管理テンプレート	80
ユーザ インターフェイスの参照情報	81
WebLogic アスペクト	88
タスク	89
WebLogic のアスペクトの分類	91
ユーザ インターフェイスの参照情報	91
パラメータ	106
パラメータの分類	106
パラメータの調整	107
ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー	108
イベント タイプ インジケータ (ETI)	112
状況 インジケータ (HI)	114
トポロジ ベースのイベント 相関処理 (TBEC) ルール	120
Operations Orchestration (OO) フロー	149
HI 割り当て	151
KPI 割り当て	152
グラフ	153
ツール	156
第 4 章: OMi MP for Oracle WebLogic のカスタマイズ	157
デプロイ前の WebLogic 管理テンプレートのカスタマイズ	157
WebLogic 管理テンプレートの作成	157
WebLogic 管理テンプレートの編集	159
第 5 章: デプロイメント シナリオ	162
標準環境での WebLogic アプリケーション サーバ	162
クラスタ環境での WebLogic アプリケーション サーバ	163
LDAP または SSL 認証プロバイダを使用している WebLogic アプリケーション サーバ	164
高可用性環境での WebLogic アプリケーション サーバ	166
第 6 章: 複合アプリケーション	169
複合アプリケーションの監視	169
タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加	169
タスク 2: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ	169

タスク 3: 検出の確認	171
タスク 4: 詳細 WebLogic 管理テンプレートのデプロイ	172
タスク 5: 詳細 WebLogic およびデータベース管理テンプレートのデプロイ	173
第 7 章: トラブルシューティング	178
ライセンス数が更新されない	178
管理テンプレートとアスペクトが管理対象ノードにデプロイされない	179
インストール時の OMi MP for Oracle WebLogic 表示エラー	179
管理パックのアップロード時の OMi MP for Oracle WebLogic 表示エラー	180
WebLogic 検出アスペクトをデプロイした後、ビューが表示されない	180
WebLogic 検出アスペクトのデプロイメント中の「接続を確立できませんでした」エラー	181
Collection Manager for OMi MP for Oracle WebLogic が起動しない	181
Performance Manager i (PMi) グラフ用のデータがない	182
Oracle WebLogic lib フォルダにアクセスできない	183
メトリックのデータログに -1 の値が表示される場合がある	183
収集プロセスが失敗する	184
検出した WebLogic サーバの接続エラー	185
付録: メトリックおよびデータソース	186
ドキュメントのフィードバックを送信	199

第1章: OMi Management Pack for Oracle WebLogic

HP OMi Management Pack for Oracle WebLogic (OMi MP for Oracle WebLogic) では、HP Operations Manager i (OMi) と連携し、環境内で稼働する WebLogic アプリケーション サーバの主要および詳細領域と基盤インフラストラクチャを監視できます。OMi MP for Oracle WebLogic は、WebLogic アプリケーションサーバ内で発生するイベントの分析を行い、WebLogic アプリケーションサーバの状況ステータスをレポートする各種インジケータ(状況インジケータ(HI)、イベントタイプインジケータ(ETI)、および相関ルール)を備えています。また、WebLogic アプリケーションサーバの可用性、状況、およびパフォーマンスを監視するための標準設定の管理テンプレートもあります。管理テンプレートは、サーバの主要および詳細領域と WebLogic アプリケーションサーバ環境の重要なインフラストラクチャ要素の監視を可能にするさまざまなアスペクトで構成されています。管理テンプレートをデプロイすることで、WebLogic アプリケーションサーバの監視が可能になります。

また管理テンプレートは簡単にカスタマイズできるので、領域専門家(SME)と開発者はニーズに合った監視を実行できます。

OMi MP for Oracle WebLogic には次の特徴的な機能があります。

- WebLogic アプリケーション サーバインスタンス ベースのデプロイと構成
- WebLogic アプリケーション サーバインスタンスの監視 (HP Operations Agent を使用、またはエージェントレス)

第2章: 作業の開始

この項では、WebLogic アプリケーション サーバを監視し、OMi のイベントおよび状況パースペクティブを表示するための OMi MP for Oracle WebLogic の標準設定コンポーネントのデプロイについて手順を追って説明します。

BSM の場合、「[BSM での作業の開始](#)」を参照してください。

OMi の場合、「[OMi での作業の開始](#)」を参照してください。

BSM での作業の開始

この項では、WebLogic アプリケーション サーバを監視し、BSM のイベント、状況およびパフォーマンスパースペクティブを表示するための OMi MP for Oracle WebLogic の標準設定コンポーネントのデプロイについて手順を追って説明します。


タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加

注: RTSM にノードが既に存在する場合、このステップをスキップしてタスク 2 に進むことができます。

監視を始める前に、BSM コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [オペレーション管理の管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタ対象ノード] をクリックします。

2. [ノード ビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、 をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [Unix] を選択します。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。


タスク 2: トポロジ同期設定の確認

注: ノードまたは CI を HP Operations Manager で監視している場合、トポロジ同期の設定を確認することをお勧めします。

1. [オペレーション管理の管理] から [インフラストラクチャ設定] を開きます。
[管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] をクリックします。
2. [インフラストラクチャ設定] ペインで、[アプリケーション] > [オペレーション管理] をクリックします。
3. [オペレーション管理] の [HPOMトポロジ同期設定] で、Topology Sync にはトポロジ同期に使用するパッケージが含まれます。他のトポロジ同期パッケージとともに、**default;nodegroups;operations-agent;HPOprSys;HPOprJEE** があることを確認してください。

タスク 3: エンリッチメント ルールの有効化

同じ名前の複数の j2eedomain CI を 1 つの CI エンティティとして調整するには、エンリッチメント ルールを有効にする必要があります。エンリッチメント ルールを有効にするには、以下の手順を実行します。

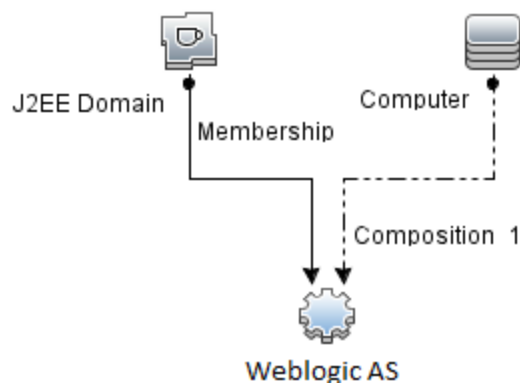
1. [エンリッチメント マネージャ] を開きます。
[管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [エンリッチメント マネージャ] をクリックします。
2. [エンリッチメント ルール] ペインで、リストから [SoftwareElementDisplayLabelForNewHost] を選択します。
3. 右クリックして [プロパティ] を選択します。[エンリッチメント ルールのプロパティ] ウィンドウが開きます。
4. [次へ] をクリックします。
5. [ルールを有効にする] を選択します。
6. [完了] をクリックします。
7. [エンリッチメント ルール] ペインで、 をクリックして変更を保存します。
8. [エンリッチメント ルール] ペインで、[Root] > [Operations Management] > [J2EE Application Servers] をクリックします。
9. **WebLogicJ2EEDomainReconciliation** を選択しステップ 3 ~ 7 を繰り返します。

タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ

WebLogic 検出アスペクトにより、環境内の WebLogic Server インスタンスを検出できます。追加した管理対象ノード上の WebLogic アプリケーション サーバ構成アイテム (CI) を検出するには、WebLogic 検出アスペクトを Computer CI にデプロイする必要があります。

WebLogic 検出アスペクトをデプロイすると、次の CI タイプ (CIT) の CI が検出されます。


- j2eedomain
- weblogicas





注: 検出アスペクト 1.01 をデプロイする前に、次の手順を実行します。

- WebLogic 検出アスペクト 1.0 に関連付けられた CI 割り当てを削除します
- WebLogic 検出アスペクト 1.0 をデプロイ解除します
- WebLogic 検出アスペクト 1.01 をデプロイします

WebLogic 検出アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. 次の手順で [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。
2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。
[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [アスペクト] をクリックします。
3. [アスペクト] フォルダで [Weblogic 検出] アスペクトをクリックし、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. [構成アイテム] タブで検出アスペクトをデプロイする構成アイテムをクリックし、[次へ] をクリックします。
[必要なパラメータ] タブが開き、この割り当てに編集が必要なパラメータが存在しないことを示すメッセージが表示されます。
5. [必要なパラメータ] タブで [次へ] をクリックして [すべてのパラメータ] タブに進みます。

6. (オプション) **[すべてのパラメータ]** タブで、パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択してから  をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、アスペクトレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

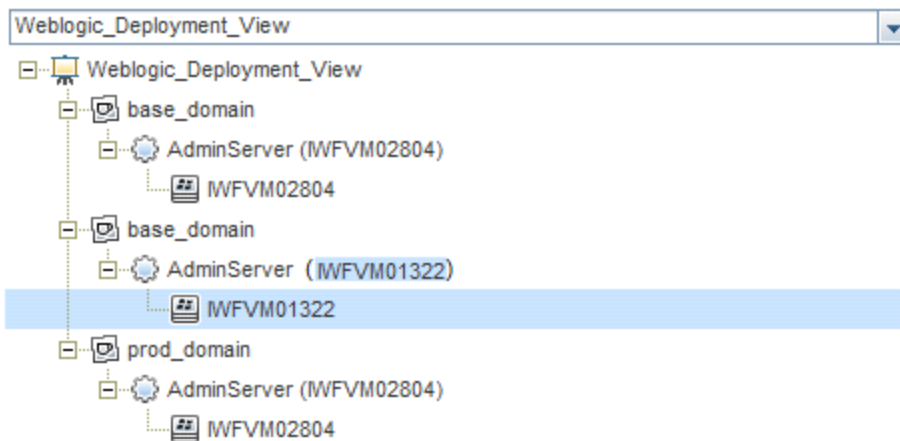
7. **[次へ]** をクリックします。
8. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスをオフにします。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

注: WebLogic 検出アスペクトをデプロイすると、**[割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました]** から始まるメッセージが表示されます。デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[デプロイメント ジョブ]** を選択します。

タスク 5: 検出の確認

検出アスペクトをデプロイした後、View Explorer に CI が表示されていることを確認する必要があります。表示された CI を確認するには、以下の手順を実行します。

1. **[アプリケーション]** > **[オペレーション管理]** > **[Event Perspective]** をクリックします。
2. [View Explorer] で、ドロップダウンリストから **Weblogic_Deployment_View** を選択します。次の図に示すように、**Weblogic_Deployment_View** に関連付けられている CI を確認できます。



タスク 6: WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic アスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite アプリケーション ライセンスを使用している場合は、WebLogic 管理テンプレートを j2eedomain CI にデプロイするか、または WebLogic アスペクトを weblogicas CI にデプロイできます。WebLogic 管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」を参照してください。WebLogic アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 6b: WebLogic アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

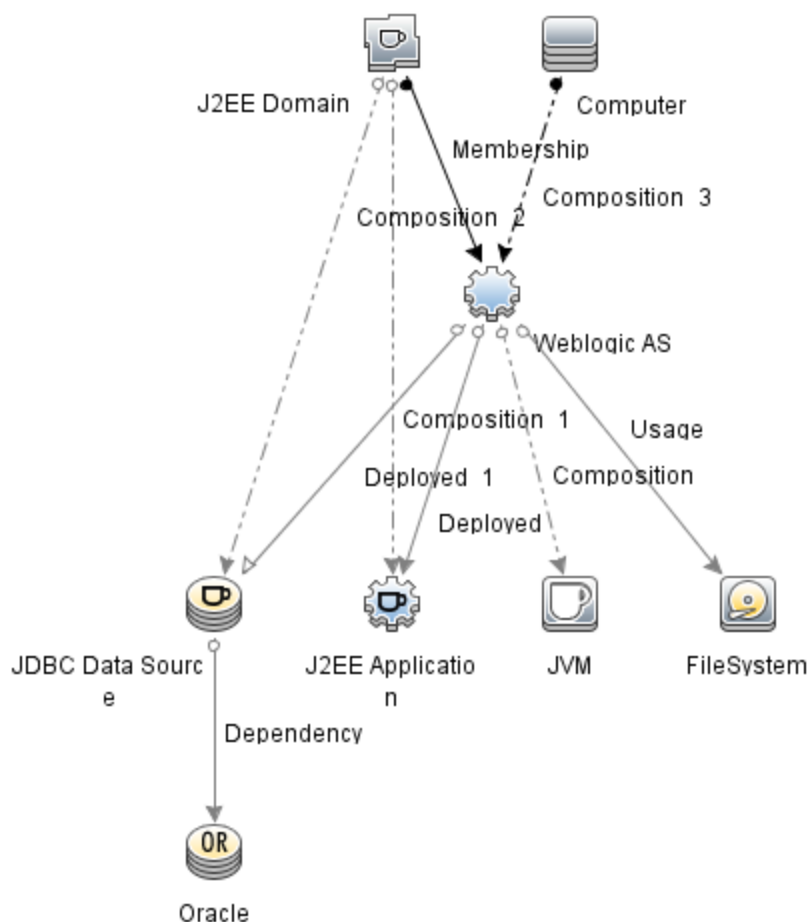
Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、WebLogic アスペクトをデプロイできます。WebLogic アスペクトのデプロイの詳細は、「[作業の開始](#)」を参照してください。

タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ

WebLogic 管理テンプレートをデプロイする前に、WebLogic 検出アスペクトをデプロイする必要があります。詳細については、「[タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

WebLogic 管理テンプレートでは、次の CIT の CI を検出し、次の図に示すトポロジを完成します。



- JVM
- J2EE Application
- JDBC Data Source




以下の推奨事項に従って、それぞれの環境に適した WebLogic 管理テンプレートを特定します。


- WebLogic アプリケーション サーバの主要コンポーネント (サーバステータス、JVM、JDBC、EJB、サープレット、サーバログ) と、インフラストラクチャの重要コンポーネント (CPU、メモリ、ディスク) を監視する場合、「[基本 WebLogic 管理テンプレート](#)」をデプロイします。
- WebLogic アプリケーション サーバの詳細コンポーネント (トランザクション、クラスタステータス、キャッシュ使用率、スレッド、サーバログ) とインフラストラクチャコンポーネント (CPU、メモリ、ディスク) を監視する場合、「[詳細 Weblogic 管理テンプレート](#)」をデプロイします。
- WebLogic アプリケーション サーバの詳細コンポーネント、Oracle データベースコンポーネント (基本クエリ、メモリ)、インフラストラクチャコンポーネントを監視する場合、「[詳細 Weblogic およびデータベース管理テンプレート](#)」をデプロイします。詳細 Weblogic およびデータベース管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 5: 詳細 WebLogic およびデータベース管理テンプレートのデプロイ](#)」を参照してください。
- WebLogic アプリケーション サーバの主要コンポーネントと、インフラストラクチャの重要な部分である CPU、メモリ、ディスク (WebLogic エージェントレスアスペクトを使用して監視する WebLogic アプリケーション サーバのポートおよびアプリケーション URL の可用性を含む) を監視する場合、「[ハイブリッド Weblogic 管理テンプレート](#)」をデプロイします。

詳細 WebLogic およびデータベース管理テンプレート以外の WebLogic 管理テンプレートをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. 次の手順で [管理テンプレートおよびアспект] ペインを開きます。
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。
2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。
[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [管理テンプレート] をクリックします。
3. [WebLogic 管理テンプレート] フォルダでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる WebLogic ドメイン CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。アイテムを複数選択するには、**[CTRL]** キーや **[SHIFT]** キーを押しながらアイテムを選択してください。**[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブでは、**[ユーザ名]** と **[パスワード]** の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: 管理テンプレートのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、『OMi MP for Oracle WebLogic インストールガイド』の「ユーザ権限」を参照してください。

6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** タブに進みます。
7. (オプション) パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。


8. **[次へ]** をクリックします。
9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスをオフにします。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

タスク 6b: WebLogic アスペクトのデプロイ


WebLogic アスペクトをデプロイする前に、次の CIT の CI を検出するため WebLogic ベース アスペクトをデプロイする必要があります。

- JVM
- J2EE Application
- JDBC Data Source


WebLogic ベースのアスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。
2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。
[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [アスペクト] > [Weblogic ベース] をクリックします。
3. [WebLogic アスペクト] フォルダで、**[Weblogic ベース]** をクリックして、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで WebLogic CI を選択し、**[次へ]** をクリックします。アイテムを複数選択するには、**[CTRL]** キーや **[SHIFT]** キーを押しながらアイテムを選択してください。**[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。

注: アスペクトをノード CI にデプロイする場合、**[タイプ ノードの CI も表示する]** を選択します。

5. **[必要なパラメータ]** タブでは、**[ユーザ名]** と **[パスワード]** の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: WebLogic アスペクトのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、『OMi MP for Oracle WebLogic インストールガイド』の「ユーザ権限」を参照してください。

6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** タブに進みます。
7. **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの**

表示]をクリックします。

8. **[次へ]**をクリックします。
9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]**チェックボックスをオフにします。**[割り当ておよび調整]**ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]**をクリックします。


残りの WebLogic アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. 次の手順で **[管理 テンプレート およびアスペクト]** ペインを開きます。


[管理] > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[管理 テンプレート およびアスペクト]** をクリックします。

2. **[構成フォルダ]** ペインで、次を選択します。


[構成フォルダ] > **[アプリケーション サーバの管理]** > **[Oracle WebLogic 管理]** > **[アスペクト]** をクリックします。

3. **[アスペクト]** フォルダでデプロイする WebLogic アスペクトをクリックし、 をクリックします。**[割り当てとデプロイ]** ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで WebLogic アスペクトを割り当てる CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。アイテムを複数選択するには、**[CTRL]** キーや **[SHIFT]** キーを押しながらアイテムを選択してください。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。

注: アスペクトをノード CI にデプロイする場合、**[タイプノードの CI も表示する]** を選択します。

5. **[必要なパラメータ]** タブでは、**[ユーザ名]** と **[パスワード]** の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: WebLogic アスペクトのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、『OMi MP for Oracle WebLogic インストールガイド』の「ユーザ権限」を参照してください。

6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** タブに進みます。
7. **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。
8. **[次へ]** をクリックします。

9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスをオフにします。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

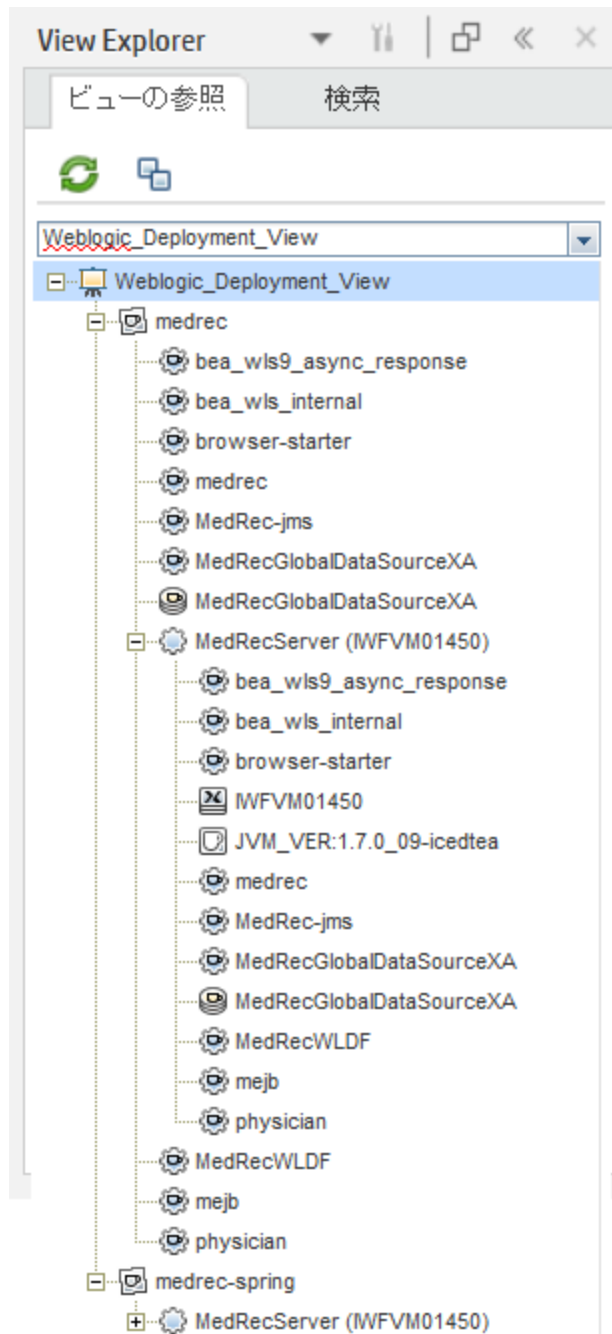
タスク 7: 拡張トポロジの検出の確認

WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic ベース アスペクトをデプロイした後、[View Explorer] に CI が表示されるかどうかを確認できます。

[View Explorer] で CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. BSM コンソールで **[アプリケーション]** > **[オペレーション管理]** > **[Event Perspective]** をクリックします。
2. [View Explorer] で、ドロップダウンリストから **Weblogic_Deployment_View** を選択します。次の図に示すように、**Weblogic_Deployment_View** に関連付けられている CI から構成される拡張トポロ

ジを確認できます。



Oracle WebLogic 環境の監視

管理テンプレートおよびアスペクトのデプロイが完了すると、次のパースペクティブからイベントを表示できます。

イベント パースペクティブ

状況 パースペクティブ

パフォーマンス パースペクティブ

イベント パースペクティブ

Weblogic 検出アスペクトとWeblogic 管理テンプレートをデプロイした後、OMi MP for Oracle WebLogic で監視される WebLogic アプリケーション サーバCI のイベントを表示できます。

Oracle WebLogic アプリケーション サーバCI のイベント パースペクティブを表示するには、次の手順を実行します。

1. [オペレーション管理] ペインを開きます。

[アプリケーション] > [オペレーション管理]

2. [オペレーション管理] ペインで **[Event Perspective]** タブをクリックします。[View Explorer] ペインが表示されます。
3. ドロップダウンメニューから **Weblogic_Deployment_View** を選択します。

OMi MP for Oracle WebLogic で監視される WebLogic アプリケーション サーバのリストが表示されます。

4. イベント パースペクティブを表示する WebLogic アプリケーション サーバCI を選択します。[Event Browser] ペインに、選択した WebLogic アプリケーション サーバCI のイベントが表示されます。

[Event Browser] でイベントをクリックすると、[イベント詳細] ペインが開き、次の内容が表示されます。

- **一般:** 重要度、ライフサイクル状態、優先度、関連 CI など、選択したイベントに関する詳細情報が表示されます。
- **追加情報:** 選択したイベントの属性に関する詳細情報が表示されます。
- **ソース情報:** 選択したイベントのソースに関する情報の概要が表示されます。
- **アクション:** 選択したイベントで使用できるアクションのリストが表示されます。使用できるアクションには、ユーザアクションと自動アクションの2タイプがあります。
- **注釈:** 選択したイベントにアタッチされている注釈が表示されます。
- **カスタム属性:** 管理者または担当ユーザが手動で設定し、選択したイベントに追加した属性のリストが表示されます。
- **関連イベント:** Event Browser で選択したイベントに関連するすべてのイベントが表示されます。
- **履歴:** 選択したイベントの履歴が表示されます。
- **解決ヒント:** イベントに関連付けられているノードとCI を特定する情報が表示されます。

- **説明:** 関連イベントの処理に役立つ情報が表示されます。
- **転送:** イベントの所有者に関する転送の詳細情報が表示されます。

注: イベントの表示および管理の詳細は、『Operations Manager i コンセプト・ガイド』を参照してください。

状況パースペクティブ

WebLogic 検出アスペクトとWebLogic 管理テンプレートをデプロイした後、OMi MP for Oracle WebLogic で監視される WebLogic アプリケーション サーバCI の状況に関するイベントを表示できます。

Oracle WebLogic アプリケーション サーバCI の状況パースペクティブを表示するには、以下の手順を実行します。

1. [オペレーション管理] ペインを開きます。

[アプリケーション] > [オペレーション管理]

2. [オペレーション管理] ペインで [Health Perspective] タブをクリックします。[View Explorer] ペインが表示されます。
3. [View Explorer] で [ビューの参照] タブを選択します。
4. ドロップダウンメニューから **Weblogic_Deployment_View** を選択します。

OMi MP for Oracle WebLogic で監視される WebLogic アプリケーション サーバのリストが表示されます。

5. 状況パースペクティブを表示する WebLogic アプリケーション サーバCI を選択します。[Event Browser] ペインに、選択した WebLogic アプリケーション サーバCI の状況に関するイベントが表示されます。

[Event Browser] ペインからイベントをクリックすると、次のペインが表示されます。


- **Health Top View:** 選択したイベントのヘルストップビューが表示されます。
- **Health Indicators:** [Health Top View] ペインで選択した CI に関連する主要業績評価指標 (KPI) および HI が表示されます。
- **Actions:** 選択したイベントで使用できるアクションのリストが表示されます。

注: イベントの表示および管理の詳細は、『Operations Manager i コンセプト・ガイド』を参照してください。

パフォーマンス パースペクティブ

パフォーマンス パースペクティブでは、既存のグラフテンプレートからグラフを作成できます。また、選択した CI に必要なメトリックを選択して、カスタマイズされたグラフを作成することもできます。

グラフを使用して Oracle WebLogic アプリケーション サーバCI のパフォーマンスパースペクティブを表示するには、次の手順を実行します。

1. [オペレーション管理] ペインを開きます。
[アプリケーション] > [オペレーション管理]
2. [オペレーション管理] ウィンドウで、**[Performance Perspective]** タブをクリックします。[View Explorer] ペインが表示されます。
3. **[ビューの参照]** タブで **Weblogic_Deployment_View** を選択します。パフォーマンス ペインに、**Weblogic_Deployment_View** ビューで使用できるデフォルトのグラフが表示されます。
4. **[グラフ]** タブから作成するグラフをクリックし、 **[グラフの作成]** をクリックします。右ペインに選択したグラフが表示されます。

注: イベントの管理の詳細は、『Operations Manager i コンセプト・ガイド』を参照してください。


OMiでの作業の開始

この項では、WebLogic アプリケーション サーバを監視し、OMi のイベント、状況およびパフォーマンスパースペクティブを表示するための OMi MP for Oracle WebLogic の標準設定コンポーネントのデプロイについて手順を追って説明します。

タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加

注: RTSM にノードが既に存在する場合、このステップをスキップしてタスク 2 に進むことができます。

監視を始める前に、OMi コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [オペレーション管理の管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。
[管理] > [セットアップと保守] > [モニタ対象ノード] をクリックします。
2. [ノード ビュー] ペインで **[事前定義済みのノード フィルタ]** > **[モニタ対象ノード]** をクリックし、 をクリックしてから、**[Computer]** > **[Windows]** または **[Unix]** を選択します。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、**[OK]** をクリックします。


タスク 2: トポロジ同期設定の確認

注: ノードまたは CI を HP Operations Manager で監視している場合、トポロジ同期の設定を確認することをお勧めします。

1. [オペレーション管理の管理] から [インフラストラクチャ設定] を開きます。
[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] をクリックします。
2. [インフラストラクチャ設定] ペインで、[アプリケーション] > [オペレーション管理] をクリックします。
3. [オペレーション管理] の [HPOM トポロジ同期設定] で、Topology Sync にはトポロジ同期に使用するパッケージが含まれます。他のトポロジ同期パッケージとともに、`default;nodegroups;operations-agent;HPOprSys;HPOprJEE` があることを確認してください。

タスク 3: エンリッチメント ルールの有効化

同じ名前の複数の j2eedomain CI を 1 つの CI エンティティとして調整するには、エンリッチメント ルールを有効にする必要があります。エンリッチメント ルールを有効にするには、以下の手順を実行します。

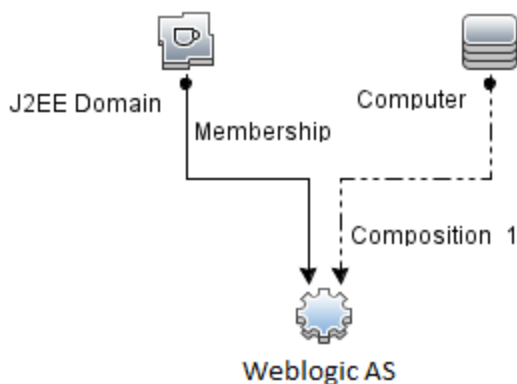
1. [エンリッチメント マネージャ] を開きます。
[管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [エンリッチメント マネージャ] をクリックします。
2. [エンリッチメント ルール] ペインで、リストから [SoftwareElementDisplayLabelForNewHost] を選択します。
3. 右クリックして [プロパティ] を選択します。[エンリッチメント ルールのプロパティ] ウィンドウが開きます。
4. [次へ] をクリックします。
5. [ルールを有効にする] を選択します。
6. [完了] をクリックします。
7. [エンリッチメント ルール] ペインで、 をクリックして変更を保存します。
8. [エンリッチメント ルール] ペインで、[Root] > [Operations Management] > [J2EE Application Servers] をクリックします。
9. `WebLogicJ2EEDomainReconciliation` を選択しステップ 3 ~ 7 を繰り返します。

タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ

WebLogic 検出アスペクトにより、環境内の WebLogic Server インスタンスを検出できます。追加した管理対象ノード上の WebLogic アプリケーション サーバ構成アイテム (CI) を検出するには、WebLogic 検出アスペクトを Computer CI にデプロイする必要があります。

WebLogic 検出アスペクトをデプロイすると、次の CI タイプ (CIT) の CI が検出されます。

- j2eedomain
- weblogicas



注: 検出アスペクト 1.01 をデプロイする前に、次の手順を実行します。

- WebLogic 検出アスペクト 1.0 に関連付けられた CI 割り当てを削除します
- WebLogic 検出アスペクト 1.0 をデプロイ解除します
- WebLogic 検出アスペクト 1.01 をデプロイします



WebLogic 検出アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。


1. 次の手順で [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [アスペクト] をクリックします。

3. [アスペクト] フォルダで **[Weblogic 検出]** アスペクトをクリックし、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで検出アスペクトをデプロイする構成アイテムをクリックし、**[次へ]** をクリックします。
[必要なパラメータ] タブが開き、この割り当てに編集が必要なパラメータが存在しないことを示すメッセージが表示されます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。
6. (オプション) **[パラメータ サマリ]** タブで、パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択してから  をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、アスペクトレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

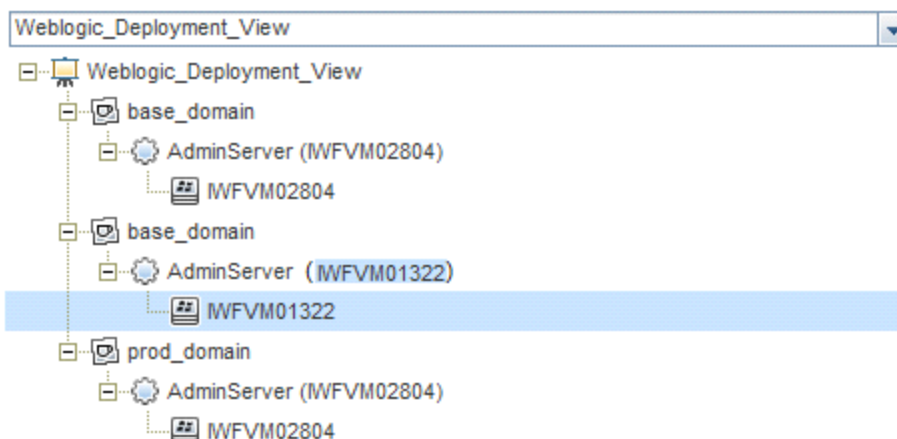
注: WebLogic 検出アスペクトをデプロイすると、**[割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました]** から始まるメッセージが表示されます。デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、**[管理]** > **[監視]** > **[デプロイメント ジョブ]** を選択します。

タスク 5: 検出の確認

検出アスペクトをデプロイした後、**[360° View]** に CI が表示されていることを確認する必要があります。表示された CI を確認するには、以下の手順を実行します。

[360° View] に CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. OMi コンソールで、**[ワークスペース]** > **[ダッシュボード]** > **[360° View]** をクリックします。
2. ドロップダウンリストから **[360° View]** を選択します。**[360° View]** ページが表示されます。
3. **[360° View]** ペインで **Weblogic_Deployment_View** を選択します。**[360° View]** に CI が表示されています。



タスク 6: WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic アスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite アプリケーション ライセンスを使用している場合は、WebLogic 管理テンプレートを j2eedomain CI にデプロイするか、または WebLogic アスペクトを weblogicas CI にデプロイできます。WebLogic 管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」を参照してください。WebLogic アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 6b: WebLogic アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

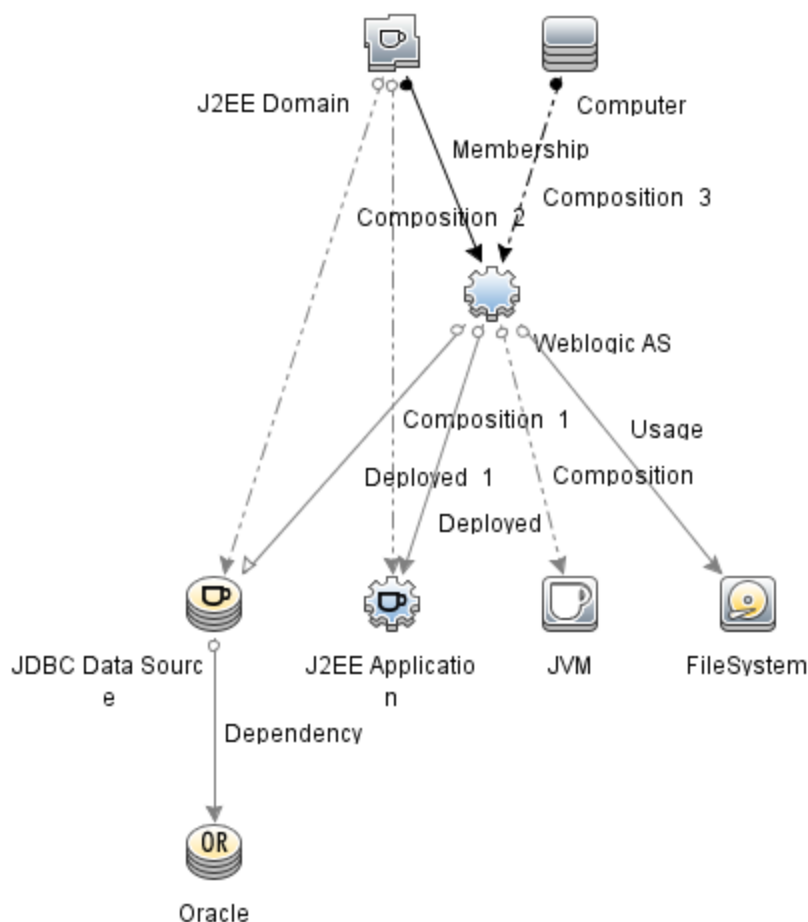
Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、WebLogic アスペクトをデプロイできます。WebLogic アスペクトのデプロイの詳細は、「[作業の開始](#)」を参照してください。

タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ

WebLogic 管理テンプレートをデプロイする前に、WebLogic 検出アスペクトをデプロイする必要があります。詳細については、「[タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

WebLogic 管理テンプレートでは、次の CIT の CI を検出し、次の図に示すトポロジを完成します。

- JVM
- J2EE Application
- JDBC Data Source



以下の推奨事項に従って、それぞれの環境に適した WebLogic 管理テンプレートを特定します。

- WebLogic アプリケーション サーバの主要コンポーネント (サーバステータス、JVM、JDBC、EJB、サーブレット、サーバログ) と、インフラストラクチャの重要コンポーネント (CPU、メモリ、ディスク) を監視する場合、「[基本 WebLogic 管理テンプレート](#)」をデプロイします。
- WebLogic アプリケーション サーバの詳細コンポーネント (トランザクション、クラスタステータス、キャッシュ使用率、スレッド、サーバログ) とインフラストラクチャコンポーネント (CPU、メモリ、ディスク) を監視する場合、「[詳細 Weblogic 管理テンプレート](#)」をデプロイします。
- WebLogic アプリケーション サーバの詳細コンポーネント、Oracle データベースコンポーネント (基本クエリ、メモリ)、インフラストラクチャコンポーネントを監視する場合、「[詳細 Weblogic およびデータベース管理テンプレート](#)」をデプロイします。詳細 WebLogic およびデータベース管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 5: 詳細 WebLogic およびデータベース管理テンプレートのデプロイ](#)」を参照してください。
- WebLogic アプリケーション サーバの主要コンポーネントと、インフラストラクチャの重要な部分である CPU、メモリ、ディスク (WebLogic エージェントレスアスペクトを使用して監視する WebLogic アプリケーション サーバのポートおよびアプリケーション URL の可用性を含む) を監視する場合、「[ハイブリッド WebLogic 管理テンプレート](#)」をデプロイします。


詳細 WebLogic およびデータベース管理テンプレート以外の WebLogic 管理テンプレートをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. 次の手順で [管理テンプレートおよびアспект] ペインを開きます。


[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [管理テンプレート] をクリックします。


3. [WebLogic 管理テンプレート] フォルダでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。


4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる WebLogic ドメイン CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。アイテムを複数選択するには、**[CTRL]** キーや **[SHIFT]** キーを押しながらアイテムを選択してください。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。

5. **[必要なパラメータ]** タブでは、**[ユーザ名]** と **[パスワード]** の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: 管理テンプレートのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、『OMi MP for Oracle WebLogic インストールガイド』の「ユーザ権限」を参照してください。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。

7. (オプション) パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

8. **[次へ]** をクリックします。

9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。

10. **[完了]** をクリックします。

タスク 6b: WebLogic アスペクトのデプロイ

WebLogic アスペクトをデプロイする前に、次の CIT の CI を検出するため WebLogic ベース アスペクトをデプロイする必要があります。

- JVM
- J2EE Application
- JDBC Data Source


WebLogic ベースのアスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。


[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。


[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [アスペクト] > [Weblogic ベース] をクリックします。

3. [WebLogic アスペクト] フォルダで、**[Weblogic ベース]** をクリックして、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで WebLogic CI を選択し、**[次へ]** をクリックします。アイテムを複数選択するには、**[CTRL]** キーや **[SHIFT]** キーを押しながらアイテムを選択してください。**[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。

注: アスペクトをノード CI にデプロイする場合、**[タイプ ノードの CI も表示する]** を選択します。

5. **[必要なパラメータ]** タブでは、**[ユーザ名]** と **[パスワード]** の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: WebLogic アスペクトのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、『OMi MP for Oracle WebLogic インストールガイド』の「ユーザ権限」を参照してください。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。
7. **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表**

示]をクリックします。

8. **[次へ]**をクリックします。
9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]**チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]**ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]**をクリックします。


残りの WebLogic アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. 次の手順で **[管理 テンプレート およびアスペクト]** ペインを開きます。


[管理] > **[監視]** > **[管理 テンプレート およびアスペクト]** をクリックします。

2. **[構成 フォルダ]** ペインで、次を選択します。


[構成 フォルダ] > **[アプリケーション サーバの管理]** > **[Oracle WebLogic 管理]** > **[アスペクト]** をクリックします。

3. **[アスペクト]** フォルダでデプロイする WebLogic アスペクトをクリックし、 をクリックします。**[割り当てとデプロイ]** ウィザードが開きます。
4. **[構成 アイテム]** タブで WebLogic アスペクトを割り当てる CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。アイテムを複数選択するには、**[CTRL]** キーや **[SHIFT]** キーを押しながらアイテムを選択してください。**[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。

注: アスペクトをノード CI にデプロイする場合、**[タイプ ノードの CI も表示する]** を選択します。

5. **[必要なパラメータ]** タブでは、**[ユーザ名]** と **[パスワード]** の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: WebLogic アスペクトのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、『OMi MP for Oracle WebLogic インストールガイド』の「ユーザ権限」を参照してください。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。
7. **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理 テンプレート レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。
8. **[次へ]** をクリックします。

9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

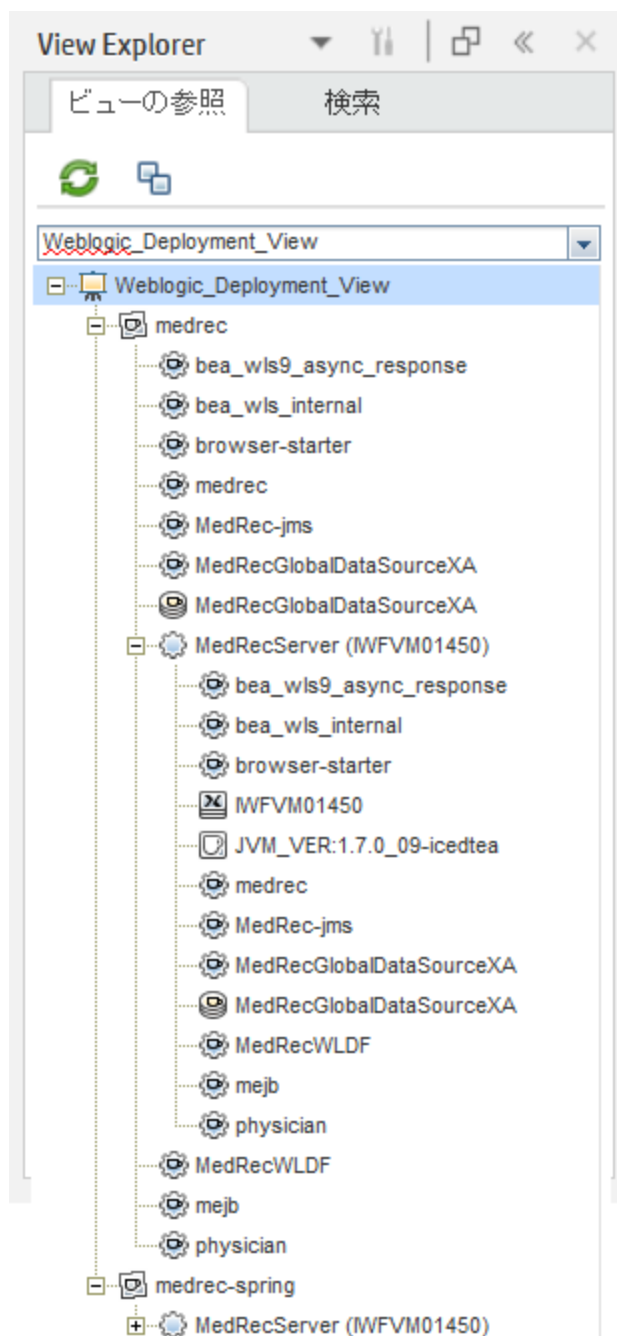
タスク 7: 拡張トポロジの検出の確認

WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic ベース アスペクトをデプロイした後、[View Explorer] に CI が表示されるかどうかを確認できます。

[View Explorer] で CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. OMi コンソールで **[ワークスペース]** > **[操作コンソール]** > **[Event Perspective]** をクリックします。
2. [View Explorer] で、ドロップダウン リストから **Weblogic_Deployment_View** を選択します。次の図に示すように、**Weblogic_Deployment_View** に関連付けられている CI から構成される拡張トポロ

ジを確認できます。



Oracle WebLogic 環境の監視

管理テンプレートおよびアスペクトのデプロイが完了すると、次のパースペクティブからイベントを表示できます。

イベント パースペクティブ

状況 パースペクティブ

パフォーマンス パースペクティブ

イベント パースペクティブ

Weblogic 検出アスペクトとWeblogic 管理テンプレートをデプロイした後、OMi MP for Oracle WebLogic で監視される WebLogic アプリケーション サーバCI のイベントを表示できます。

Oracle WebLogic アプリケーション サーバCI のイベント パースペクティブを表示するには、次の手順を実行します。

1. [オペレーション管理] ペインを開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Event Perspective] をクリックします。

2. [オペレーション管理] ペインで [Event Perspective] タブをクリックします。[View Explorer] ペインが表示されます。
3. ドロップダウンメニューから **Weblogic_Deployment_View** を選択します。

OMi MP for Oracle WebLogic で監視される WebLogic アプリケーション サーバのリストが表示されます。

4. イベント パースペクティブを表示する WebLogic アプリケーション サーバCI を選択します。[Event Browser] ペインに、選択した WebLogic アプリケーション サーバCI のイベントが表示されます。

[Event Browser] でイベントをクリックすると、[イベント詳細] ペインが開き、次の内容が表示されます。

- **一般:** 重要度、ライフサイクル状態、優先度、関連 CI など、選択したイベントに関する詳細情報が表示されます。
- **追加情報:** 選択したイベントの属性に関する詳細情報が表示されます。
- **ソース情報:** 選択したイベントのソースに関する情報の概要が表示されます。
- **アクション:** 選択したイベントで使用できるアクションのリストが表示されます。使用できるアクションには、ユーザアクションと自動アクションの2タイプがあります。
- **注釈:** 選択したイベントにアタッチされている注釈が表示されます。
- **カスタム属性:** 管理者または担当ユーザが手動で設定し、選択したイベントに追加した属性のリストが表示されます。
- **関連イベント:** Event Browser で選択したイベントに関連するすべてのイベントが表示されます。
- **履歴:** 選択したイベントの履歴が表示されます。
- **解決ヒント:** イベントに関連付けられているノードとCI を特定する情報が表示されます。

- **説明:** 関連イベントの処理に役立つ情報が表示されます。
- **転送:** イベントの所有者に関する転送の詳細情報が表示されます。

注: イベントの表示および管理の詳細は、『Operations Manager i コンセプト・ガイド』を参照してください。

状況パースペクティブ

WebLogic 検出アスペクトと WebLogic 管理テンプレートをデプロイした後、OMi MP for Oracle WebLogic で監視される WebLogic アプリケーション サーバCI の状況に関するイベントを表示できます。

Oracle WebLogic アプリケーション サーバCI の状況パースペクティブを表示するには、以下の手順を実行します。

1. [オペレーション管理] ペインを開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Event Perspective] をクリックします。

2. [オペレーション管理] ペインで [Health Perspective] タブをクリックします。[View Explorer] ペインが表示されます。
3. [View Explorer] で [ビューの参照] タブを選択します。
4. ドロップダウンメニューから **Weblogic_Deployment_View** を選択します。

OMi MP for Oracle WebLogic で監視される WebLogic アプリケーション サーバのリストが表示されます。

5. 状況パースペクティブを表示する WebLogic アプリケーション サーバCI を選択します。[Event Browser] ペインに、選択した WebLogic アプリケーション サーバCI の状況に関するイベントが表示されます。

[Event Browser] ペインからイベントをクリックすると、次のペインが表示されます。


- **Health Top View:** 選択したイベントのヘルストップビューが表示されます。
- **Health Indicators:** [Health Top View] ペインで選択した CI に関連する主要業績評価指標 (KPI) および HI が表示されます。
- **Actions:** 選択したイベントで使用できるアクションのリストが表示されます。

注: イベントの表示および管理の詳細は、『Operations Manager i コンセプト・ガイド』を参照してください。

パフォーマンス パースペクティブ

パフォーマンス パースペクティブでは、既存のグラフテンプレートからグラフを作成できます。また、選択した CI に必要なメトリックを選択して、カスタマイズされたグラフを作成することもできます。

グラフを使用して Oracle WebLogic アプリケーション サーバCI のパフォーマンス パースペクティブを表示するには、次の手順を実行します。

1. [オペレーション管理] ペインを開きます。
[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Event Perspective] をクリックします。
2. [オペレーション管理] ウィンドウで、**[Performance Perspective]** タブをクリックします。[View Explorer] ペインが表示されます。
3. **[ビューの参照]** タブで **Weblogic_Deployment_View** を選択します。パフォーマンス ペインに、**Weblogic_Deployment_View** ビューで使用するデフォルトのグラフが表示されます。
4. **[グラフ]** タブから作成するグラフをクリックし、 **[グラフの作成]** をクリックします。右ペインに選択したグラフが表示されます。

注: イベントの管理の詳細は、『Operations Manager i コンセプト・ガイド』を参照してください。

第3章: コンポーネント

OMi MP for Oracle WebLogic には、環境内にある WebLogic アプリケーション サーバの監視を目的にした以下のコンポーネントが含まれます。

- 「Weblogic 管理テンプレート」
- 「WebLogic アスペクト」
- 「パラメータ」
- 「ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー」
- 「イベント タイプ インジケータ (ETI)」
- 「状況 インジケータ (HI)」
- 「トポロジ ベースのイベント 関連処理 (TBEC) ルール」
- 「Operations Orchestration (OO) フロー」
- 「HI 割り当て」
- 「KPI 割り当て」
- 「グラフ」
- 「ツール」

Weblogic 管理テンプレート

WebLogic 管理テンプレートは、環境内にある WebLogic サーバの状況およびパフォーマンスを監視する完全な管理ソリューションです。

デフォルトでは、OMi MP for Oracle WebLogic は事前定義された一連のアスペクトを含む4セットの管理テンプレートで構成されています。管理テンプレートをそのままデプロイしたり、監視要件に応じて管理テンプレートをカスタマイズしたりできます。また、WebLogic アスペクトを使用して、環境内の WebLogic サーバを監視する管理テンプレートを作成することもできます。

概要

OMi MP for Weblogic は次の Weblogic 管理テンプレートで構成されています。

- 「基本 WebLogic 管理テンプレート」
- 「詳細 Weblogic 管理テンプレート」
- 「詳細 Weblogic およびデータベース管理テンプレート」
- 「ハイブリッド Weblogic 管理テンプレート」

管理テンプレートにアクセスする方法

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

2. [構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [管理テンプレート] をクリックします。


タスク

WebLogic 管理テンプレートをデプロイする方法

WebLogic 管理テンプレートのデプロイの詳細は、BSM の場合は、「[タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」、OMi の場合は、「[タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」を参照してください。

WebLogic 管理テンプレートと WebLogic アスペクトを自動的に割り当てる方法

WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic アスペクトを自動的に割り当てるには、必要な権限を指定する必要があります。

1. 自動割り当て画面に移動します。(OMi の場合は [管理] > [監視] > [割り当ておよび調整])(BSM の場合は [モニタリング] > [割り当ておよび調整])この画面には、上部に[自動割り当て] ペイン、下部にパラメータリストが表示されます。
2. [ビューの参照] で、自動割り当てを作成する CI を含む WebLogic ビューを選択します。
3. [自動割り当て] ペインのツールバーにある  [新規割り当て] をクリックし、オプションを選択します。[自動割り当ての作成] ウィザードが開きます。
4. [構成オブジェクトの選択] で、選択したビューに表示されている CI タイプの CI に自動割り当てする WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic アスペクトをクリックします。

注: リストには、選択したビュー内にあるルート CI タイプを持つ管理テンプレートのみが表示されます。また、アスペクトが自動割り当ての場合には、互換性のあるアスペクトが表示されません。

デフォルトでは、管理テンプレートまたはアスペクトの最新バージョンが選択されます。別のバージョンを選択する場合は、**[バージョン]** 列で選択してください。


[次へ] をクリックして **[必要なパラメータ]** に進みます。

5. このステップでは、値を指定していない管理テンプレートの必須パラメータがすべて表示されます。ここで表示されるパラメータはすべて必須なので、値を指定しないと管理テンプレートはデプロイできません。

値をすべて指定したら、次のいずれかのアクションを選択します。

- **[完了]** をクリックし、選択した CI に構成オブジェクトを割り当ててウィザードまたはダイアログボックスを閉じます。
- **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブ (OMi) および **[すべてのパラメータ]** タブ (BSM) に進みます。ここでは、任意指定のパラメータも含め、パラメータのデフォルト値を上書きできます。

注: **[構成オプション]** ステップにアクセスするには、このステップで **[次へ]** をクリックし、**[パラメータ サマリ]** (OMi) **[すべてのパラメータ]** (BSM) でも **[次へ]** をクリックします。

パラメータを変更するには、ダブルクリックするか、リストで選択してから  **[編集]** をクリックします。


- 標準パラメータの場合、**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。

[値] をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

- インスタンスパラメータの場合、**[インスタンスパラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。

必要に応じてインスタンス値を追加したら、各インスタンス値の従属パラメータ値も指定します。インスタンス値と従属パラメータ値を指定したら、**[OK]** をクリックします。

6. (オプション) **[パラメータ サマリ]** タブ (OMi) および **[すべてのパラメータ]** タブ (BSM) で、監視にデフォルト値以外の値を使用するパラメータの値を指定します。


パラメータを変更するには、ダブルクリックするか、リストで選択してから  **[編集]** をクリックします。

- 標準パラメータの場合、**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。

[値] をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

7. (オプション) **[構成オプション]** ステップでは、割り当てルールをすくりにアクティブにしない場合は **[自動割り当てルールのアクティブ化]** チェックボックスの選択を解除します。
8. **[完了]** をクリックし、変更内容を保存してウィザードを終了します。割り当てルールが、自動割り当てルールのリストに追加されます。

WebLogic 管理テンプレートの割り当てレポートをデプロイする方法

1. レポートを作成する管理テンプレートを選択します。
2. [管理テンプレートおよびアспект] ペインの  [割り当てレポートの生成] をクリックします。事前設定されている割り当てレポートが表示されます。

[割り当ておよび調整] ペインでは、他のタイプのレポートも表示できます。

基本 WebLogic 管理テンプレート

基本 WebLogic 管理テンプレートでは、WebLogic サーバの主要コンポーネントと、インフラストラクチャの重要な部分である CPU、メモリ、ディスクを監視します。

基本 WebLogic 管理テンプレートにアクセスする方法

1. [管理テンプレートおよびアспект] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [管理テンプレート] > [基本 WebLogic 管理テンプレート] をクリックします。

ユーザ インターフェイスの参照情報

管理テンプレート - 一般

管理テンプレートの属性情報の概要。

UI 要素	説明
名前	基本 WebLogic 管理テンプレート
説明	管理テンプレートの説明。
ID	管理テンプレートの GUI バージョンの管理テンプレートを一意に特定する ID。
バージョン ID	このバージョンの管理テンプレートの一意の ID。
バージョン	管理テンプレートの現在のバージョン。このインスタンスでは、管理テンプレートのバージョンは 1.1。
変更ログ	このバージョンの管理テンプレートで行われた新規追加または変更の内容を示すテキスト。

管理テンプレート - トポロジビュー

管理テンプレートに割り当てる CI タイプの概要です。

UI 要素	説明
トポロジビュー	Weblogic_Deployment_View は、基本 WebLogic 管理テンプレートのトポロジビューです。このビューには、管理テンプレートを使用して管理する CI タイプが含まれます。
CI タイプ	基本 WebLogic 管理テンプレートで管理する CI のタイプ。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプを表します。基本 WebLogic 管理テンプレートには、WebLogic Application Server CI タイプが含まれます。

管理テンプレート - アスペクト

基本 WebLogic 管理テンプレートには、次のアスペクトが含まれます。

- [Weblogic ベース](#)
- [Weblogic EJB パフォーマンス](#)
- [Weblogic JDBC 接続プールステータス](#)
- [Weblogic JVM ヒープメモリ](#)
- [Weblogic Server ステータス](#)
- [Weblogic サブレット パフォーマンス](#)

基本 WebLogic 管理テンプレートには、インフラストラクチャ要素を監視するための以下のインフラストラクチャアスペクトが含まれます。

リソース ボトルネック診断

リソース ボトルネック診断アスペクトは、CPU、メモリ、ネットワークおよびディスクなどのシステムリソースの混雑やボトルネックとなっている状態を特定します。CPU のボトルネック監視は、グローバル CPU 使用率と負荷平均 (実行キューの長さ) に基づいて行われます。メモリボトルネックの監視は、メモリ使用率、使用可能な空き容量、メモリスワップアウト率に基づいて行われます。ファイルシステムの監視は、ノード上の最もビジーなファイルシステムの領域使用率に基づいて行われます。ネットワークの監視は、パケット衝突率、パケットエラー率、送信キューの長さに基づいて行われます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_CPUBottleneckDiagnosis	このポリシーテンプレートは、CPU 使用率のしきい値超過、プロセッサのキューの長さ、システム上の CPU 合計数、オペレーティングシステムなどの CPU ボトルネックを検出します。キューで CPU	測定値しきい値テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
		時間を待っているプロセス数のしきい値とともにCPU使用率のしきい値違反があった場合は、ポリシーから警告が送信されます。メッセージには、CPU使用率が高い上位10位までのプロセスの一覧も表示されます。	
Computer	Sys_DiskPeakUtilMonitor	このポリシーテンプレートは、システムのディスク使用率レベルを監視します。使用率が最大レベルかどうかをチェックします。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_MemoryBottleneckDiagnosis	このポリシーテンプレートは、物理メモリの使用率とボトルネックを監視します。メモリがボトルネックとなる状態は、メモリの使用率が高く、使用可能なメモリが極めて不足している場合に発生します。メモリボトルネックが発生すると、システムの処理速度が低下し、全体的なパフォーマンスに影響を与えます。メモリ消費量が高いとページアウトが過剰に発生し、ページ走査率やスワップアウトバイト率、ページの要求率が高くなります。最終的には、システムの処理速度が低下します。メッセージには、メモリ使用率が高い上位10位までのプロセスの一覧も表示されます。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_NetworkInterfaceErrorDiagnosis	このポリシーテンプレートはシステムのネットワーク使用率を監視し、潜在的なネットワークのボトルネックまたはエラーをチェックします。	測定値しきい値テンプレート

システムフォールト分析

システムフォールト分析アスペクトは、クリティカルなエラー条件とその説明が記録されたカーネルログファイル、ブートログファイル、イベントログファイルを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_LinuxKernelLog	<p>カーネルログファイル /var/log/ を監視し、カーネルサービスに障害が発生した場合に警告を送信します。カーネルログファイルで、<*></p> <p>kernel:<@.service>:<*.msg> failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が警戒域の警告が送信されます。</p>	ログファイルエントリテンプレート
Computer	Sys_LinuxBootLog	<p>ブートログファイル /var/log/boot.log を監視し、システムブートエラーが発生した場合に警告を送信します。以下の条件をチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>サービスの開始失敗 - ブートログファイルで、<*></p> <p><@.service>:<@.daemon> startup failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が警戒域の警告が送信されます。</p> <p>サービスの失敗 - ログファイルで、<*> <@.service>:<*.msg> failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が危険域の警告が送信されます。</p> 	ログファイルエントリテンプレート
Computer	Sys_LinuxSecureLog	<p>セキュリティで保護されたログインが失敗した場合、ユーザにアラートを送信します。<*> sshd :Failed password for <@.user> from <*.host> port <#> ssh2 と一致するエラー状態がないかチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が注意域の警告が送信されます。</p>	ログファイルエントリテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_AIXErrptLog	errpt ログ ファイル /var/opt/0V/tmp/sispi/errpt.log を監視し、エラー ログのエントリからエ ラーレポートを作成します。errpt ログ ファイルの列ごとに、<@.errcode> <2#.mo><2#.dd><2#.hh><2#.mm><2 #.yy> <@> <@> <@.object> <*.msgtext> と一致するエラー状態が ないかチェックします。一致するものが見 つかった場合、この条件から重大度が 注意域の警告が送信されます。	ログファイルエ ントリテンプ レート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ DNSWarnError	Microsoft DNS サーバサービスと関連ブ ロセスのログファイルを監視し、重大度 が注意域またはエラーのログ エントリを 転送します。このポリシーは、DNS ログ ファイルに記録された以下のエラーを検 索します。 <ul style="list-style-type: none"> • DNS サーバは、リソースレコード用 にメモリを割り当てることができませ んでした。 • DNS サーバは、利用可能なメモリ が不足していたためクライアント要 求を処理できませんでした。 • DNS サーバは、ゾーン転送スレッド を作成できませんでした。 • DNS サーバにファイル書き込みエ ラーが発生しました。 • DNS サーバは、リモート プロシー ジャコール (RPC) サービスを初期化 できませんでした。 	Windows イベ ント ログテンプ レート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ DHCPWarnError	DHCP イベント ログを監視し、重大度 が注意域またはエラーのイベント ログエ ントリを転送します。このポリシーは、次 のエラーを検索します。 <ul style="list-style-type: none"> • lashlpr が NPS サービスと通信でき ません。 • スcopeまたはスーパースcopeの 	Windows イベ ント ログテンプ レート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
		<p>BOOTP クライアントに使用できる IP アドレスはありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP サーバが、クライアントの NAP アクセス状態を判定するために NPS サーバにアクセスできません。 • スcopeまたはスーパースcopeのリースに使用できる IP アドレスはありません。 • DHCP サービスは監査ログの初期化に失敗しました。 • ローカルコンピュータの DHCP/BINL サービスは、開始権限がないと判断しました。 • このワークグループ サーバの DHCP/BINL サービスは、IP アドレスを持つ別のサーバを検出しました。 • DHCP サービスは DHCP のレジストリ構成の復元に失敗しました。 • DHCP サービスはレジストリからグローバル BOOTP ファイル名を読み取ることができませんでした。 • アクティブなインターフェイスがないため、DHCP サービスはクライアントにサービスを提供していません。 • DHCP サーバにバインドされた静的 IP アドレスがありません。 • DHCP サーバサービスがサービスコントローラへの登録に失敗しました。 • DHCP サーバサービスはレジストリパラメータの初期化に失敗しました。 	
Computer	Sys_		Windows イベ

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
	MSWindowsServer_ NFSWarnError	<p>NFS イベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのイベント ログ エントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ディスクの空き領域が少ないことを検出し、NFS サーバは監査の記録を停止しました。 • 監査ログが最大ファイルサイズに達しました。 • NFS 用サーバをRPC ポート マップに登録できませんでした。 • NFS サーバはフェーズ 2 の初期化中に NFS ドライバからエラーを受信しました。 	イベント ログテンプレート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ TerminalServiceWarnError	<p>ターミナル サービスのイベント ログで、重大度が注意域またはエラーのエントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ターミナルサーバは現在接続を受け入れないように構成されているため、接続要求が拒否されました。 • 認証が失敗したので自動再接続は失敗し、ユーザはセッションに再接続できませんでした。 • ターミナル サービスの開始に失敗しました。 • ターミナルサーバは多数の不完全な接続を受信しました。 	Windows イベント ログテンプレート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ WindowsLogonWarnError	<p>Windows ログオンと初期化のイベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのエラー ログ エントリを転送します。このポリシーは、Windows ログ ファイルに記録された以下のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows のライセンスが無効です。 	Windows イベント ログテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
		<ul style="list-style-type: none"> Windows のライセンス認証の手続きが失敗しました。 Windows のログオンプロセスによって、デスクトップを切り替えることができませんでした。 Windows のログオンプロセスは予期せぬ原因により終了しました。 Windows のログオンプロセスによって、ユーザアプリケーションを起動できませんでした。 Windows のログオンプロセスによって、現在ログオンしているユーザのプロセスを終了できませんでした。 Windows のログオンプロセスによって、ユーザセッションを切断できませんでした。 	

システム インフラストラクチャ検出

システム インフラストラクチャ検出 アスペクトは、管理対象ノードのシステムリソース、オペレーティングシステム、アプリケーションに関する情報を検出し、収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR	Operations Agent の xpl config ネームスペースでの OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR の設定に使用されます。Infrastructure SPI のポリシーを使用する場合は、この値を TRUE に設定します。	ノード情報テンプレート
	Sys_SystemDiscovery	ポリシー テンプレートは、ハードウェアリソース、オペレーティングシステムの属性、アプリケーションなどのサービス情報を管理対象ノードから収集します。	サービス自動検出テンプレート

詳細 Weblogic 管理テンプレート

詳細 WebLogic 管理テンプレートでは、WebLogic サーバの詳細コンポーネントと、インフラストラクチャおよび Oracle データベースの基本コンポーネントを監視します。

詳細 Weblogic 管理テンプレートにアクセスする方法

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [管理テンプレート] > [詳細 Weblogic 管理テンプレート] をクリックします。

ユーザ インターフェイスの参照情報

管理テンプレート - 一般

管理テンプレートの属性情報の概要。

UI 要素	説明
名前	詳細 Weblogic 管理テンプレート
説明	管理テンプレートの説明。
ID	管理テンプレートの GUI バージョンの管理テンプレートを一意に特定する ID。
バージョン ID	このバージョンの管理テンプレートの一意的 ID。
バージョン	管理テンプレートの現在のバージョン。このインスタンスでは、管理テンプレートのバージョンは 1.1。
変更ログ	このバージョンの管理テンプレートで行われた新規追加または変更の内容を示すテキスト。

管理テンプレート - トポロジ ビュー

管理テンプレートに割り当てる CI タイプの概要です。

UI 要素	説明
トポロジ ビュー	Weblogic_Deployment_View は、詳細 WebLogic 管理テンプレートのトポロジ ビューです。このビューには、管理テンプレートを使用して管理する CI タイプが含まれます。
CI タイプ	詳細 WebLogic 管理テンプレートで管理する CI のタイプ。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプを表します。詳細 WebLogic 管理テンプレートには、WebLogic アプリケーション サーバ CI タイプが含まれます。

管理テンプレート - アスペクト

詳細 WebLogic 管理テンプレートには、次のアスペクトが含まれます。

- [Weblogic 認証](#)
- [Weblogic ベース](#)
- [Weblogic キャッシュ使用率](#)
- [Weblogic クラスタ ステータス](#)
- [Weblogic EJB パフォーマンス](#)
- [Weblogic JCA 統計](#)
- [Weblogic JDBC 接続プールステータス](#)
- [Weblogic JMS パフォーマンス](#)
- [Weblogic JVM ヒープメモリ](#)
- [Weblogic Server ステータス](#)
- [Weblogic サブレット パフォーマンス](#)
- [Weblogic スレッド ステータス](#)
- [Weblogic トランザクション](#)
- [Weblogic Web アプリケーション ステータス](#)

詳細 WebLogic 管理テンプレートには、インフラストラクチャ要素を監視するための以下のインフラストラクチャアスペクトが含まれます。

帯域幅使用量とネットワーク IOPS

帯域幅使用量とネットワーク IOPS アスペクトは、ネットワーク内のシステムの I/O 操作とパフォーマンスを監視します。使用中の帯域幅、送信キューの長さ、平均転送バイト数/秒に基づき、ネットワークの I/O オペレーションおよびパフォーマンスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_ NetworkUsageAndPerformance	システムのネットワーク使用率を監視し、エラーレートと競合を表示します。これにより、ネットワークに潜在的なボトルネックがあるかどうかを判断できます。このポリシー テンプレートは、vMA マシンだけの物理 NIC を監視します。Windows オペレーティングシステムでは、BYNETIF_COLLISION メトリックを使用できないので、パッケージ競合に関するパフォーマンス データは監視しません。	測定値しきい値 テンプレート
	Sys_PerNetifInbyteBaseline- AT	所定の間隔でのネットワーク インターフェイスの送信バイト率を監視します。管理対象ノード上の各ネットワーク インターフェイスで発信バイト数を個別に監視します。すべての間隔でネットワーク インターフェイスの各 インスタンスを個別に処理します。	
	Sys_PerNetifOutbyteBaseline- AT	所定の間隔における個別のネットワーク インターフェイスの着信バイト レートを監視します。管理対象ノード上の各ネットワーク インターフェイスで着信バイト数を個別に監視します。すべての間隔でネットワーク インターフェイスの各 インスタンスを個別に処理します。	

CPU パフォーマンス

CPU パフォーマンス アスペクトは、CPU 使用率やCPU 使用率のスパイクなど、全体的な CPU パフォーマンスを監視します。CPU パフォーマンスの監視には、合計 CPU 使用率、ユーザモードでの CPU 使用率、システム モードでの CPU 使用率、割り込み率が使用されます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_CPU SpikeCheck	このポリシー テンプレートは、プロセス パフォーマンスのばらつきを監視します。CPU スパイクとは、CPU 使用率が急増した直後に低減する現象です。このポリシー テンプレートは、ユーザモードとシステムモードで消費した CPU 時間を監視します。また、CPU がビジー状態の CPU 時間の合計も監視します。	測定値しきい値 テンプレート
	Sys_GlobalCPUUtilization-AT	管理対象ノード上の CPU のパフォーマンスを監視し、すべての CPU に対する使用率がしきい値レベルを超えた場合にアラートを送信します。	
	Sys_PerCPUUtilization-AT	管理対象ノード上の各 CPU の使用率を監視します。すべての間隔で各 CPU インスタンスを個別に処理します。	
	Sys_RunQueueLengthMonitor-AT	CPU の実行キューで待機中のプロセス数を監視し、実行キュー内のプロセス数がしきい値レベルを超えた場合にアラートを送信します。	

メモリとスワップの使用量

メモリとスワップの使用量アスペクトは、システムのメモリパフォーマンスを監視します。メモリパフォーマンスの監視は、メモリ使用率 (割合)、スワップ領域使用率 (割合)、使用可能な空きメモリ (MB)、使用可能な空きスワップ領域 (MB) に基づき行われます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_ MSWindowsNonPagedPoolUtilization-AT	非ページプールのメモリを監視します。非ページプールは、使用中でない場合でもディスクに書き込むことができないオブジェクトに対する物理システムメモリの領域です。	測定値しきい値テンプレート
	Sys_ MSWindowsPagedPoolUtilization-AT	ページプールのメモリを監視します。ページプールは、使用中でない場合にディスクに書き込むことができるオブジェクトに対する物理システムメモリの領域です。	
	Sys_MemoryUsageAndPerformance	このポリシーテンプレートはシステムのメモリ使用率を監視し、メモリにボトルネックがあるかどうかを判断するためのエラーレートと競合を表示します。	
	Sys_MemoryUtilization-AT	グローバルメモリ使用率を監視します。メモリ使用率は、当該間隔における使用中の物理メモリの割合です。これには、カーネル、バッファキャッシュ、ユーザメモリによって占有されるシステムメモリが含まれます。	

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
	Sys_SwapCapacityMonitor	このポリシーテンプレートは、システムのスワップ領域使用率を監視します。	
	Sys_SwapUtilization-AT	管理対象ノードでシステムによって使用されるグローバルスワップ領域を監視します。	

リモート ディスク領域 使用量

リモート ディスク領域 使用量 アスペクトは、リモート ディスク領域 の使用率を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer、 FileSystem	Sys_ LinuxCifsUtilizationMonitor	このポリシーテンプレートは、Linux プラットフォーム上の CIFS リモート ファイルシステムの領域使用率レベルを監視します。	測定値しきい値 テンプレート
	Sys_ LinuxNfsUtilizationMonitor	このポリシーテンプレートは、Linux プラットフォーム上の NFS リモート ファイルシステムの領域使用率レベルを監視します。	

リソース ボトルネック 診断

リソース ボトルネック 診断 アスペクトは、CPU、メモリ、ネットワークおよびディスクなどのシステム リソースの混雑 やボトルネックとなっている状態を特定します。CPU のボトルネック監視は、グローバル CPU 使用率と負荷平均 (実行キューの長さ) に基づいて行われます。メモリ ボトルネックの監視は、メモリ使用率、使用可能な空き容量、メモリスワップアウト率に基づいて行われます。ファイルシステムの監視は、ノード上の最もビジーなファイルシステムの領域使用率に基づいて行われます。ネットワークの監視は、パケット衝突率、パケット エラー率、送信キューの長さに基づいて行われます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_CPUBottleneckDiagnosis	このポリシーテンプレートは、CPU 使用率のしきい値超過、プロセッサのキューの長さ、システム上の CPU 合計数、オペレーティングシステムなど	測定値しきい値 テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
		のCPU ボトルネックを検出します。キューでCPU時間を待っているプロセス数のしきい値とともにCPU使用率のしきい値違反があった場合は、ポリシーから警告が送信されます。メッセージには、CPU使用率が高い上位10位までのプロセスの一覧も表示されます。	
Computer	Sys_DiskPeakUtilMonitor	このポリシーテンプレートは、システムのディスク使用率レベルを監視します。使用率が最大レベルかどうかをチェックします。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_MemoryBottleneckDiagnosis	このポリシーテンプレートは、物理メモリの使用率とボトルネックを監視します。メモリがボトルネックとなる状態は、メモリの使用率が高く、使用可能なメモリが極めて不足している場合に発生します。メモリボトルネックが発生すると、システムの処理速度が低下し、全体的なパフォーマンスに影響を与えます。メモリ消費量が高いとページアウトが過剰に発生し、ページ走査率やスワップアウト バイト率、ページの要求率が高くなります。最終的には、システムの処理速度が低下します。メッセージには、メモリ使用率が高い上位10位までのプロセスの一覧も表示されます。	測定値しきい値テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_ NetworkInterfaceErrorDiagnosis	このポリシー テンプレートはシステムのネットワーク使用率を監視し、潜在的なネットワークのボトルネックまたはエラーをチェックします。	測定値しきい値 テンプレート

空き領域とディスクIOPS

空き領域とディスクIOPS アスペクトは、システムのディスクI/O 操作と領域使用率を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_ FileSystemUtilizationMonitor	論理ファイルシステムのディスク容量を監視します。	測定値しきい値 テンプレート
	Sys_ PerDiskAvgServiceTime-AT	ディスクI/O サービス時間を監視します。ディスク平均サービス時間は、所定の時間内に各ディスク要求の処理にディスクが費やした時間です。このポリシーでは、ノードのHP Performance Agent が必要です。	
	Sys_PerDiskUtilization-AT	ディスクのマルチインスタンスベースラインを決定します。ディスク使用率は、システムでディスクが要求処理中状態だった時間の割合です。このポリシーでは、ノードのHP Performance Agent が必要です。	

システムフォールト分析

システムフォールト分析アスペクトは、クリティカルなエラー条件とその説明が記録されたカーネルログファイル、ブート ログファイル、イベント ログファイルを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_LinuxKernelLog	<p>カーネル ログ ファイル /var/log/ を監視し、カーネル サービスに障害が発生した場合に警告を送信します。カーネル ログ ファイルで、<*></p> <p>kernel:<@.service>:<*.msg> failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が警戒域の警告が送信されます。</p>	ログ ファイル エントリ テンプレート
Computer	Sys_LinuxBootLog	<p>このポリシー テンプレートはブート ログ ファイル /var/log/boot.log を監視し、システム ブート エラーが発生した場合に警告を送信します。以下の条件をチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>サービスの開始失敗 - ブート ログ ファイルで、<*></p> <p><@.service>:<@.daemon> startup failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が警戒域の警告が送信されます。</p> <p>サービスの失敗 - ログ ファイルで、<*> <@.service>:<*.msg> failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が危険域の警告が送信されます。</p> 	ログ ファイル エントリ テンプレート
Computer	Sys_LinuxSecureLog	<p>セキュリティで保護されたログインが失敗した場合、ユーザにアラートを送信します。<*> sshd :Failed password for <@.user> from <*.host> port <#> ssh2 と一致するエラー状態がないかチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が注意域の警告が送信されます。</p>	ログ ファイル エントリ テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_AIXErrptLog	errpt ログファイル /var/opt/OV/tmp/sispi/errpt.log を監視し、エラー ログのエントリからエラーレポートを作成します。errpt ログファイルの列ごとに、<@.errcode> <2#.mo><2#.dd><2#.hh><2#.mm><2#.yy> <@> <@> <@.object> <*.msgtext> と一致するエラー状態がないかチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が注意域の警告が送信されます。	ログファイルエントリテンプレート
Computer	Sys_MSWindowsServer_DNSWarnError	Microsoft DNS サーバサービスと関連プロセスのログファイルを監視し、重大度が注意域またはエラーのログ エントリを転送します。このポリシーは、DNS ログファイルに記録された以下のエラーを検索します。 <ul style="list-style-type: none"> • DNS サーバは、リソースレコード用にメモリを割り当てることができませんでした。 • DNS サーバは、利用可能なメモリが不足していたためクライアント要求を処理できませんでした。 • DNS サーバは、ゾーン転送スレッドを作成できませんでした。 • DNS サーバにファイル書き込みエラーが発生しました。 • DNS サーバは、リモート プロシージャコール (RPC) サービスを初期化できませんでした。 	Windows イベント ログテンプレート
Computer	Sys_MSWindowsServer_DHCPWarnError	DHCP イベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのイベント ログ エントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。 <ul style="list-style-type: none"> • lashlpr が NPS サービスと通信できません。 • スcopeまたはスーパースcopeの 	Windows イベント ログテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
		<p>BOOTP クライアントに使用できる IP アドレスはありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP サーバが、クライアントの NAP アクセス状態を判定するために NPS サーバにアクセスできません。 • スコープまたはスーパースコープのリースに使用できる IP アドレスはありません。 • DHCP サービスは監査ログの初期化に失敗しました。 • ローカルコンピュータの DHCP/BINL サービスは、開始権限がないと判断しました。 • このワークグループ サーバの DHCP/BINL サービスは、IP アドレスを持つ別のサーバを検出しました。 • DHCP サービスは DHCP のレジストリ構成の復元に失敗しました。 • DHCP サービスはレジストリからグローバル BOOTP ファイル名を読み取ることができませんでした。 • アクティブなインターフェイスがないため、DHCP サービスはクライアントにサービスを提供していません。 • DHCP サーバにバインドされた静的 IP アドレスがありません。 • DHCP サーバサービスがサービスコントローラへの登録に失敗しました。 • DHCP サーバサービスはレジストリパラメータの初期化に失敗しました。 	
Computer	Sys_		Windows イベ

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
	MSWindowsServer_ NFSWarnError	<p>NFS イベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのイベント ログ エントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ディスクの空き領域が少ないことを検出し、NFS サーバは監査の記録を停止しました。 監査ログが最大ファイルサイズに達しました。 NFS 用サーバをRPC ポート マップに登録できませんでした。 NFS サーバはフェーズ 2 の初期化中に NFS ドライバからエラーを受信しました。 	イベント ログテンプレート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ TerminalServiceWarnError	<p>ターミナル サービスのイベント ログで、重大度が注意域またはエラーのエントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ターミナルサーバは現在接続を受け入れないように構成されているため、接続要求が拒否されました。 認証が失敗したので自動再接続は失敗し、ユーザはセッションに再接続できませんでした。 ターミナル サービスの開始に失敗しました。 ターミナルサーバは多数の不完全な接続を受信しました。 	Windows イベント ログテンプレート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ WindowsLogonWarnError	<p>Windows ログオンと初期化のイベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのエラー ログ エントリを転送します。このポリシーは、Windows ログ ファイルに記録された以下のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows のライセンスが無効です。 	Windows イベント ログテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
		<ul style="list-style-type: none"> Windows のライセンス認証の手続きが失敗しました。 Windows のログオンプロセスによって、デスクトップを切り替えることができませんでした。 Windows のログオンプロセスは予期せぬ原因により終了しました。 Windows のログオンプロセスによって、ユーザアプリケーションを起動できませんでした。 Windows のログオンプロセスによって、現在ログオンしているユーザのプロセスを終了できませんでした。 Windows のログオンプロセスによって、ユーザセッションを切断できませんでした。 	

システム インフラストラクチャ検出

システム インフラストラクチャ検出 アスペクトは、管理対象ノードのシステムリソース、オペレーティングシステム、アプリケーションに関する情報を検出し、収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR	Operations Agent の xpl config ネームスペースでの OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR の設定に使用されます。Infrastructure SPI のポリシーを使用する場合は、この値を TRUE に設定します。	ノード情報テンプレート
	Sys_SystemDiscovery	ポリシー テンプレートは、ハードウェアリソース、オペレーティングシステムの属性、アプリケーションなどのサービス情報を管理対象ノードから収集します。	サービス自動検出テンプレート

詳細 Weblogic およびデータベース管理テンプレート

詳細 WebLogic およびデータベース管理テンプレートでは、WebLogic サーバのコンポーネントと、インフラストラクチャおよび Oracle データベースの基本コンポーネントを監視します。

詳細 Weblogic およびデータベース管理 テンプレートにアクセスする方法

1. [管理 テンプレート およびアスペクト] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理 テンプレート およびアスペクト] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理 テンプレート およびアスペクト] をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [管理 テンプレート] > [詳細 Weblogic およびデータベース管理 テンプレート] をクリックします。

ユーザ インターフェイスの参照情報

管理 テンプレート - 一般

管理 テンプレートの属性情報の概要。

UI 要素	説明
名前	詳細 WebLogic およびデータベース管理 テンプレート
説明	管理 テンプレートの説明。
ID	管理 テンプレートの GUI バージョンの管理 テンプレートを一意に特定する ID。
バージョン ID	このバージョンの管理 テンプレートの一意の ID。
バージョン	管理 テンプレートの現在のバージョン。このインスタンスでは、管理 テンプレートのバージョンは 1.1。
変更ログ	このバージョンの管理 テンプレートで行われた新規追加または変更の内容を示すテキスト。

管理 テンプレート - トポロジ ビュー

管理 テンプレートに割り当てる CI タイプの概要です。

UI 要素	説明
トポロジ ビュー	Weblogic_Deployment_View は、詳細 WebLogic およびデータベース管理 テンプレートのトポロジ ビューです。このビューには、管理 テンプレートを使用して管理する CI タイプが含まれます。
CI タイプ	詳細 WebLogic とデータベース管理で管理する CI のタイプ。これは、管理 テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプを表します。詳細 WebLogic およびデータベース管理 テンプレートには、WebLogic アプリケーション サーバ CI タイプが含まれます。

管理 テンプレート - アスペクト

詳細 WebLogic およびデータベース管理 テンプレートには、次のアスペクトが含まれます。

- [Weblogic 認証](#)
- [Weblogic ベース](#)
- [Weblogic キャッシュ使用率](#)
- [Weblogic クラスタ ステータス](#)
- [Weblogic EJB パフォーマンス](#)
- [Weblogic JCA 統計](#)
- [Weblogic JDBC 接続プールステータス](#)
- [Weblogic JMS パフォーマンス](#)
- [Weblogic JVM ヒープメモリ](#)
- [Weblogic Server ステータス](#)
- [Weblogic サブレット パフォーマンス](#)
- [Weblogic スレッド ステータス](#)
- [Weblogic トランザクション](#)
- [Weblogic Web アプリケーション ステータス](#)

詳細 WebLogic およびデータベース管理テンプレートには、インフラストラクチャ要素を監視するための以下のインフラストラクチャアスペクトが含まれます。

帯域幅使用量とネットワークIOPS

帯域幅使用量とネットワークIOPS アスペクトは、ネットワーク内のシステムのI/O操作とパフォーマンスを監視します。使用中の帯域幅、送信キューの長さ、平均転送バイト数/秒に基づき、ネットワークのI/Oオペレーションおよびパフォーマンスを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_ NetworkUsageAndPerformance	システムのネットワーク使用率を監視し、エラーレートと競合を表示します。これにより、ネットワークに潜在的なボトルネックがあるかどうかを判断できます。このポリシー テンプレートは、vMA マシンだけの物理 NIC を監視します。Windows オペレーティングシステムでは、BYNETIF_COLLISION メトリックを使用できないので、パッケージ競合に関するパフォーマンス データは監視しません。	測定値しきい値 テンプレート
	Sys_PerNetifInbyteBaseline-AT	所定の間隔でのネットワーク インターフェイスの送信バイト率を監視します。管理対象ノード上の各ネットワーク インターフェイスで発信バイト数を個別に監視します。すべての間隔でネットワーク インターフェイスの各 インスタンスを個別に処理します。	
	Sys_PerNetifOutbyteBaseline-AT	所定の間隔における個別のネットワーク インターフェイスの着信バイト レートを監視します。管理対象ノード上の各ネットワーク インターフェイスで着信バイト数を個別に監視します。すべての間隔でネットワーク インターフェイスの各 インスタンスを個別に処理します。	

CPU パフォーマンス

CPU パフォーマンス アスペクトは、CPU 使用率やCPU 使用率のスパイクなど、全体的な CPU パフォーマンスを監視します。CPU パフォーマンスの監視には、合計 CPU 使用率、ユーザモードでの CPU 使用率、システム モードでの CPU 使用率、割り込み率が使用されます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_CPU SpikeCheck	このポリシー テンプレートは、プロセス パフォーマンスのばらつきを監視します。CPU スパイクとは、CPU 使用率が急増した直後に低減する現象です。このポリシー テンプレートは、ユーザモードとシステムモードで消費した CPU 時間を監視します。また、CPU がビジー状態の CPU 時間の合計も監視します。	測定値しきい値 テンプレート
	Sys_GlobalCPUUtilization-AT	管理対象ノード上の CPU のパフォーマンスを監視し、すべての CPU に対する使用率がしきい値レベルを超えた場合にアラートを送信します。	
	Sys_PerCPUUtilization-AT	管理対象ノード上の各 CPU の使用率を監視します。すべての間隔で各 CPU インスタンスを個別に処理します。	
	Sys_RunQueueLengthMonitor-AT	CPU の実行キューで待機中のプロセス数を監視し、実行キュー内のプロセス数がしきい値レベルを超えた場合にアラートを送信します。	

メモリとスワップの使用量

メモリとスワップの使用量アスペクトは、システムのメモリパフォーマンスを監視します。メモリパフォーマンスの監視は、メモリ使用率 (割合)、スワップ領域使用率 (割合)、使用可能な空きメモリ (MB)、使用可能な空きスワップ領域 (MB) に基づき行われます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_ MSWindowsNonPagedPoolUtilization-AT	非ページプールのメモリを監視します。非ページプールは、使用中でない場合でもディスクに書き込むことができないオブジェクトに対する物理システムメモリの領域です。	測定値しきい値テンプレート
	Sys_ MSWindowsPagedPoolUtilization-AT	ページプールのメモリを監視します。ページプールは、使用中でない場合にディスクに書き込むことができるオブジェクトに対する物理システムメモリの領域です。	
	Sys_MemoryUsageAndPerformance	このポリシーテンプレートはシステムのメモリ使用率を監視し、メモリにボトルネックがあるかどうかを判断するためのエラーレートと競合を表示します。	
	Sys_MemoryUtilization-AT	グローバルメモリ使用率を監視します。メモリ使用率は、当該間隔における使用中の物理メモリの割合です。これには、カーネル、バッファキャッシュ、ユーザメモリによって占有されるシステムメモリが含まれます。	

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
	Sys_SwapCapacityMonitor	このポリシーテンプレートは、システムのスワップ領域使用率を監視します。	
	Sys_SwapUtilization-AT	管理対象ノードでシステムによって使用されるグローバルスワップ領域を監視します。	

リモート ディスク領域 使用量

リモート ディスク領域 使用量 アスペクトは、リモート ディスク領域 の使用率を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Computer、 FileSystem	Sys_ LinuxCifsUtilizationMonitor	このポリシーテンプレートは、Linux プラットフォーム上の CIFS リモート ファイルシステムの領域使用率レベルを監視します。	測定値しきい値 テンプレート
	Sys_ LinuxNfsUtilizationMonitor	このポリシーテンプレートは、Linux プラットフォーム上の NFS リモート ファイルシステムの領域使用率レベルを監視します。	

リソース ボトルネック 診断

リソース ボトルネック 診断 アスペクトは、CPU、メモリ、ネットワークおよびディスクなどのシステムリソースの混雑やボトルネックとなっている状態を特定します。CPU のボトルネック監視は、グローバル CPU 使用率と負荷平均 (実行キューの長さ) に基づいて行われます。メモリ ボトルネックの監視は、メモリ使用率、使用可能な空き容量、メモリスワップアウト率に基づいて行われます。ファイルシステムの監視は、ノード上の最もビジーなファイルシステムの領域使用率に基づいて行われます。ネットワークの監視は、パケット衝突率、パケット エラー率、送信キューの長さに基づいて行われます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_CPUBottleneckDiagnosis	このポリシーテンプレートは、CPU 使用率のしきい値超過、プロセッサのキューの長さ、システム上の CPU 合計数、オペレーティングシステムなどの CPU ボトルネックを検	測定値しきい値 テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
		出します。キューで CPU 時間を待っているプロセス数のしきい値とともに CPU 使用率のしきい値違反があった場合は、ポリシーから警告が送信されます。メッセージには、CPU 使用率が高い上位 10 位までのプロセスの一覧も表示されます。	
Computer	Sys_DiskPeakUtilMonitor	このポリシーテンプレートは、システムのディスク使用率レベルを監視します。使用率が最大レベルかどうかをチェックします。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_MemoryBottleneckDiagnosis	このポリシーテンプレートは、物理メモリの使用率とボトルネックを監視します。メモリがボトルネックとなる状態は、メモリの使用率が高く、使用可能なメモリが極めて不足している場合に発生します。メモリボトルネックが発生すると、システムの処理速度が低下し、全体的なパフォーマンスに影響を与えます。メモリ消費量が高いとページアウトが過剰に発生し、ページ走査率やスワップアウト バイト率、ページの要求率が高くなります。最終的には、システムの処理速度が低下します。メッセージには、メモリ使用率が高い上位 10 位までのプロセスの一覧も表示されます。	測定値しきい値テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_ NetworkInterfaceErrorDiagnosis	このポリシー テンプレートはシステムのネットワーク使用率を監視し、潜在的なネットワークのボトルネックまたはエラーをチェックします。	測定値しきい値 テンプレート

空き領域とディスクIOPS

空き領域とディスクIOPS アスペクトは、システムのディスクI/O 操作と領域使用率を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_ FileSystemUtilizationMonitor	論理ファイルシステムのディスク容量を監視します。	測定値しきい値 テンプレート
	Sys_ PerDiskAvgServiceTime-AT	ディスクI/O サービス時間を監視します。ディスク平均サービス時間は、所定の時間内に各ディスク要求の処理にディスクが費やした時間です。このポリシーでは、ノードのHP Performance Agent が必要です。	
	Sys_PerDiskUtilization-AT	ディスクのマルチインスタンスベースラインを決定します。ディスク使用率は、システムでディスクが要求処理中状態だった時間の割合です。このポリシーでは、ノードのHP Performance Agent が必要です。	

システムフォールト分析

システムフォールト分析アスペクトは、クリティカルなエラー条件とその説明が記録されたカーネルログファイル、ブート ログファイル、イベント ログファイルを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_LinuxKernelLog	カーネル ログ ファイル /var/log/ を監視し、カーネル サービスに障害が発生した場合に警告を送信します。カーネル ログ ファイルで、<*> kernel:<@.service>:<*.msg> failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が警戒域の警告が送信されます。	ログ ファイル エントリ テンプレート
Computer	Sys_LinuxBootLog	このポリシー テンプレートはブート ログ ファイル /var/log/boot.log を監視し、システム ブート エラーが発生した場合に警告を送信します。以下の条件をチェックします。 <ul style="list-style-type: none"> • サービスの開始失敗 - ブート ログ ファイルで、<*> <@.service>:<@.daemon> startup failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が警戒域の警告が送信されます。 • サービスの失敗 - ログ ファイルで、<*> <@.service>:<*.msg> failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が危険域の警告が送信されます。 	ログ ファイル エントリ テンプレート
Computer	Sys_LinuxSecureLog	セキュリティで保護されたログインが失敗した場合、ユーザにアラートを送信します。<*> sshd :Failed password for <@.user> from <*.host> port <#> ssh2 と一致するエラー状態がないかチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が注意域の警告が送信されます。	ログ ファイル エントリ テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_AIXErrptLog	errpt ログ ファイル /var/opt/OV/tmp/sispi/errpt.log を監視し、エラー ログのエントリからエ ラーレポートを作成します。errpt ログ ファイルの列ごとに、<@.errcode> <2#.mo><2#.dd><2#.hh><2#.mm><2 #.yy> <@> <@> <@.object> <*.msgtext> と一致するエラー状態が ないかチェックします。一致するものが見 つかった場合、この条件から重大度が 注意域の警告が送信されます。	ログファイルエ ントリテンプ レート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ DNSWarnError	Microsoft DNS サーバサービスと関連ブ ロセスのログファイルを監視し、重大度 が注意域またはエラーのログ エントリを 転送します。このポリシーは、DNS ログ ファイルに記録された以下のエラーを検 索します。 <ul style="list-style-type: none"> • DNS サーバは、リソースレコード用 にメモリを割り当てることができませ んでした。 • DNS サーバは、利用可能なメモリ が不足していたためクライアント要 求を処理できませんでした。 • DNS サーバは、ゾーン転送スレッド を作成できませんでした。 • DNS サーバにファイル書き込みエ ラーが発生しました。 • DNS サーバは、リモート プロシー ジャコール (RPC) サービスを初期化 できませんでした。 	Windows イベ ント ログテンプ レート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ DHCPWarnError	DHCP イベント ログを監視し、重大度 が注意域またはエラーのイベント ログエ ントリを転送します。このポリシーは、次 のエラーを検索します。 <ul style="list-style-type: none"> • lashlpr が NPS サービスと通信でき ません。 • スcopeまたはスーパースcopeの 	Windows イベ ント ログテンプ レート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
		<p>BOOTP クライアントに使用できる IP アドレスはありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP サーバが、クライアントの NAP アクセス状態を判定するために NPS サーバにアクセスできません。 • スcopeまたはスーパースcopeのリースに使用できる IP アドレスはありません。 • DHCP サービスは監査ログの初期化に失敗しました。 • ローカルコンピュータの DHCP/BINL サービスは、開始権限がないと判断しました。 • このワークグループ サーバの DHCP/BINL サービスは、IP アドレスを持つ別のサーバを検出しました。 • DHCP サービスは DHCP のレジストリ構成の復元に失敗しました。 • DHCP サービスはレジストリからグローバル BOOTP ファイル名を読み取ることができませんでした。 • アクティブなインターフェイスがないため、DHCP サービスはクライアントにサービスを提供していません。 • DHCP サーバにバインドされた静的 IP アドレスがありません。 • DHCP サーバサービスがサービスコントローラへの登録に失敗しました。 • DHCP サーバサービスはレジストリパラメータの初期化に失敗しました。 	
Computer	Sys_		Windows イベ

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
	MSWindowsServer_ NFSWarnError	<p>NFS イベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのイベント ログ エントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ディスクの空き領域が少ないことを検出し、NFS サーバは監査の記録を停止しました。 監査ログが最大ファイルサイズに達しました。 NFS 用サーバを RPC ポート マップに登録できませんでした。 NFS サーバはフェーズ 2 の初期化中に NFS ドライバからエラーを受信しました。 	イベント ログ テンプレート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ TerminalServiceWarnError	<p>ターミナル サービスのイベント ログで、重大度が注意域またはエラーのエントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ターミナルサーバは現在接続を受け入れないように構成されているため、接続要求が拒否されました。 認証が失敗したので自動再接続は失敗し、ユーザはセッションに再接続できませんでした。 ターミナル サービスの開始に失敗しました。 ターミナルサーバは多数の不完全な接続を受信しました。 	Windows イベント ログ テンプレート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ WindowsLogonWarnError	<p>Windows ログオンと初期化のイベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのエラー ログ エントリを転送します。このポリシーは、Windows ログ ファイルに記録された以下のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows のライセンスが無効です。 	Windows イベント ログ テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
		<ul style="list-style-type: none"> Windows のライセンス認証の手続きが失敗しました。 Windows のログオンプロセスによって、デスクトップを切り替えることができませんでした。 Windows のログオンプロセスは予期せぬ原因により終了しました。 Windows のログオンプロセスによって、ユーザアプリケーションを起動できませんでした。 Windows のログオンプロセスによって、現在ログオンしているユーザのプロセスを終了できませんでした。 Windows のログオンプロセスによって、ユーザセッションを切断できませんでした。 	

システム インフラストラクチャ検出

システム インフラストラクチャ検出 アスペクトは、管理対象ノードのシステムリソース、オペレーティングシステム、アプリケーションに関する情報を検出し、収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR	Operations Agent の xpl config ネームスペースでの OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR の設定に使用されます。Infrastructure SPI のポリシーを使用する場合は、この値を TRUE に設定します。	ノード情報テンプレート
	Sys_SystemDiscovery	ポリシー テンプレートは、ハードウェアリソース、オペレーティングシステムの属性、アプリケーションなどのサービス情報を管理対象ノードから収集します。	サービス自動検出テンプレート

詳細 WebLogic およびデータベース管理 テンプレートには、Oracle コンポーネントを監視するための以下の Oracle アスペクトが含まれます。

基本 Oracle ロック数およびラッチ数

このアスペクトは、Oracle ロック数の消費量 (割合) を監視し、セッション待ちロックカウントとラッチカウントの使用もチェックします。これは、基本タイプのアスペクトです。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ロールアップ メトリックとドリルダウン メトリック	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Oracle	OracleDB_0028	適用されません	全設定 DML ロック数に対する使用 DML ロック数の割合を監視します。	測定値しきい値テンプレート
	OracleDB_0029	適用されません	ロックの解放を待っているセッションの数を監視します。	
	DBSPI - 0043	適用されません	エンキュー要求に対するエンキュータイムアウトの割合を監視します。	

基本 Oracle メモリ パフォーマンス

このアスペクトは、Oracle メモリ ユニット (バッファ キャッシュ、共有 プール、およびライブラリ キャッシュ) を監視します。これは、基本タイプのアスペクトです。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ロールアップ メトリックとドリルダウン メトリック	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Oracle	OracleDB_0021	適用されません	論理読み取りに対するバッファビジー待機の割合を監視します。	測定値しきい値テンプレート
	OracleDB_0022	適用されません	全バッファキャッシュの割合を監視します。	
	OracleDB_0023	適用されません	現在のバッファキャッシュの割合を監視します。	
	OracleDB_0024	適用されません	エンキュー要求に対するエンキュー待機の割合を監視します。	
	OracleDB_0026	適用されません	ディクショナリキャッシュでのキャッシュの割合を監視します。	
	OracleDB_0027	適用されません	ライブラリキャッシュの割合を監視します。	
	OracleDB_0032	適用されません	REDO ログスペース要求の待機数を監視します。	
	OracleDB_0033	適用されません	REDO 割り当てラッチ失敗の割合を監視します。	
	OracleDB_0034	適用されません	REDO コピーラッチ失敗の割合を監視します。	
	OracleDB_0035	適用されません	完了したバックグラウンドチェックポイント率を監視します。	

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ロールアップ メトリックとドリルダウン メトリック	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
	OracleDB_0045	適用されません	空きプールメモリの割合を監視します。	
	OracleDB_0083	適用されません	DBWR チェックポイント率を監視します。	

基本 Oracle クエリ パフォーマンス

このアスペクトは、Oracle クエリのパフォーマンスを Oracle メトリック (経過時間および CPU 時間) をチェックして監視します。これは、基本タイプのアスペクトです。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ロールアップ メトリックとドリルダウン メトリック	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Oracle	OracleDB_0106	ロールアップ	各実行時の経過時間が長い SQL ステートメントを監視します。	測定値しきい値テンプレート
	OracleDB_0107	ロールアップ	各実行時の CPU 時間が長い SQL ステートメントを監視します。	
	OracleDB_0108	ロールアップ	全表走査を実行する SQL ステートメントを監視します。	
	OracleDB_0119	適用されません	高負荷な SQL ステートメントの数を監視します。	
	OracleDB_0306	ドリルダウン	各実行時の経過時間が長い SQL ステートメントを監視します。	
	OracleDB_0307	ドリルダウン	各実行時の CPU 時間が長い SQL ステートメントを監視します。	
	OracleDB_0308	ドリルダウン	全表走査を実行する SQL ステートメントを監視します。	

基本 Oracle セグメント領域

このアスペクトは、データベースストレージのユニット (セグメントおよびエクステンツ) を監視します。これは、基本タイプのアスペクトです。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ロールアップ メトリックとドリルダウン メトリック	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Oracle	OracleDB_0016	ロールアップ	拡張できないセグメントを監視します。	測定値しきい値テンプレート
	OracleDB_0215	適用されません	割り当てられるセグメントのサイズ (MB) を監視します。	
	OracleDB_0216	ドリルダウン	拡張できないセグメントを監視します。	

Oracle アーカイブ ヘルス

このアスペクトは、Oracle デバイスの領域、アーカイブの頻度率、アーカイブされていない REDO ログを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ロールアップ メトリックとドリルダウン メトリック	説明	ポリシー タイプ
Oracle	OracleDB_0056	適用されません	アーカイブ デバイスに収容可能なアーカイブログの数を監視します。	測定値しきい値テンプレート
	OracleDB_0057	適用されません	アーカイブ ログの書き込み間隔の平均時間 (分) を監視します。	
	OracleDB_0058	適用されません	アーカイブ デバイスの空き容量の割合を監視します。	
	OracleDB_0060	適用されません	アーカイブされていない REDO ログの数を監視します。	

Oracle データベース可用性

このアスペクトは、Oracle データベースの接続状況、プロセス、ログオンを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ロールアップ メトリックとドリルダウン メトリック	説明	ポリシー タイプ
Oracle	OracleDB_0001	適用されません	データベースステータスを監視します。	測定値しきい値テンプレート
	OracleDB_0002	適用されません	データベースプロセスチェックを監視します。	
	OracleDB_0037	適用されません	ログオン数を監視します。	ConfigFile テンプレート
	OracleDB_0082	適用されません	起動後の最大セッション数を監視します。	測定値しきい値テンプレート
	OracleDB_0087	適用されません	設定に対する現在のプロセスの割合を監視します。	
	OracleDB_0201	適用されません	稼働時間のレポート。	ConfigFile テンプレート
	OracleDB_ListenerStatus	適用されません	Oracle Listener のチェックと監視を行います。	ConfigFile テンプレート

Oracle 検出

このアスペクトは、Oracle インスタンス、RAC インスタンス、ASM インスタンスを検出します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ロールアップ メトリックとドリルダウン メトリック	説明	ポリシー タイプ
Computer および Oracle	OracleDB_Discovery	適用されません	このポリシーは、ノードで動作するインスタンスを検出します。	サービス自動検出テンプレート
	OracleDB_DeepDiscovery	適用されません	このポリシーは、管理対象ノード上のデータベース、表領域、データファイル、サービスを検出します。毎日1回実行するようスケジュールされています。	スケジュールされたタスク

Oracle IO パフォーマンス

このアスペクトは、Oracle インスタンスの物理読み取り率と論理読み取り率を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ロールアップ メトリックとドリルダウン メトリック	説明	ポリシー タイプ
Oracle	OracleDB_0086	適用されません	1分あたりの物理読み取り回数を監視します。	測定値しきい値テンプレート
	OracleDB_0088	適用されません	1分あたりの論理読み取り回数を監視します。	
	OracleDB_0213	適用されません	各表領域に対する最後の収集以降、ディスクに対して行われた物理的な読み書きの回数を監視します。	ConfigFile テンプレート

Oracle 表領域ヘルス

Oracle 表領域のアスペクトは、Oracle 表領域のステータス、データファイルのステータス、空き領域、セグメントを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ロールアップ メトリックとドリルダウン メトリック	説明	ポリシー タイプ
Oracle	OracleDB_0003	ロールアップ	空きエクステント数が少ない表領域の数を監視します。	測定値しきい値テンプレート
	OracleDB_0006	適用されません	空き領域の割合が小さい表領域の数を監視します。	
	OracleDB_0007	適用されません	オンラインではない表領域の数を監視します。	
	OracleDB_0008	適用されません	物理読み取りに対するブロック読み取りの割合が大きい表領域の数を監視します。	
	OracleDB_0009	適用されません	一時セグメントの使用が表領域全体に対して多すぎる表領域の数を監視します。	
	OracleDB_0011	適用されません	断片化された表領域の数を監視します。	
	OracleDB_0014	適用されません	オンラインではないデータファイルの数を監視します。	
	OracleDB_0203	ドリルダウン	空き領域が少ない表領域の数を監視します。	
	OracleDB_0206	ドリルダウン	空き領域が少ない表領域の数を監視します。	
	OracleDB_0210	適用されません	空きがある表領域と割り当てられた表領域のサイズ (MB) を監視します。	ConfigFile テンプレート

Oracle トランザクション

このアスペクトは、Oracle トランザクションの割合、コミット率、オープンカーソルを監視します。これは、基本 Oracle トランザクションのアスペクトの応用バージョンです。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	ロールアップ メトリックとドリルダウン メトリック	ポリシーの説明	ポリシー タイプ
Oracle	OracleDB_0031	適用されません	オープンカーソルの割合が最大設定数に達したユーザの数を監視します。	測定値しきい値 テンプレート
	OracleDB_0044	適用されません	トランザクション数を監視します。	ConfigFile テンプレート
	OracleDB_0049	適用されません	ユーザ呼び出し率を監視します。	
	OracleDB_0050	適用されません	ユーザ呼び出しに対する再帰呼び出し率を監視します。	測定値しきい値 テンプレート
	OracleDB_0054	適用されません	ロールバックの生成率を監視します。	
	OracleDB_0084	適用されません	長時間にわたるトランザクションを監視します。	
	OracleDB_0085	適用されません	設定に対する現在のトランザクションの割合を監視します。	

ハイブリッド Weblogic 管理テンプレート

ハイブリッド WebLogic 管理テンプレートでは、WebLogic サーバの主要コンポーネントと、インフラストラクチャの重要な部分である CPU、メモリ、ディスクを監視します。これには、WebLogic アプリケーションサーバポートおよびアプリケーション URL の可用性を監視するためのエージェントレス WebLogic アスペクトも含まれます。

ハイブリッド Weblogic 管理テンプレートにアクセスする方法

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [管理テンプレート] > [ハイブリッド Weblogic 管理テンプレート] をクリックします。

ユーザ インターフェイスの参照情報

管理テンプレート - 一般

管理テンプレートの属性情報の概要。

UI 要素	説明
名前	ハイブリッド Weblogic 管理テンプレート
説明	管理テンプレートの説明。
ID	管理テンプレートの GUI バージョンの管理テンプレートを一意に特定する ID。
バージョン ID	このバージョンの管理テンプレートの一意の ID。
バージョン	管理テンプレートの現在のバージョン。このインスタンスでは、管理テンプレートのバージョンは 1.1。
変更ログ	このバージョンの管理テンプレートで行われた新規追加または変更の内容を示すテキスト。

管理テンプレート - トポロジ ビュー

管理テンプレートに割り当てる CI タイプの概要です。

UI 要素	説明
トポロジ ビュー	Weblogic_Deployment_View は、ハイブリッド WebLogic 管理テンプレートのトポロジ ビューです。このビューには、管理テンプレートを使用して管理する CI タイプが含まれます。
CI タイプ	ハイブリッド WebLogic 管理テンプレートで管理する CI のタイプ。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプを表します。ハイブリッド WebLogic 管理テンプレートには、WebLogic アプリケーション サーバ CI タイプが含まれます。

管理テンプレート - アспект

ハイブリッド WebLogic 管理テンプレートには、次のアспектが含まれます。

- [Weblogic 可用性 \(エージェントレス\)](#)
- [Weblogic ベース](#)

- [Weblogic EJB パフォーマンス](#)
- [Weblogic JDBC 接続プールステータス](#)
- [Weblogic JVM ヒープメモリ](#)
- [Weblogic Server ステータス](#)
- [Weblogic サブプレット パフォーマンス](#)

ハイブリッド WebLogic 管理テンプレートには、インフラストラクチャ要素を監視するための以下のインフラストラクチャアスペクトが含まれます。

リソース ボトルネック診断

リソース ボトルネック診断アスペクトは、CPU、メモリ、ネットワークおよびディスクなどのシステムリソースの混雑やボトルネックとなっている状態を特定します。CPU のボトルネック監視は、グローバル CPU 使用率と負荷平均 (実行キューの長さ) に基づいて行われます。メモリボトルネックの監視は、メモリ使用率、使用可能な空き容量、メモリスワップアウト率に基づいて行われます。ファイルシステムの監視は、ノード上の最もビジーなファイルシステムの領域使用率に基づいて行われます。ネットワークの監視は、パケット衝突率、パケットエラー率、送信キューの長さに基づいて行われます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_CPUBottleneckDiagnosis	このポリシーテンプレートは、CPU 使用率のしきい値超過、プロセッサのキューの長さ、システム上の CPU 合計数、オペレーティングシステムなどの CPU ボトルネックを検出します。キューで CPU 時間を待っているプロセス数のしきい値とともに CPU 使用率のしきい値違反があった場合は、ポリシーから警告が送信されます。メッセージには、CPU 使用率が高い上位 10 位までのプロセスの一覧も表示されます。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_DiskPeakUtilMonitor	このポリシーテンプレートは、システムのディスク使用率レベルを監視します。使用率が最大レベルかどうかをチェックします。	測定値しきい値テンプレート
Computer	Sys_MemoryBottleneckDiagnosis	このポリシーテンプレート	測定値しきい値テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
		<p>は、物理メモリの使用率とボトルネックを監視します。メモリがボトルネックとなる状態は、メモリの使用率が高く、使用可能なメモリが極めて不足している場合に発生します。メモリボトルネックが発生すると、システムの処理速度が低下し、全体的なパフォーマンスに影響を与えます。メモリ消費量が高いとページアウトが過剰に発生し、ページ走査率やスワップアウト バイト率、ページの要求率が高くなります。最終的には、システムの処理速度が低下します。メッセージには、メモリ使用率が高い上位10位までのプロセスの一覧も表示されます。</p>	
Computer	Sys_ NetworkInterfaceErrorDiagnosis	<p>このポリシー テンプレートはシステムのネットワーク使用率を監視し、潜在的なネットワークのボトルネックまたはエラーをチェックします。</p>	測定値しきい値 テンプレート

システムフォールト分析

システムフォールト分析アスペクトは、クリティカルなエラー条件とその説明が記録されたカーネルログファイル、ブート ログファイル、イベント ログファイルを監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_LinuxKernelLog	<p>カーネル ログ ファイル /var/log/ を監視し、カーネル サービスに障害が発生した場合に警告を送信します。カーネル ログ ファイルで、<*></p> <p>kernel:<@.service>:<*.msg> failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が警戒域の警告が送信されます。</p>	ログ ファイル エントリ テンプレート
Computer	Sys_LinuxBootLog	<p>このポリシー テンプレートはブート ログ ファイル /var/log/boot.log を監視し、システム ブート エラーが発生した場合に警告を送信します。以下の条件をチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>サービスの開始失敗 - ブート ログ ファイルで、<*></p> <p><@.service>:<@.daemon> startup failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が警戒域の警告が送信されます。</p> <p>サービスの失敗 - ログ ファイルで、<*> <@.service>:<*.msg> failed のパターンと一致するエラー条件をチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が危険域の警告が送信されます。</p> 	ログ ファイル エントリ テンプレート
Computer	Sys_LinuxSecureLog	<p>セキュリティで保護されたログインが失敗した場合、ユーザにアラートを送信します。<*> sshd :Failed password for <@.user> from <*.host> port <#> ssh2 と一致するエラー状態がないかチェックします。一致するものが見つかった場合、この条件から重大度が注意域の警告が送信されます。</p>	ログ ファイル エントリ テンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	Sys_AIXErrptLog	errpt ログファイル /var/opt/OV/tmp/sispi/errpt.log を監視し、エラー ログのエントリからエ ラーレポートを作成します。errpt ログ ファイルの列ごとに、<@.errcode> <2#.mo><2#.dd><2#.hh><2#.mm><2 #.yy> <@> <@> <@.object> <*.msgtext> と一致するエラー状態が ないかチェックします。一致するものが見 つかった場合、この条件から重大度が 注意域の警告が送信されます。	ログファイルエ ントリテンプ レート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ DNSWarnError	Microsoft DNS サーバサービスと関連ブ ロセスのログファイルを監視し、重大度 が注意域またはエラーのログ エントリを 転送します。このポリシーは、DNS ログ ファイルに記録された以下のエラーを検 索します。 <ul style="list-style-type: none"> • DNS サーバは、リソースレコード用 にメモリを割り当てることができませ んでした。 • DNS サーバは、利用可能なメモリ が不足していたためクライアント要 求を処理できませんでした。 • DNS サーバは、ゾーン転送スレッド を作成できませんでした。 • DNS サーバにファイル書き込みエ ラーが発生しました。 • DNS サーバは、リモート プロシー ジャコール (RPC) サービスを初期化 できませんでした。 	Windows イベ ント ログテンプ レート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ DHCPWarnError	DHCP イベント ログを監視し、重大度 が注意域またはエラーのイベント ログエ ントリを転送します。このポリシーは、次 のエラーを検索します。 <ul style="list-style-type: none"> • lashlpr が NPS サービスと通信でき ません。 • スcopeまたはスーパースcopeの 	Windows イベ ント ログテンプ レート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
		<p>BOOTP クライアントに使用できる IP アドレスはありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP サーバが、クライアントの NAP アクセス状態を判定するために NPS サーバにアクセスできません。 • スcopeまたはスーパースcopeのリースに使用できる IP アドレスはありません。 • DHCP サービスは監査ログの初期化に失敗しました。 • ローカルコンピュータの DHCP/BINL サービスは、開始権限がないと判断しました。 • このワークグループ サーバの DHCP/BINL サービスは、IP アドレスを持つ別のサーバを検出しました。 • DHCP サービスは DHCP のレジストリ構成の復元に失敗しました。 • DHCP サービスはレジストリからグローバル BOOTP ファイル名を読み取ることができませんでした。 • アクティブなインターフェイスがないため、DHCP サービスはクライアントにサービスを提供していません。 • DHCP サーバにバインドされた静的 IP アドレスがありません。 • DHCP サーバサービスがサービスコントローラへの登録に失敗しました。 • DHCP サーバサービスはレジストリパラメータの初期化に失敗しました。 	
Computer	Sys_		Windows イベ

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
	MSWindowsServer_ NFSWarnError	<p>NFS イベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのイベント ログ エントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ディスクの空き領域が少ないことを検出し、NFS サーバは監査の記録を停止しました。 監査ログが最大ファイルサイズに達しました。 NFS 用サーバをRPC ポート マップに登録できませんでした。 NFS サーバはフェーズ 2 の初期化中に NFS ドライバからエラーを受信しました。 	イベント ログテンプレート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ TerminalServiceWarnError	<p>ターミナル サービスのイベント ログで、重大度が注意域またはエラーのエントリを転送します。このポリシーは、次のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ターミナルサーバは現在接続を受け入れないように構成されているため、接続要求が拒否されました。 認証が失敗したので自動接続は失敗し、ユーザはセッションに再接続できませんでした。 ターミナル サービスの開始に失敗しました。 ターミナルサーバは多数の不完全な接続を受信しました。 	Windows イベント ログテンプレート
Computer	Sys_ MSWindowsServer_ WindowsLogonWarnError	<p>Windows ログオンと初期化のイベント ログを監視し、重大度が注意域またはエラーのエラー ログ エントリを転送します。このポリシーは、Windows ログ ファイルに記録された以下のエラーを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows のライセンスが無効です。 	Windows イベント ログテンプレート

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
		<ul style="list-style-type: none"> Windows のライセンス認証の手続きが失敗しました。 Windows のログオンプロセスによって、デスクトップを切り替えることができませんでした。 Windows のログオンプロセスは予期せぬ原因により終了しました。 Windows のログオンプロセスによって、ユーザアプリケーションを起動できませんでした。 Windows のログオンプロセスによって、現在ログオンしているユーザのプロセスを終了できませんでした。 Windows のログオンプロセスによって、ユーザセッションを切断できませんでした。 	

システム インフラストラクチャ検出

システム インフラストラクチャ検出 アスペクトは、管理対象ノードのシステムリソース、オペレーティングシステム、アプリケーションに関する情報を検出し、収集します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	説明	ポリシー タイプ
Computer	OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR	Operations Agent の xpl config ネームスペースでの OPC_PERL_INCLUDE_INSTR_DIR の設定に使用されます。Infrastructure SPI のポリシーを使用する場合は、この値を TRUE に設定します。	ノード情報テンプレート
	Sys_SystemDiscovery	ポリシー テンプレートは、ハードウェアリソース、オペレーティングシステムの属性、アプリケーションなどのサービス情報を管理対象ノードから収集します。	サービス自動検出テンプレート

WebLogic アスペクト

WebLogic アスペクトは、環境内の WebLogic アプリケーション サーバの基本および詳細コンポーネントを監視するために使用します。

タスク

WebLogic アスペクトのアクセス方法

BSM では、次をクリックします。[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] > [構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [アスペクト]

OMi では、次をクリックします。[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] > [構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [アスペクト]

WebLogic アスペクトのデプロイ方法

WebLogic アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 6b: WebLogic アスペクトのデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク 6b: WebLogic アスペクトのデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。





WebLogic アスペクトの作成方法

WebLogic アスペクトを作成するには、以下の手順に従います。


1. 次の手順で [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。








BSM では、次をクリックします。[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] > [構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [アスペクト]

OMi では、次をクリックします。[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] > [構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [アスペクト]



2. [構成フォルダ] ペインで、新しいアスペクトを作成する構成フォルダをクリックします。新しい構成フォルダの作成が必要な場合は、 をクリックします。
3. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインで、 をクリックしてから、 をクリックします。[アスペクトの作成] ウィザードが開きます。
4. [一般] タブで、新しいアスペクトの一意の [名前] を入力します。[次へ] をクリックします。
5. 各アスペクトで、1 つ以上の構成アイテムのタイプの 1 つの機能または特性を管理できます。[CI タイプ] ページで、このアスペクトの割り当てが可能な [利用可能な CI タイプ] を 1 つ以上選択し、 をクリックして割り当て対象 CIT の一覧に追加します。(複数の CIT を選択するには、[CTRL] を押します。)

[次へ] をクリックします。


6. [インストルメンテーション] ページで  をクリックして、インストルメンテーションをアスペクトに追加します。[インストルメンテーションの追加] ダイアログボックスが開き、追加するインストルメンテーションを選択できます。[次へ] をクリックします。

7. (オプション)[アスペクト] ページで  をクリックしてから、 [既存アスペクトの追加] をクリックします。
[既存アスペクトの追加] ダイアログボックスが開き、このアスペクト内にネストする既存アスペクトを選択できます。アスペクトをクリックし、[OK] をクリックします。[次へ] をクリックします。
8. 適切なアスペクトが存在しない場合は  をクリックします。続いて、 [新規アスペクトの追加] をクリックしてここからアスペクトを作成します。
9. [ポリシー テンプレート] ページで、 をクリックします。[ポリシー テンプレートをアスペクトに追加] ダイアログボックスが開きます。追加するポリシー テンプレートを選択し、[OK] をクリックします。(複数のポリシー テンプレートを選択するには、[CTRL] を押します。)
10. 適切なポリシー テンプレートが存在しない場合は  をクリックします。続いて、 [新規ポリシー テンプレートの追加] をクリックしてここからアスペクトを作成します。
11. [ポリシー テンプレート] ページで、追加するポリシー テンプレートの [バージョン] を選択します。

注: ポリシー テンプレートへの各変更は、別のバージョンとしてデータベースに保存されます。アスペクトには、ポリシー テンプレートの特定のバージョンが含まれます。新しいバージョンのポリシー テンプレートが後で利用可能になり、そのテンプレートを使用する場合は、最新バージョンを含めてアスペクトを更新する必要があります。

12. (オプション)[ポリシー テンプレート] ページで、デプロイメント条件を追加するポリシー テンプレートをクリックし、 をクリックしてから、 [デプロイ条件の編集] をクリックします。[デプロイ条件の編集] ダイアログボックスが開き、選択したポリシー テンプレートのデプロイメント条件を指定できます。条件を設定し、[OK] をクリックします。[次へ] をクリックします。
13. [パラメータ] ページで、このアスペクトに追加したポリシー テンプレートにあるすべてのパラメータの一覧を参照できます。

パラメータを結合するには、以下の操作を行います。


- a. [CTRL] を押して、結合するパラメータをクリックします。
- b.  をクリックします。[パラメータの編集/結合] ダイアログボックスが開きます。
- c. 結合パラメータの [名前] を入力します。
- d. (オプション) 説明 および デフォルト値 を指定します。また、結合パラメータが [読み取り専用]、[エキスパート設定]、[非表示] のいずれかも指定します。

[読み取り専用] にすることで、CI にアスペクトを割り当てる際にパラメータ値が変更されないようにできます。[非表示] にしても変更を防げますが、パラメータも見えなくなります。割り当て時に、エキスパート設定を表示するかどうかを選択できます。

- e. 特定のデフォルト値を設定できるほか、[CI 属性から] をクリックして CI 属性を参照することもできます。CI 属性を指定する場合、Operations Management はこの CI 属性の実際の値を使用

して、ポリシーテンプレートのデプロイ時に自動的にパラメータ値を設定します。ここで、条件パラメータ値を設定することもできます。

f. **[OK]** をクリックします。

また、複数のパラメータを結合せずに編集し、ポリシーテンプレートのデフォルト値を上書きすることもできます。パラメータを1つクリックし、 をクリックします。[パラメータの編集/結合] ダイアログボックスが開きます。

14. [アスペクトの作成] ウィザードで **[完了]** をクリックし、アスペクトを保存してからウィザードを閉じます。新しいアスペクトが、[管理テンプレートおよびアスペクト] ペインに表示されます。

WebLogicのアスペクトの分類

WebLogic アスペクトはそれぞれ、WebLogic アプリケーション サーバの状況およびパフォーマンスの監視に使用するポリシーテンプレート、インストルメンテーション、パラメータで構成されます。

ユーザインターフェイスの参照情報

全般	WebLogic アスペクトの一般的な属性情報の概要。
CI タイプ	アスペクトの割り当てが可能な構成アイテムのタイプ。これは、アスペクトの割り当てが可能な CI のタイプを表します。WebLogic アスペクトには、Computer、Node、Cluster の CI タイプが含まれます。
インストルメンテーション	検出、収集、データログのバイナリを含むシングルパッケージを提供します。
アスペクト	WebLogic アスペクトに含まれるすべてのアスペクトの概要を提供します。WebLogic ベースアスペクトは、他のすべてのアスペクトの一部となっています。
ポリシーテンプレート	WebLogic アスペクトに含まれるポリシーテンプレートの概要を提供します。リストの各項目を展開して、ポリシーテンプレートの詳細を参照できます。

OMi MP for Oracle WebLogic は、以下の WebLogic アスペクトで構成されます。

Weblogic 認証

WebLogic Server のログイン試行と失敗をモニタします。

CI タイプ	ポリシーテンプレート	インジケータ	説明	ポリシータイプ
Weblogic AS	Weblogic_InvalidLoginAttemptsCount	ServerSessions: 高 / ServerSessions: 正常域	無効なログイン試行の数。	測定値しきい値

Weblogic 可用性 (エージェントレス)

エージェントレス監視機能を使用して、WebLogic アプリケーション サーバのポートとアプリケーション URL の可用性を監視します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_Application_Port_Availability (:Weblogic_Application_Server_Availability)	なし	WebLogic アプリケーション サーバのポートの可用性を監視します。	SiteScope
Weblogic AS	Weblogic_Application_URL_Availability (:Weblogic_Application_Server_Availability)	なし	WebLogic アプリケーション URL の可用性を監視します。	SiteScope

Weblogic ベース

WebLogic Server を監視するための基本アспектには、構成、メッセージ、スケジューラ、ロガーの各ポリシーが含まれます。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_LogTemplate	なし	Weblogic アプリケーション サーバのログ ファイルをモニタします。	ログファイル エントリ
Weblogic AS	Weblogic_Medium	なし	Weblogic コレクタ/アナライザを MEDIUM スケジュールごとに行います。	スケジュールされたタスク
Weblogic AS	Weblogic_MPLog	なし	Weblogic の Perl、検出、コレクタのログ ファイルをモニタします。	ログファイル エントリ
Weblogic AS	Weblogic_Messages	なし	WebLogic メッセージ インターセプタ。	オープン メッセージ インターフェイス

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_VeryHigh	なし	Weblogic コレクタ/アナライザを VERYHIGH スケジュールごとに実行します。	スケジュールされたタスク
Weblogic AS	Weblogic_High	なし	Weblogic コレクタ/アナライザを HIGH スケジュールごとに実行します。	スケジュールされたタスク
Weblogic AS	Weblogic_Low	なし	Weblogic コレクタ/アナライザを LOW スケジュールごとに実行します。	スケジュールタスクテンプレート

Weblogic キャッシュ使用率

WebLogic Server の XML キャッシュ使用率をモニタします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_PendingRequestCount	ThreadRequestsPending: 高 / ThreadRequestsPending: 正常域	保留状態の要求の数	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_DeferredRequestsCount	DeferredThreadRequests: 高 / DeferredThreadRequests: 正常域	遅延要求の数	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_XMLCacheDiskSize	なし	XML パーサでディスク上にキャッシュされた外部参照を含むエントリ数。	ConfigFile
Weblogic AS	Weblogic_RequestMaxWaitTime	ThreadRequestServiceTime: 高 / ThreadRequestServiceTime: 正常域	要求がスレッドを待つ最大時間。	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_XMLCacheMemorySize	なし	XML パーサでメモリ上にキャッシュされた外部参照を含むエントリの数。	ConfigFile
Weblogic AS	Weblogic_StandbyThreadCount	ThreadPoolAvailability: 低 / ThreadPoolAvailability: 正常域	スタンバイ プール内のスレッド数。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_PendingRequestPercentage	ThreadRequestsPending: 高 / ThreadRequestsPending: 正常域、 ThreadRequestsPending: 高 / ThreadRequestsPending: 正常域	保留状態の要求の割合。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_RequestWaitTimeforThread	ThreadRequestWaitTime: 高 / ThreadRequestWaitTime: 正常域	スレッド要求待ち時間。	測定値しきい値

Weblogic クラスタ ステータス

WebLogic Server のクラスタ環境をモニタします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_ClusterInMessageFailureRate	ClusterOutgoingMessageFailureRate: 高 / ClusterOutgoingMessageFailureRate: 正常域	1 分あたりにクラスタに再送されたマルチキャストメッセージの数。	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_ClusterOutMessageFailureRate	ClusterIncomingMessageFailureRate: 高 / ClusterIncomingMessageFailureRate: 正常域	サーバで失われた、クラスタからの1分あたりのマルチキャストメッセージ数。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ClusterHealthStatus	ClusterHealth: 問題あり / ClusterHealth: 正常域	クラスタの状況。	測定値しきい値

Weblogic 検出

WebLogic Server インスタンスを検出します。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Computer	Weblogic_MPLog	なし	Weblogic の Perl、検出、コレクタのログファイルを監視します。	ログファイルエントリ
Computer	Weblogic_Messages	なし	WebLogic メッセージインターセプタ。	オープン メッセージ インターフェイス
Computer	Weblogic_Configuration	なし	必須およびオプションの入力設定を消費する Weblogic 検出アスペクトの設定ポリシー。	ConfigFile
Computer	Weblogic_Discovery	なし	Weblogic 検出ポリシーは、Weblogic Server のドメイン、クラスタ、アプリケーションサーバと、デプロイされているアプリケーション、JDBC データソースを検出します。	サービス自動検出

Weblogic EJB パフォーマンス

WebLogic Server の EJB トランザクション、プールステータスをモニタします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_ EJBPoolWaitCount	EJBFreePoolWaitRate: 高 / EJBFreePoolWaitRate: 正常域	空きプールからEJB Beanを利用できなかった1分あたりの回数 (ドリルダウン)。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ EJBTransactionRollBackRate	EJBTransactionRollbackRate: 高 / EJBTransactionRollbackRate: 正常域	EJBトランザクションのロールバック率。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ EJBMissedCountRate	EJBMissedCountRate: 高 / EJBMissedCountRate: 正常域	空きプールからのインスタンスの取得試行が失敗した回数 (1分あたり)。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ EJBCacheHitPercentage	EJBPerformance: 低 / EJBPerformance: 正常域	使用中のキャッシュ内のEJBの割合。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ EJBTimeoutCount	EJBTimeoutRate: 高 / EJBTimeoutRate: 正常域	EJB Beanの待機中にクライアントがタイムアウトした1分あたりの回数。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ NumberEJBTransactionRollBackRate	EJBTransactionRollbackRate: 高 / EJBTransactionRollbackRate: 正常域	1秒当たりの、ロールバックされるEJBトランザクションの数。	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_ EJBDestroyedTotalCount	EJB: 注意域 / EJB: 正常域	プールからの bean インスタンスがプールからスローされたアプリケーション以外の例外によって破棄された合計回数。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ EJBTransactionsCount	EJBPerformance: 低 / EJBPerformance: 正常域	1秒当たりのEJBトランザクションの数。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_EJBTimeoutRate	EJBTimeoutRate: 高 / EJBTimeoutRate: 正常域	EJB Beanの待機中にクライアントがタイムアウトした1分あたりの回数 (ドリルダウン)。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ EJBTransactionThroughputRate	EJBTransactionThroughputRate: 高 / EJBTransactionThroughputRate: 正常域	EJBトランザクションのスループット率。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ EJBBeanUnavailableCount	EJB: 注意域 / EJB: 正常域	空きプールからEJB Beanを利用できなかった1分あたりの回数。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ SumOfEJBMissedCountRate	EJBTimeoutRate: 高 / EJBTimeoutRate: 正常域	空きプールからのインスタンスの取得試行が失敗した回数。	測定値しきい値

Weblogic JCA 統計

WebLogic Server の JCA ステータスをモニタします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_JCAConnectionsUtilizationPct	ConnectionsInUse: 高 / ConnectionsInUse: 正常域、ConnectionsInUse: 高 / ConnectionsInUse: 正常域	接続プール内の使用可能な JCA 接続の使用率。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ConnectionsDestroyedByErrorTotalCount	ConnectionsInUse: 高 / ConnectionsInUse: 正常域	エラー イベントを受信したために破棄された接続の数を返します。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_WaitSecondsHighCount	TransactionTime: 高 / TransactionTime: 正常域	接続プールがインスタンス化されてから、アプリケーションがこの接続プールのインスタンスからの接続を待った最大秒数を返します。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ConnectionsRejectedTotalCount	ConnectionsInUse: 高 / ConnectionsInUse: 正常域	プールがインスタンス化されてからこのコネクタプール内でコネクタ接続の拒否された要求の合計数を返します。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_NumWaitersCurrentCount	ConnectionsInUse: 重要警戒域 / ConnectionsInUse: 正常域	接続の待機数を返します。	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_RequestsWaitingForConnection	JDBCConnectionPool WaitCount: 高 / JDBCConnectionPool WaitCount: 正常域	接続プールからの接続を待機しているクライアントの数。	測定値しきい値

Weblogic JDBC 接続プールステータス

WebLogic Server の JDBC 接続の可用性と接続プールをモニタします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_FailuresToReconnectCount	DataSourceConnectionPool Availability: 低 / DataSourceConnectionPool Availability: 正常域	データソースがデータベース接続の更新を試行して失敗した回数。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_SumJDBCConnectionLeakRate	なし	接続プール内の閉じられていない JDBC 接続と最大アイドル時間を超えた JDBC 接続の数 (1 分あたり)。	ConfigFile
Weblogic AS	Weblogic_JDBCConnectionPoolThroughputRate	なし	接続プールによって処理されたクライアントの数 (1 秒あたり)。	ConfigFile
Weblogic AS	Weblogic_ConnectionDelayTime	DataSourceConnectionPool Availability: 低 / DataSourceConnectionPool Availability: 正常域	JDBC 接続プールの接続遅延 (ミリ秒)。	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_JDBCConnectionLeakRate	DataSourceLeakedConnectionsRate: 高 / DataSourceLeakedConnectionsRate: 正常域	JDBC 接続プールのリークした接続の割合。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_JDBCConnectionPoolUtilization	DataSourceConnectionPoolUtilization: 高 / DataSourceConnectionPoolUtilization: 正常域、DataSourceConnectionPoolUtilization: 高 / DataSourceConnectionPoolUtilization: 正常域	接続プール内の使用可能な JDBC 接続の使用率。	測定値しきい値

Weblogic JMS パフォーマンス

WebLogic Server の JMS 使用率とパフォーマンスをモニタします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_JMSMessagesThresholdTime	JMS: 注意域 / JMS: 正常域	サーバで設定したしきい値条件に達した時間の割合 (メッセージ数ベース)。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_JMSBytesThresholdTimePercentage	JMS: 注意域 / JMS: 正常域	サーバで設定したしきい値条件に達した時間の割合 (総バイト数ベース)。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_JMSUtilizationByMessagesPercentage	JMServerUtilization: 高 / JMServerUtilization: 正常域、JMServerUtilization: 高 / JMServerUtilization: 正常域	JMS サーバキューの使用割合 (メッセージ数に基づく)。	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_ JMSUtilizationByBytesPercentage	JMServerUtilization: 高 / JMServerUtilization: 正常域、 JMServerUtilization: 高 / JMServerUtilization: 正常域	いっぱいになった JMS サーバの割合 (総バイト数ベース)。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ JMServerThruMessageRate	なし	JMS サーバを通過したメッセージの数 (1秒あたり)。	ConfigFile
Weblogic AS	Weblogic_ JMServerThruByteRate	なし	JMS サーバを通過したバイト数 (1秒あたり)。	ConfigFile

Weblogic JVM ヒープ メモリ

WebLogic Server の JVM パラメータをモニタします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_ GarbageCollectionTime	TotalGarbageCollectionTime: 高 / TotalGarbageCollectionTime: 正常域	合計ガベージコレクション時間。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ GarbageCollectionCount	TotalGarbageCollectionCount: 高 / TotalGarbageCollectionCount: 正常域	合計ガベージコレクション回数。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ ProcessorsAverageLoad	AllProcessorsAverageLoad: 高 / AllProcessorsAverageLoad: 正常域	全プロセッサ平均負荷。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ GarbageCollectionThread	TotalNumberOfThreads: 高 / TotalNumberOfThreads: 正常域	合計ガベージコレクションスレッド数。	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_JVMHeapFreeMemory	なし	JVM ヒープの空きメモリ (KB)。	ConfigFile
Weblogic AS	Weblogic_JVMHeapUsage	JVMMemoryUtilization: 高 / JVMMemoryUtilization: 正常域、 JVMMemoryUtilization: 高 / JVMMemoryUtilization: 正常域	JVM で使用されるヒープ領域の割合。	測定値しきい値

WeblogicServer ステータス

WebLogic Server の可用性とパフォーマンスをモニタします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_ServerStatus	ServerStatus: 利用不可 / ServerStatus: 利用可能、 ServerStatus: 利用不可 / ServerStatus: 利用可能	サーバのステータスをモニタします。	測定値しきい値

Weblogic サブレット パフォーマンス

WebLogic Server の Web アプリケーションのサブレット セッションをモニタします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_ExecuteQThreadsInUse	ThreadPoolUtilization: 高 / ThreadPoolUtilization: 正常域、 ThreadPoolUtilization: 高 / ThreadPoolUtilization: 正常域、 ThreadPoolUtilization: 高 / ThreadPoolUtilization: 正常域	サーバ実行キューの使用 中スレッドの割合。 Weblogic Server バージョン 9.x および 10.x の場合、実行キューは1つだけです。	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_ SocketTrafficRate	なし	開かれたソケット接続の数 (1 秒あたり)。	ConfigFile
Weblogic AS	Weblogic_ ServletAverageExecution Time	ServletPerformance: 低 / ServletPerformance: 正常域	サーブレットの平均実行時間 (ミリ秒)。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ ServletRequestRate	ServletRequests: 高 / ServletRequests: 正常域	サーブレットに対する要求回数 (1 秒あたり)。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ ExecuteQMetricMonitors	ExecuteQueueWaitC ount: 高 / ExecuteQueueWaitC ount: 正常域	このメトリックは、各サーバの実行キューとそれに関連付けられたスレッド プールをモニタします。このメトリックは特に、処理を待っているクライアント要求の数をモニタします。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ ExecutionQueueThroughp utRate	なし	実行キューによって処理された要求の数 (1 秒あたり)。	ConfigFile

Weblogic スレッド ステータス

WebLogic Server のスレッド ステータスをモニタします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_ ThreadPoolOverloadCon dition	ThreadPoolUtilizatio n: 高 / ThreadPoolUtilizatio n: 正常域	一般スレッドプールの過負荷条件を示します。	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_RequestWaitTimeforThread	ThreadRequestWaitTime: 高 / ThreadRequestWaitTime: 正常域	スレッド要求待ち時間。	測定値しきい値

Weblogic トランザクション

WebLogic Server のトランザクション アクティビティをモニタします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_TransactionSystemErrorRollbackPercentage	TransactionSystemErrors: 高 / TransactionSystemErrors: 正常域	システムエラーのためにロールバックされたトランザクションの割合。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_TransactionRollbackPercentage	TransactionsRolledBack: 高 / TransactionsRolledBack: 正常域	ロールバックされたトランザクションの割合 (合計に基づく)。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_TransactionAppErrorRollbackPercentage	TransactionApplicationErrors: 高 / TransactionApplicationErrors: 正常域	アプリケーションエラーのためにロールバックされたトランザクションの割合。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_TransactionAverageTime	TransactionTime: 高 / TransactionTime: 正常域	トランザクションの平均コミット時間。	測定値しきい値

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_ TransactionCapacityUtilization Pct	TransactionCapacity Utilization: 高 / TransactionCapacity Utilization: 正常域、 TransactionCapacity Utilization: 高 / TransactionCapacity Utilization: 正常域	トランザクション容量の使用割合。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ TransactionHeuristicsTotalCount	JTA: 注意域 / JTA: 正常域	ヒューリスティック決定を返したトランザクションの割合。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ TransactionTimeErrorRollbackPercentage	TransactionTimeoutErrors: 高 / TransactionTimeoutErrors: 正常域	タイムアウトエラーのためにロールバックされたトランザクションの割合。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ TransactionThroughputRate	なし	処理されたトランザクションの数 (1秒あたり)。	ConfigFile
Weblogic AS	Weblogic_ TransactionResErrorRollbackPercentage	TransactionResource Errors: 高 / TransactionResource Errors: 正常域	リソースエラーのためにロールバックされたトランザクションの割合。	測定値しきい値

Weblogic Web アプリケーション ステータス

WebLogic Server のデプロイ済み Web アプリケーションの可用性をモニタします。

CI タイプ	ポリシー テンプレート	インジケータ	説明	ポリシー タイプ
Weblogic AS	Weblogic_ WebApplicationSessionsCount	HTTPSession s: 高 / HTTPSession s: 正常域	Web アプリケーションのオープンセッションの数。	測定値しきい値
Weblogic AS	Weblogic_ WebApplicationHitRate	なし	Web アプリケーションのオープンセッションの数 (1 秒あたり)。	ConfigFile

パラメータ

パラメータは、WebLogic 管理テンプレート、アスペクト、ポリシーテンプレートに不可欠なコンポーネントとなる変数です。各パラメータは1つの変数に対応します。パラメータにはデフォルト値が設定され、WebLogic アプリケーション サーバの各種コンポーネントの監視に使用されます。また、監視要件に合うように変数の値を変更することもできます。

パラメータの分類

パラメータ	パラメータタイプ	説明	デフォルト値
Weblogic Server ホーム	インスタンス	WebLogic Server ホーム。	
Weblogic JAVA ホーム	オプション	WebLogic JAVA ホーム。	
Weblogic ユーザ名	必須	管理データの収集に必要な管理者権限を持つ WebLogic ユーザ名。	
Weblogic パスワード	必須	WebLogic Server ユーザ名のパスワード。	
Weblogic キーストアのパス	オプション	WebLogic キーストアのパス。	
Weblogic パスフレーズのパスワード	オプション	WebLogic パスフレーズ。	
JMX 収集 (t3/t3s) 用 Weblogic プロトコル	オプション	JMX 収集 (t3/t3s) 用 WebLogic プロトコル。	

WeblogicドメインのXMLファイルパス	従属	WebLogicドメインのXMLファイルパス。	
Weblogicアプリケーションサーバのポート番号	オプション	WebLogicアプリケーションサーバのポート番号。	
アプリケーションインスタンス	オプション	データを取得するWeblogic Server Application インスタンス。	CI 名
WebLogic MP ログテンプレートの頻度	オプション	定義されたパターンで Weblogic_MPLog ファイルをモニタする頻度 (秒単位)。	30 秒
Weblogic ログテンプレートの頻度	オプション	定義されたパターンで Weblogic ログテンプレートをモニタする頻度 (秒単位)。	30 秒
VeryHigh スケジューラの頻度	オプション	極めて短い間隔で実行されるスケジューラの頻度 (分単位)。	5 分
High スケジューラの頻度	オプション	短い間隔で実行されるスケジューラの頻度 (分単位)。	15 分
Medium スケジューラの頻度	オプション	中程度の間隔で実行されるスケジューラの頻度 (時間単位)。	1 時間
Low スケジューラの頻度	オプション	長い間隔で実行されるスケジューラの頻度 (時間)。	24 時間

パラメータの調整



WebLogic アプリケーション サーバ CI にデプロイ済みの WebLogic 管理 テンプレートおよびアスペクトのパラメータは編集が可能です。

1. 次の手順で [割り当ておよび調整] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [割り当ておよび調整] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [割り当ておよび調整] をクリックします。

2. [ビューの参照] タブで、パラメータをチューニングする WebLogic アプリケーション サーバ CI を含む **Weblogic_Deployment_View** を選択します。または、[検索] タブを使用して CI を検索できます。
3. WebLogic アプリケーション サーバ CI のリストで、CI をクリックします。[割り当て] ペインに、その CI に対する既存の割り当ての詳細が表示されます。

4. パラメータを調整する割り当てをクリックします。[割り当ての詳細] ペインに、現在のパラメータ値が表示されます。
5. [割り当て詳細] ペインで、パラメータを変更します。
 - a. オプション: デフォルトでは、リストには必須パラメータのみ表示されます。すべてのパラメータを参照するには、 をクリックします。
 - b. リストのパラメータを選択して、 をクリックします。
 - i. 標準パラメータの場合、[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。

[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。
 - ii. インスタンスパラメータの場合、[インスタンスパラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。

必要に応じてインスタンス値を変更したら、各インスタンス値の従属パラメータ値も変更します。インスタンス値と従属パラメータ値を変更したら、[OK] をクリックします。
6. [割り当ての詳細] ペインで、[変更を保存] をクリックします。Operations Management によって、新しいパラメータ値が関連する HP Operations Agent にデプロイされます。

ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー

ビューでは、RTSM モデル全体のサブセットを作成し、表示することができます。OMi MP for Oracle WebLogic のビューにより、監視する WebLogic Server 環境のトポロジを表示できます。OMi MP for Oracle WebLogic のビューを使用して、WebLogic 検出アスペクトを使用して検出した WebLogic アプリケーション サーバCI のイベント パースペクティブおよび状況 パースペクティブの表示と管理を行うことができます。また、WebLogic アプリケーション サーバ環境内の OMi MP for Oracle WebLogic の割り当ておよび調整も可能です。

RTSM ビューにアクセスする方法

1. [モデリングスタジオ] ペインを開きます。

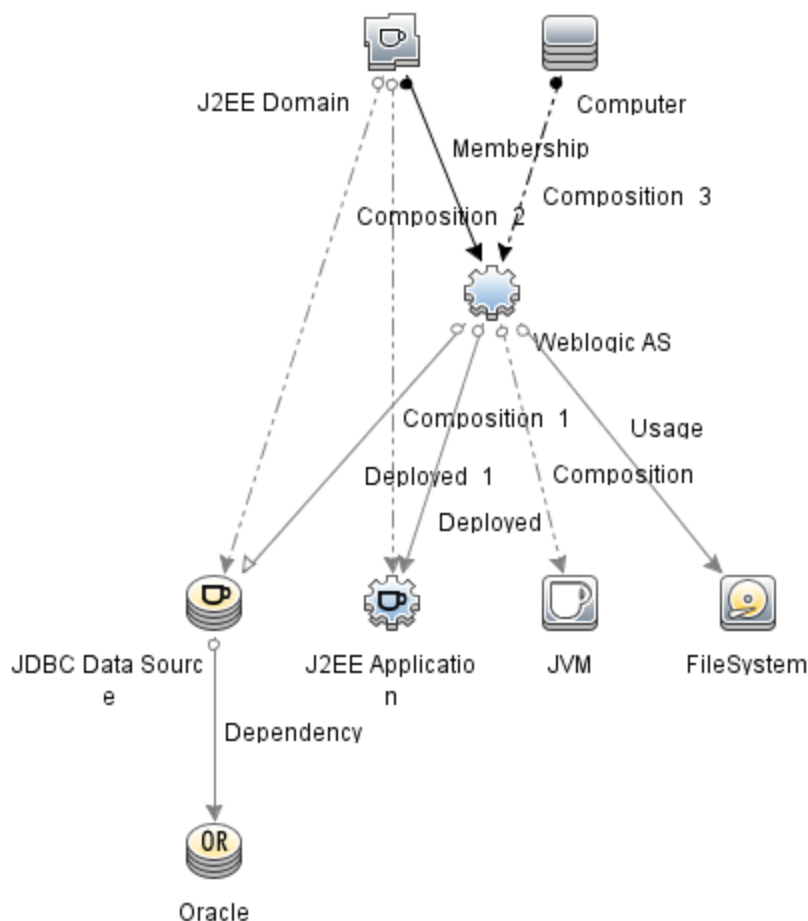
OMi では、[管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [モデリングスタジオ] をクリックします。

BSM では、[管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [モデリングスタジオ] をクリックします。
2. ビューで [リソース タイプ] をクリックします。
3. [オペレーション管理] > [J2EE アプリケーション サーバ] をクリックします。

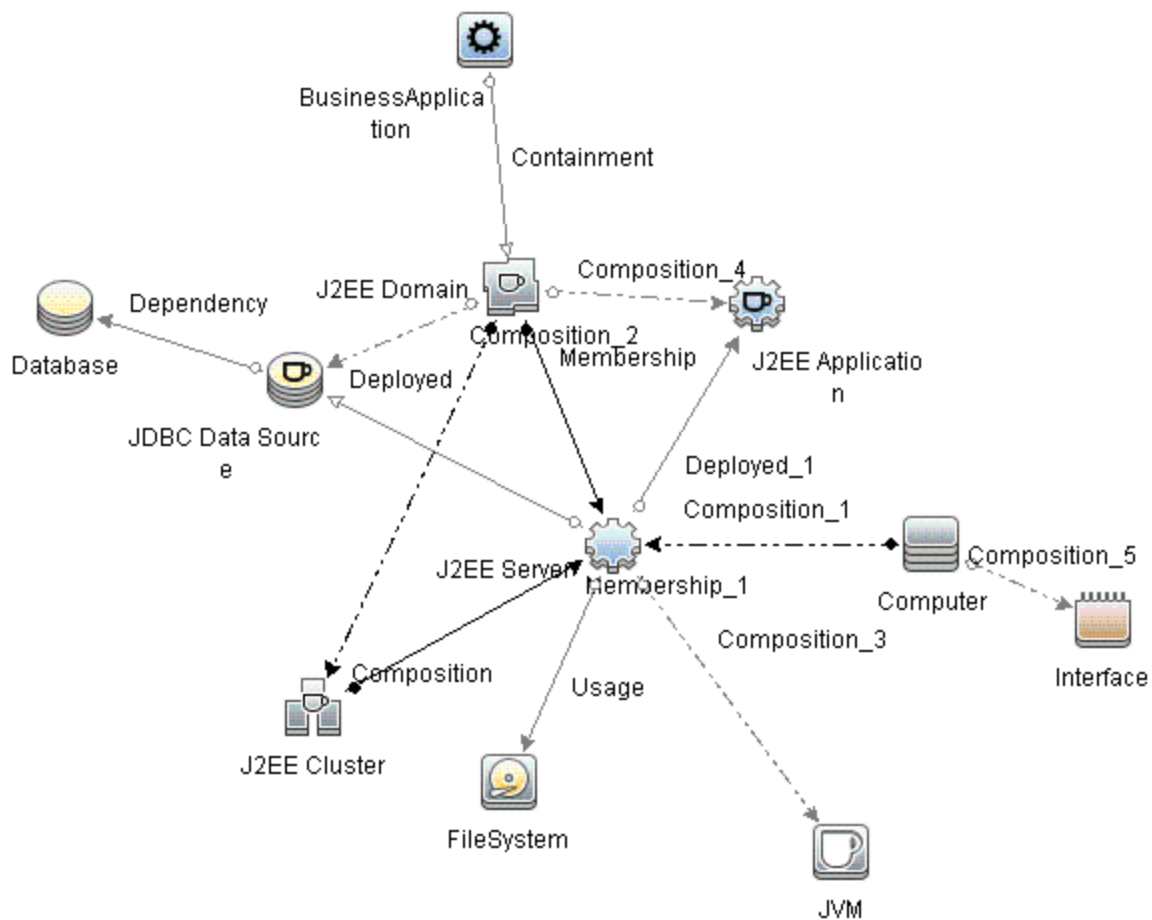
デフォルトでは、OMi MP for Oracle WebLogic には次のビューが含まれています。

- **Weblogic_Deployment_View:** このビューでは、J2EE Application、J2EE Domain、JDBC Data Source、Computer、および Oracle の CI タイプを参照します。Weblogic_Deployment_View では、環境内の WebLogic アプリケーション サーバCI のイベントおよび状況 パースペクティブを表示できます。ま

た、WebLogic アプリケーション サーバ環境内の OMi MP for Oracle WebLogic デプロイの割り当ておよびチューニングにも Weblogic_Deployment_View の使用が可能です。さらに、このビューは WebLogic アプリケーション サーバ、Oracle インスタンス、およびインフラストラクチャ要素を複合アプリケーションとして監視するのにも使用できます。次の図は上記の CI タイプの関係を示します。



- **J2EE_Deployment:** このビューでは、J2EE Cluster、J2EE Domain、JDBC Data Source、J2EE Application、Database、および Computer の CI タイプを参照します。J2EE_Deployment ビューでは、監視する WebLogic アプリケーション サーバ CI のイベントおよび状況パースペクティブを表示できます。J2EE_Deployment ビューを使用して、監視対象の WebLogic アプリケーション サーバに固有のイベントを表示できます。また、WebLogic アプリケーション サーバ環境内の OMi MP for Oracle WebLogic デプロイの割り当ておよび調整にも J2EE_Deployment ビューの使用が可能です。次の図は上記の CI タイプの関係を示します。



- **J2EE_Network_Deployment_View:** このビューでは、J2EE Cluster、J2EE Domain、J2EE Server、JDBC Data Source、J2EE Application、Database、および File System のCI タイプを参照します。J2EE_Network_Deployment_View では、環境内の監視対象のWebLogic アプリケーション サーバ CI のほか、関連付けられているネットワークのコンポーネントを表示できます。次の図は上記のCI タイプの関係を示します。

ETI にアクセスする方法

[インジケータ] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [インジケータ] をクリックします。

OMi では、[管理] [サービス状況] > [CI ステータスの計算] > [状況インジケータとイベント タイプ インジケータ] をクリックします。

OMi MP for Oracle WebLogic には、WebLogic アプリケーション サーバ関連 イベントを監視する次の ETI が含まれます。

CI タイプ	ETI	説明	値
J2EE Server	Active Sockets Count	サーバに対して開かれている HTTP ソケット接続の数。	高、正常域
	Execute Queue Wait Count	実行キューによるサービスを待っているクライアント要求の数。	高、正常域
	Threads Request Pending	利用可能なスレッドを待つために保留中の要求。	高、正常域
	Server Sessions	このサーバに対して開かれているセッションの数。	高、正常域
JVM	Total Garbage Collection Count	ガベージ コレクタが実行された回数。	高、正常域
	Total Garbage Collection Time	ガベージ コレクションにかかった合計時間。	高、正常域
	Total Number of Threads	ガベージ コレクションに使用された合計スレッド数。	高、正常域
J2EE Application	Servlet Requests	サーブレットに対する受信要求の数。	高、正常域
	HTTP Sessions	開かれているサーブレット セッションの数。	高、正常域
	EJB Concurrent Lives	プール内の Bean オブジェクトの平均数。	高、正常域
JDBC	Datasource Connection Waiters	接続プールからの接続を待っているスレッドの平均数。	高、正常域

状況インジケータ (HI)

HI は WebLogic アプリケーション サーバで発生するイベントを分析し、WebLogic アプリケーション サーバ CI の状況をレポートします。

HI にアクセスする方法

[インジケータ] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [インジケータ] をクリックします。

OMi では、[管理] [サービス状況] > [CI ステータスの計算] > [状況インジケータとイベント タイプ インジケータ] をクリックします。

OMi MP for Oracle WebLogic では、WebLogic アプリケーション サーバ関連イベントを監視するインジケータとして、次の状況インジケータ (HI) が提供されています。

CI タイプ	HI	説明	値
J2EE Server	Active Sockets Count	サーバに対して開かれている HTTP ソケット接続の数。	高、正常域
J2EE Server	Application Server Load	アプリケーション サーバの負荷。	高、正常域
J2EE Server	Deferred Thread Requests	max-threads-constraint 制約のために実行用スレッドを拒否された要求の数。	高、正常域
J2EE Server	HTTP Request Average Service Time	1つのHTTP 要求のサービスにかかった平均時間。	高、正常域
J2EE Server	HTTP Request Total Service Time	HTTP 要求のサービスにかかった合計時間。	高、正常域
J2EE Server	HTTP Server Active Connections	現在開かれている接続の数。	高、正常域
J2EE Server	HTTP Server Active Request	現在要求処理フェーズにある子サーバ。	高、正常域
J2EE Server	HTTP Server Connection Time	HTTP 接続のサービスにかかった合計時間。	高、正常域
J2EE Server	JMS Active Connection Count	アクティブな JMS 接続の数。	高、正常域

CI タイプ	HI	説明	値
J2EE Server	JMS Server Utilization	JMS サーバキューの使用率。	高、正常域
J2EE Server	Oracle Web Cache Average Latency Current Interval	Oracle Web キャッシュ要求の処理の10秒間隔での平均待ち時間。	高、正常域
J2EE Server	Oracle Web Cache Latency Since Start	アプリケーション Web サーバの起動後に Oracle Web キャッシュ要求の処理にかかった平均時間 (秒)。	高、正常域
J2EE Server	Server Sessions	このサーバに対して開かれているセッションの数。	高、正常域
J2EE Server	Server Status	可用性に関するサーバステータスを示します。	利用不可、利用可能
J2EE Server	Servlets Loaded	Web アプリケーションで現在ロードされているサーブレットの数 (サーバごとの累計値)。	高、正常域
J2EE Server	Thread Hung Rate	スレッドがハングしていると宣言された率。	高、正常域
J2EE Server	Thread Pool Availability	スレッド プール内のスレッドの可用性。	低、正常域
J2EE Server	Thread Pool Utilization	サーバでタスクの実行のために使用されたスレッドの数。	高、正常域
J2EE Server	Thread Request Service Time	要求がスレッドを待つ時間。	高、正常域
J2EE Server	Thread Request Wait Time	要求がスレッドを待った時間 (ミリ秒)。	高、正常域
J2EE Server	Threads Request Pending	利用可能なスレッドを待つために保留中の要求。	高、正常域
J2EE Server	Transaction Application Errors	アプリケーション エラーによるトランザクション エラー。	高、正常域
J2EE Server	Transaction Capacity Utilization	進行中の同時トランザクションの数。	高、正常域
J2EE Server	Transaction Commit Rate	コミットされたトランザクションの数 (1 秒あたり)。	高、正常域

CI タイプ	HI	説明	値
J2EE Server	Transaction Resource Errors	システム リソース エラーのために発生したトランザクション エラー。	高、正常域
J2EE Server	Transaction Rollback Rate	システム、リソース、またはその他のためにロールバックされたトランザクションの数。	高、正常域
J2EE Server	Transaction Start Rate	開始されたトランザクションの数 (1 秒あたり)。	高、正常域
J2EE Server	Transaction System Errors	システム エラーのために発生したトランザクション エラー。	高、正常域
J2EE Server	Transaction Time	トランザクションの完了までにかかった時間。	高、正常域
J2EE Server	Transaction Timeout Errors	トランザクションのタイムアウトによって生じたトランザクション エラー。	高、正常域
J2EE Server	Transaction Timeout Rate	タイムアウトしたトランザクションの数 (1 秒あたり)。	高、正常域
J2EE Server	Transactions Rolled Back	システム、リソース、またはその他のエラーのためにロールバックされたトランザクションの数/割合。	高、正常域
J2EE Server	EJB Concurrent Lives	プール内の Bean オブジェクトの平均数。	高、正常域
J2EE Server	EJB Utilization	EJB プールの使用率。	高、正常域
J2EE Server	Execute Queue Wait Count	実行キューによるサービスを待っているクライアント要求の数。	高、正常域
J2EE Server	HTTP Sessions	開かれている HTTP セッションの数。	高、正常域
J2EE Server	EJB Missed Count Rate	空きプールからのインスタンスの取得試行が失敗した合計回数。	高、正常域
J2EE Server	EJB Free Pool Wait Rate	空きプールから EJB が利用できなかった回数 (1 分あたり)。	高、正常域
J2EE Server	EJB Performance	キャッシュ使用率などのパフォーマンス統計。	低、正常域
J2EE Server	EJB Timeout Rate	クライアントが EJB を待つタイムアウトした回数 (1 分あたり)。	高、正常域

CI タイプ	HI	説明	値
J2EE Server	EJB Transaction Rollback Rate	単位時間内にロールバックされた EJB トランザクションの数。	高、正常域
J2EE Server	Servlet Performance	実行時間などのパフォーマンス統計。	低、正常域
J2EE Server	Servlet Requests	サーブレットに対する受信要求の数。	高、正常域
J2EE Server	Connections in Use	現在使用されている JDBC 接続の数。	高、正常域
J2EE Server	JDBC Connection Pool Wait Count	JDBC 接続待ち中のクライアントの数。	高、正常域
J2EE Server	Data Source Connection Pool Availability	接続プール内の JDBC 接続の可用性。	低、正常域
J2EE Server	Data Source Connection Pool Failures	接続プール内の接続の更新が失敗した回数。	危険域、正常域
J2EE Server	Data Source Connection Pool Utilization	Data Source Connection Pool Utilization	高、正常域
J2EE Server	Data Source Connection Pool Performance	Data Source Connection Pool Performance	低、正常域
J2EE Server	Data Source Connection Waiters	接続プールからの接続を待っているスレッドの平均数。	高、正常域
J2EE Server	JDBC Active Connection Count	アクティブな JDBC 接続	高、正常域
J2EE Server	Total Number of Threads	ガベージコレクションに使用された合計スレッド数。	高、正常域
J2EE Server	Total Garbage Collection Count	ガベージコレクタが実行された回数。	高、正常域
J2EE Server	Total Garbage Collection Time	ガベージコレクションにかかった合計時間。	高、正常域
J2EE Server	JVM Memory Utilization	使用されているヒープサイズの割合。	高、正常域

CI タイプ	HI	説明	値
J2EE Server	Heap Free Current	利用可能な空きヒープ容量。	低、正常域
J2EE Server	Heap Size Current	使用中のヒープ容量。	高、正常域
J2EE Server	All Processors Average Load	システムのすべてのプロセッサの平均負荷。	高、正常域
J2EE Cluster	Cluster Health	パフォーマンスに関するクラスタ状況。	問題あり、正常域
J2EE Cluster	Cluster Incoming Message Failure Rate	クラスタから失われたマルチキャストメッセージの数。	高、正常域
J2EE Cluster	Cluster Outgoing Message Failure Rate	クラスタに送信されたマルチキャストメッセージの数。	高、正常域
J2EE Cluster	Cluster Status	可用性に関するクラスタステータス。	開始済み、部分的停止、停止済み
JDBC Data Source	Connections in Use	現在使用されている JDBC 接続の数。	高、正常域
JDBC Data Source	Data Source Connection Waiters	接続プールからの接続を待っているスレッドの平均数。	高、正常域
JDBC Data Source	Data Source Connection Pool Availability	接続プール内の JDBC 接続の可用性。	低、正常域
JDBC Data Source	Data Source Connection Pool Failures	接続プール内の接続の更新が失敗した回数。	正常域、危険域
JDBC Data Source	Data Source Connection Pool Performance	データソース接続プールのパフォーマンス。	低、正常域
JDBC Data Source	Data Source Connection Pool Utilization	データソース接続プールの使用率。	高、正常域
JDBC Data Source	Data Source Leaked Connections Rate	新しいリークされた JDBC 接続の率。	高、正常域

CI タイプ	HI	説明	値
JDBC Data Source	JDBC Active Connections Count	アクティブな JDBC 接続	高、正常域
JDBC Data Source	JDBC Connection Pool Wait Count	JDBC 接続待ち中のクライアントの数。	高、正常域
J2EE Application	EJB Concurrent Lives	プール内の Bean オブジェクトの平均数。	高、正常域
J2EE Application	EJB Free Pool Wait Rate	空きプールから EJB が利用できなかった回数 (1 分あたり)。	高、正常域
J2EE Application	EJB Missed Count Rate	空きプールからのインスタンスの取得試行が失敗した合計回数。	高、正常域
J2EE Application	EJB Performance	キャッシュ使用率などのパフォーマンス統計。	低、正常域
J2EE Application	EJB Timeout Rate	クライアントが EJB を待ってタイムアウトした回数 (1 分あたり)。	高、正常域
J2EE Application	EJB Transaction Rollback Rate	単位時間内にロールバックされた EJB トランザクションの数。	高、正常域
J2EE Application	EJB Transaction Throughput Rate	単位時間内に完了した EJB トランザクションの数。	高、正常域
J2EE Application	EJB Utilization	EJB プールの使用率。	高、正常域
J2EE Application	HTTP Sessions	開かれている HTTP セッションの数。	高、正常域
J2EE Application	Servlet Performance	実行時間などのパフォーマンス統計。	低、正常域
J2EE Application	Servlet Requests	サーブレットに対する受信要求の数。	高、正常域
JVM	All Processors Average Load	システムのすべてのプロセッサの平均負荷。	高、正常域
JVM	Heap Free Current	利用可能な空きヒープ容量。	低、正常域
JVM	Heap Size Current	使用中のヒープ容量。	高、正常域
JVM	JVM Memory Utilization	使用されているヒープサイズの割合。	高、正常域

CI タイプ	HI	説明	値
JVM	Total Garbage Collection Count	ガベージ コレクタが実行された回数。	高、正常域
JVM	Total Garbage Collection Time	ガベージ コレクションにかかった合計時間。	高、正常域
JVM	Total Number of Threads	ガベージ コレクションに使用された合計スレッド数。	高、正常域
J2EE Domain	Domain Status	ドメインのステータス。	正常域、問題あり

トポロジベースのイベント 相関処理 (TBEC) ルール

OMi MP for Oracle WebLogic では、WebLogic アプリケーション サーバ関連 イベントに次の相関ルールを適用できます。

相関ルールのしくみの詳細は、『Operations Manager i コンセプト・ガイド』を参照してください。

TBEC ルールにアクセスする方法

- [トポロジベースのイベント 相関ルール] ペインを開きます。

BSM では、次をクリックします。[管理] > [オペレーション管理] > [イベント相関処理] > [トポロジベースのイベント相関処理]

OMi では、次をクリックします。[管理] > [イベント処理] > [相関] > [トポロジベースのイベント相関]

J2EE::コンピュータ:CPU 負荷 >> JVM メモリ使用率、JMS サーバ使用率、トランザクション システム エラー、EJB パフォーマンス

説明: コンピュータの CPU 負荷は、JVM メモリ使用率、JMS サーバ使用率、トランザクション システム エラー、EJB パフォーマンスに影響します		
原因		
CIT: Computer	ETI: CPU Load	値: 過負荷
現象 1		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Performance	値:低
現象 2		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Performance	値:低

説明: コンピュータの CPU 負荷は、JVM メモリ使用率、JMS サーバ使用率、トランザクション システム エラー、EJB パフォーマンスに影響します

現象 3

CIT:J2EE Server	ETI:JMS Server Utilization	値:高
-----------------	----------------------------	-----

現象 3

CIT:J2EE Server	ETI:Transaction System Errors	値:高
-----------------	-------------------------------	-----

現象 4

CIT:JVM	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
---------	----------------------------	-----

J2EE::コンピュータ:CPU 負荷 >> Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンス

説明: コンピュータの CPU 負荷は、Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンスに影響します

原因

CIT:Computer	ETI:CPU Load	値:過負荷
--------------	--------------	-------

現象 1

CIT:Business Application	ETI:Real User Sessions Performance	値:危険域
--------------------------	------------------------------------	-------

現象 2

CIT:Business Transaction	ETI:Real User Transaction Performance event	値:危険域
--------------------------	---	-------

J2EE::コンピュータ:CPU 負荷 >> 合成ユーザトランザクション パフォーマンス

説明: コンピュータの CPU 負荷は、合成ユーザトランザクション パフォーマンスに影響します

原因

CIT:Computer	ETI:CPU Load	値:過負荷
--------------	--------------	-------

現象 1

CIT:Business Transaction	ETI:Synthetic User Transaction Performance event	値:危険域
--------------------------	--	-------

J2EE::コンピュータ:メモリ使用レベル >> サーバステータス、トランザクション システム エラー、スレッド ハング率

説明:コンピュータ メモリ使用レベルは、サーバステータス、トランザクション システム エラー、スレッド ハング率に影響します

原因		
CIT:Computer	ETI:Memory Usage Level	値:正常域より非常に高
現象 1		
CIT:J2EE Server	ETI:Server Status	値:利用不可
現象 2		
CIT:J2EE Server	ETI:Thread Hung Rate	値:高
現象 3		
CIT:J2EE Server	ETI:Transaction System Errors	値:高

J2EE::ファイルシステム:ディスク使用レベル >> サーバステータス、トランザクション リソース エラー、トランザクション システム エラー

説明:ファイルシステムのディスク使用レベルは、サーバステータス、トランザクション リソース エラー、トランザクション システム エラーに影響します

原因		
CIT:FileSystem	ETI: Disk Usage Level	値:限界に近い
現象 1		
CIT:J2EE Server	ETI:Server Status	値:利用不可
現象 2		
CIT:J2EE Server	ETI:Transaction Resource Errors	値:高
現象 3		
CIT:J2EE Server	ETI:Transactions System Errors	値:高

J2EE::J2EE アプリケーション:EJB 同時存在数 >> EJB 使用率

説明:EJB 同時存在数は、EJB 使用率に影響します

原因

説明:EJB 同時存在数は、EJB 使用率に影響します		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Concurrent Lives	値:高
現象 1		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Utilization	値:高
現象 2		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Utilization	値:高

J2EE::J2EE アプリケーション:EJB 空きプール待機率 >> サーブレット パフォーマンス

説明:EJB 空きプール待機率は、サーブレット パフォーマンスに影響します		
原因		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Free Pool Wait Rate	値:高
現象 1		
CIT:J2EE Application	ETI:Servlet Performance	値:低
現象 2		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Performance	値:低

J2EE::J2EE アプリケーション:EJB パフォーマンス>> EJB 空きプール待機率、EJB 失敗率、サーブレット パフォーマンス

説明:EJB パフォーマンスは、EJB 空きプール待機率、EJB 失敗率、サーブレット パフォーマンスに影響します		
原因		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Performance	値:低
現象 1		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Free Pool Wait Rate	値:高
現象 2		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Missed Count Rate	値:高
現象 3		
CIT:J2EE Application	ETI:Servlet Performance	値:低

説明: EJB パフォーマンスは、EJB 空きプール待機率、EJB 失敗率、サーブレット パフォーマンスに影響します		
現象 4		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Free Pool Wait Rate	値:高
現象 5		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Missed Count Rate	値:高
現象 6		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Performance	値:低
J2EE::J2EE アプリケーション:EJB タイムアウト率 >> サーブレット パフォーマンス、EJB トランザクションのスループット率、EJB トランザクションのロールバック率		
説明: EJB タイムアウト率は、サーブレット パフォーマンス、EJB トランザクションのスループット率、EJB トランザクションのロールバック率に影響します		
原因		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Timeout Rate	値:高
現象 1		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Transaction Rollback Rate	値:高
現象 2		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Transaction Throughput Rate	値:高
現象 3		
CIT:J2EE Application	ETI:Servlet Performance	値:低
現象 4		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Transaction Rollback Rate	値:高
現象 5		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Performance	値:低

J2EE::J2EE アプリケーション:EJB 使用率 >> データソース接続待ち、データソース接続プール使用率

説明: EJB 使用率は、データソース接続待ち、データソース接続プール使用率に影響します

原因

CIT:J2EE Application	ETI:EJB Utilization	値:高
----------------------	---------------------	-----

現象 1

CIT:J2EE Server	Data Source Connection Pool Utilization	値:高
-----------------	---	-----

現象 2

CIT:J2EE Server	ETI:Data Source Connection Waiters	値:高
-----------------	------------------------------------	-----

現象 3

CIT:JDBC Data Source	ETI:Data Source Connection Waiters	値:高
----------------------	------------------------------------	-----

現象 4

CIT:JDBC Data Source	ETI:Data Source Connection Pool Utilization	値:高
----------------------	---	-----

J2EE::J2EE アプリケーション:HTTP セッション >> JVM メモリ使用率

説明: J2EE アプリケーションの HTTP セッションは、JVM メモリ使用率に影響します

原因

CIT:J2EE Application	ETI:HTTP Sessions	値:高
----------------------	-------------------	-----

現象 1

CIT:J2EE Server	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
-----------------	----------------------------	-----

現象 2

CIT:JVM	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
---------	----------------------------	-----

J2EE::J2EE アプリケーション:サーブレット要求 >> インターフェイス使用率

説明: J2EE アプリケーションのサーブレット要求は、インターフェイス使用率に影響します

原因

CIT:J2EE Application	ETI:Servlet Requests	値:高
----------------------	----------------------	-----

現象

説明: J2EE アプリケーションのサーブレット要求は、インターフェイス使用率に影響します

CIT: Interface	ETI: InterfaceUtilization	値: 正常域より非常に高
----------------	---------------------------	--------------

J2EE::J2EE アプリケーション:サーブレット要求 >> Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンス

説明: J2EE アプリケーションのサーブレット要求は、Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンスに影響します

原因

CIT: J2EE Application	ETI: Servlet Requests	値: 高
-----------------------	-----------------------	------

現象 1

CIT: Business Application	ETI: Real User Sessions Performance	値: 危険域
---------------------------	-------------------------------------	--------

現象 2

CIT: Business Transaction	ETI: Real User Transaction Performance event	値: 危険域
---------------------------	--	--------

J2EE::J2EE アプリケーション:サーブレット要求 >> 合成ユーザトランザクション パフォーマンス

説明: J2EE アプリケーションのサーブレット要求は、合成ユーザトランザクション パフォーマンスに影響します

原因

CIT: J2EE Application	ETI: Servlet Requests	値: 高
-----------------------	-----------------------	------

現象 1

CIT: Business Application	ETI: Synthetic User Transaction Performance event	値: 危険域
---------------------------	---	--------

J2EE::J2EE アプリケーション:サーブレット要求 >> スレッド プール使用率、アクティブソケット数、JVM メモリ使用率、HTTP セッション、保留中のスレッド要求、ロードされたサーブレット、インターフェイス破棄率、インターフェイス使用率

説明: J2EE アプリケーションのサーブレット要求は、スレッド プール使用率、アクティブソケット数、JVM メモリ使用率、HTTP セッション、保留中のスレッド要求、ロードされたサーブレット、インターフェイス破棄率、インターフェイス使用率に影響します

原因

CIT: J2EE Application	ETI: Servlet Requests	値: 高
-----------------------	-----------------------	------

説明: J2EE アプリケーションのサーブレット要求は、スレッド プール使用率、アクティブ ソケット数、JVM メモリ使用率、HTTP セッション、保留中のスレッド要求、ロードされたサーブレット、インターフェイス破棄率、インターフェイス使用率に影響します

現象 1		
CIT:Interface	ETI:Interface Discard Rate	値:高
現象 2		
CIT:Interface	ETI:Interface Utilization	値:高
現象 3		
CIT:Interface	ETI:Interface Utilization	値:正常域より高
現象 4		
CIT:J2EE Application	ETI:HTTP Sessions	値:高
現象 5		
CIT:J2EE Server	ETI:Active Sockets Count	値:高
現象 6		
CIT:J2EE Server	ETI:HTTP Sessions	値:高
現象 7		
CIT:J2EE Server	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
現象 8		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlets Loaded	値:高
現象 9		
CIT:J2EE Server	ETI:Thread Pool Utilization	値:高
現象 10		
CIT:J2EE Server	ETI:Thread Requests Pending	値:高
現象 11		
CIT:JVM	ETI:JVM Memory Utilization	値:高

J2EE::J2EE クラスタ:クラスタ状況 >> ドメイン ステータス

説明:J2EE クラスタ状況は、ドメイン ステータスに影響します

原因

CIT:J2EE Cluster	ETI:Cluster Health	値:問題あり
------------------	--------------------	--------

現象 1

CIT:J2EE Domain	ETI:Domain Status	値:問題あり
-----------------	-------------------	--------

J2EE::J2EE クラスタ:クラスタ状況 >> Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンス

説明:J2EE クラスタ状況は、Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンスに影響します

原因

CIT:J2EE Cluster	ETI:Cluster Health	値:問題あり
------------------	--------------------	--------

現象 1

CIT:Business Application	ETI:Real User Sessions Performance	値:危険域
--------------------------	------------------------------------	-------

現象 2

CIT:Business Application	ETI:Real User Transaction Performance event	値:危険域
--------------------------	---	-------

J2EE::J2EE クラスタ:クラスタ状況 >> 合成ユーザトランザクション パフォーマンス

説明:J2EE クラスタ状況は、合成ユーザトランザクション パフォーマンスに影響します

原因

CIT:J2EE Cluster	ETI:Cluster Health	値:問題あり
------------------	--------------------	--------

現象 1

CIT:Business Application	ETI:Synthetic User Transaction Performance event	値:危険域
--------------------------	--	-------

J2EE::J2EE クラスタ:クラスタ ステータス >> ドメイン ステータス

説明:J2EE クラスタ ステータスは、ドメイン ステータスに影響します

原因

説明: J2EE クラスタ ステータスは、ドメイン ステータスに影響します		
CIT: J2EE Cluster	ETI: Cluster Status	値: 停止済み
現象 1		
CIT: J2EE Domain	ETI: Domain Status	値: 問題あり

J2EE::J2EE クラスタ: クラスタ ステータス >> Real User トランザクション 可用性、Real User セッション 可用性

説明: J2EE クラスタ ステータスは、Real User トランザクション 可用性、Real User セッション 可用性に影響します		
原因		
CIT: J2EE Cluster	ETI: Cluster Status	値: 停止済み
現象 1		
CIT: Business Application	ETI: Real User Sessions Availability	値: 危険域
現象 2		
CIT: Business Application	ETI: Real User Transaction Availability event	値: 危険域

J2EE::J2EE クラスタ: クラスタ ステータス >> 合成 ユーザ トランザクション の 可用性

説明: J2EE クラスタ ステータスは、合成 ユーザ トランザクション の 可用性に影響します		
原因		
CIT: J2EE Cluster	ETI: Cluster Status	値: 停止済み
現象 1		
CIT: Business Transaction	ETI: Synthetic User Transaction Availability event	値: 危険域

J2EE::J2EE サーバ: データソース 接続 プールの 可用性 >> EJB パフォーマンス、トランザクション タイムアウト率、トランザクション コミット率

説明: J2EE サーバのデータソース接続プールの可用性は、EJB パフォーマンス、トランザクション タイムアウト率、トランザクション コミット率に影響します		
原因		

説明: J2EE サーバのデータソース接続プールの可用性は、EJB パフォーマンス、トランザクション タイムアウト率、トランザクション コミット率に影響します

CIT:J2EE Server	ETI:Data Source Connection Pool Availability	値:低
現象 1		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Performance	値:低
現象 2		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Performance	値:低
現象 3		
CIT:J2EE Server	ETI:Transaction Commit Rate	値:高
現象 4		
CIT:J2EE Server	ETI:Transaction Timeout Rate	値:高

J2EE::J2EE サーバ:データソース接続プール パフォーマンス >> EJB パフォーマンス

説明: J2EE サーバのデータソース接続プールのパフォーマンスは、EJB パフォーマンスに影響します

原因		
CIT:J2EE Server	ETI:Data Source Connection Pool Performance	値:低
現象 1		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Performance	値:低
現象 2		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Performance	値:低

J2EE::J2EE サーバ:データソース接続待ち >> データソース接続プールの可用性

説明: J2EE サーバのデータソース接続待ちは、データソース接続プールの可用性に影響します

原因		
CIT:J2EE Server	ETI:Data Source Connection Waiters	値:高
現象 1		

説明: J2EE サーバのデータソース接続待ちは、データソース接続プールの可用性に影響します		
CIT: J2EE Server	ETI: Data Source Connection Pool Availability	値: 低
現象 2		
CIT: JDBC Data Source	ETI: Data Source Connection Pool Availability	値: 低

J2EE::J2EE サーバ:データソース接続プール使用率 >> トランザクション容量使用率、JDBC 接続プール待ち数、トランザクション時間、トランザクションコミット率、トランザクション開始率、データソース接続プールの可用性

説明: J2EE サーバのデータソース接続プール使用率は、トランザクション容量使用率、JDBC 接続プール待ち数、トランザクション時間、トランザクションコミット率、トランザクション開始率、データソース接続プールの可用性に影響します		
原因		
CIT: J2EE Server	ETI: Data Source Connection Pool Utilization	値: 高
現象 1		
CIT: J2EE Server	ETI: Data Source Connection Pool Availability	値: 低
現象 2		
CIT: J2EE Server	ETI: JDBC Connection Pool Wait Count	値: 高
現象 3		
CIT: J2EE Server	ETI: Transaction Capacity Utilization	値: 高
現象 4		
CIT: J2EE Server	ETI: Transaction Commit Rate	値: 高
現象 5		
CIT: J2EE Server	ETI: Transaction Start Date	値: 高
現象 6		

説明:J2EE サーバのデータソース接続プール使用率は、トランザクション容量使用率、JDBC 接続プール待ち数、トランザクション時間、トランザクション コミット率、トランザクション開始率、データソース接続プールの可用性に影響します		
CIT:J2EE Server	ETI:Transaction Time	値:高
現象 7		
CIT:JDBC Data Source	ETI:Data Source Connection Pool Availability	値:低
現象 8		
CIT:JDBC Data Source	ETI:JDBC Connection Pool Wait Count	値:高

J2EE::J2EE サーバ:EJB 同時存在数 >> EJB 使用率

説明:EJB 同時存在数は、EJB 使用率に影響します		
原因		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Concurrent Lives	値:高
現象 1		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Utilization	値:高
現象 2		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Utilization	値:高

J2EE::J2EE サーバ:EJB 空きプール待機率 >> サーブレット パフォーマンス

説明:EJB 空きプール待機率は、サーブレット パフォーマンスに影響します		
原因		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Free Pool Wait Rate	値:高
現象 1		
CIT:J2EE Application	ETI:Servlet Performance	値:低
現象 2		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Performance	値:低

J2EE::J2EE サーバ:EJB パフォーマンス>> EJB 空きプール待機率、EJB 失敗率、サーブレット パフォーマンス

説明: EJB パフォーマンスは、EJB 空きプール待機率、EJB 失敗率、サーブレット パフォーマンスに影響します		
原因		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Performance	値:低
現象 1		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Free Pool Wait Rate	値:高
現象 2		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Missed Count Rate	値:高
現象 3		
CIT:J2EE Application	ETI:Servlet Performance	値:低
現象 4		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Free Pool Wait Rate	値:高
現象 5		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Missed Count Rate	値:高
現象 6		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Performance	値:低

J2EE::J2EE サーバ:EJB タイムアウト率 >> サーブレット パフォーマンス、EJB トランザクションのスループット率、EJB トランザクションのロールバック率

説明: EJB タイムアウト率は、サーブレット パフォーマンス、EJB トランザクションのスループット率、EJB トランザクションのロールバック率に影響します		
原因		
CIT:J2EE Server	ETI:EJB Timeout Rate	値:高
現象 1		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Transaction Rollback Rate	値:高
現象 2		

説明:EJB タイムアウト率は、サーブレット パフォーマンス、EJB トランザクションのスループット率、EJB トランザクションのロールバック率に影響します

CIT:J2EE Application	ETI:EJB Transaction Throughput Rate	値:高
現象 3		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Transaction Rollback Rate	値:高
現象 4		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Performance	値:低

J2EE::J2EE サーバ:EJB 使用率 >> データソース接続待ち、データソース接続プール使用率

説明:EJB 使用率は、データソース接続待ち、データソース接続プール使用率に影響します

原因

CIT:J2EE Server	ETI:EJB Utilization	値:高
現象 1		
CIT:J2EE Server	ETI:DataSource Connection Pool Utilization	値:高
現象 2		
CIT:J2EE Server	ETI:DataSource Connection Waiters	値:高
現象 3		
CIT:JDBC Data Source	ETI:DataSource Connection Waiters	値:高
現象 4		
CIT:JDBC Data Source	ETI:DataSource Connection Pool Utilization	値:高

J2EE::J2EE サーバ:HTTP セッション >> JVM メモリ使用率

説明:J2EE サーバの HTTP セッションは、JVM メモリ使用率に影響します

原因

CIT:J2EE Server	ETI:HTTP Sessions	値:高
-----------------	-------------------	-----

説明:J2EE サーバの HTTP セッションは、JVM メモリ使用率に影響します		
現象 1		
CIT:J2EE Server	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
現象 2		
CIT:JVM	ETI:JVM Memory Utilization	値:高

J2EE::J2EE サーバ:JVM メモリ使用率 >> Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンス

説明:J2EE サーバのメモリ使用率は、Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンスに影響します		
原因		
CIT:J2EE Server	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
現象 1		
CIT:Business Application	ETI:Real User Sessions Performance	値:危険域
現象 2		
CIT:Business Application	ETI:Real User Transaction Performance event	値:危険域
現象 3		
CIT:J2EE Application	ETI:EJB Transaction Rollback Rate	値:高
現象 4		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Performance	値:低

J2EE::J2EE サーバ:JVM メモリ使用率 >> 合成ユーザトランザクション パフォーマンス

説明:J2EE サーバのメモリ使用率は、合成ユーザトランザクション パフォーマンスに影響します		
原因		
CIT:J2EE Server	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
現象 1		

説明:J2EE サーバのメモリ使用率は、合成ユーザトランザクション パフォーマンスに影響します

CIT:Business
Application

ETI:Synthetic User Transaction
Performance event

値:危険域

J2EE::J2EE サーバ:JVM メモリ使用率 >> トランザクション時間、トランザクション システム エラー、サーブレット パフォーマンス

説明:J2EE サーバの JVM メモリ使用率は、トランザクション時間、トランザクション システム エラー、サーブレット パフォーマンスに影響します

原因

CIT:J2EE Server

ETI:JVM Memory Utilization

値:高

現象 1

CIT:J2EE Application

ETI:Servlet Performance

値:低

現象 2

CIT:J2EE Server

ETI:Servlet Performance

値:低

現象 3

CIT:J2EE Server

ETI:Transaction System Errors

値:高

現象 4

CIT:J2EE Server

ETI:Transaction Time

値:高

J2EE::J2EE サーバ:サーバセッション >> JVM メモリ使用率

説明:J2EE サーバセッションは、JVM メモリ使用率に影響します

原因

CIT:J2EE Server

ETI:Server Sessions

値:高

現象 1

CIT:J2EE Server

ETI:JVM Memory Utilization

値:高

現象 2

CIT:JVM

ETI:JVM Memory Utilization

値:高

J2EE::J2EE サーバ:サーバステータス >> ドメイン ステータス、クラスタ状況、クラスタ ステータス

説明:J2EE サーバステータスは、ドメイン ステータス、クラスタ状況、クラスタ ステータスに影響します

原因

CIT:J2EE Server	ETI:Server Status	値:利用不可
-----------------	-------------------	--------

現象 1

CIT:J2EE Cluster	ETI:Cluster Health	値:問題あり
------------------	--------------------	--------

現象 2

CIT:J2EE Cluster	ETI:Cluster Status	値:部分的停止
------------------	--------------------	---------

現象 3

CIT:J2EE Cluster	ETI:Cluster Status	値:停止済み
------------------	--------------------	--------

J2EE::J2EE サーバ:サーバステータス >> Real User トランザクション可用性、Real User セッション可用性

説明:J2EE サーバステータスは、Real User トランザクション可用性、Real User セッション可用性に影響します

原因

CIT:J2EE Server	ETI:Server Status	値:利用不可
-----------------	-------------------	--------

現象 1

CIT:Business Application	ETI:Real User Sessions Availability	値:危険域
--------------------------	-------------------------------------	-------

現象 2

CIT:Business Application	ETI:Real User Transaction Availability event	値:危険域
--------------------------	--	-------

J2EE::J2EE サーバ:サーバステータス >> 合成ユーザトランザクションの可用性

説明:J2EE サーバステータスは、合成ユーザトランザクションの可用性に影響します

原因

CIT:J2EE Server	ETI:Server Status	値:利用不可
-----------------	-------------------	--------

現象 1

CIT:Business Application	ETI:Synthetic User Transaction Availability event	値:危険域
--------------------------	---	-------

J2EE::J2EE サーバ:サーブレット要求 >> Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンス

説明:J2EE サーバのサーブレット要求は、Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンスに影響します		
原因		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Requests	値:高
現象 1		
CIT:Business Application	ETI:Real User Sessions Performance	値:危険域
現象 2		
CIT:Business Application	ETI:Real User Transaction Performance event	値:危険域

J2EE::J2EE サーバ:サーブレット要求 >> 合成ユーザトランザクション パフォーマンス

説明:J2EE サーバのサーブレット要求は、合成ユーザトランザクション パフォーマンスに影響します		
原因		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Requests	値:高
現象 1		
CIT:Business Application	ETI:Synthetic User Transaction Performance event	値:危険域

J2EE::J2EE サーバ:サーブレット要求 >> スレッド プール使用率、アクティブソケット数、JVM メモリ使用率、HTTP セッション、保留中のスレッド要求、ロードされたサーブレット、インターフェイス破棄率、インターフェイス使用率

説明:J2EE サーバのサーブレット要求は、スレッド プール使用率、アクティブソケット数、JVM メモリ使用率、HTTP セッション、保留中のスレッド要求、ロードされたサーブレット、インターフェイス破棄率、インターフェイス使用率に影響します		
原因		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Requests	値:高
現象 1		
CIT:Interface	ETI:Interface Discard Rate	値:高
現象 2		

説明:J2EE サーバのサーブレット要求は、スレッド プール使用率、アクティブ ソケット数、JVM メモリ使用率、HTTP セッション、保留中のスレッド要求、ロードされたサーブレット、インターフェイス破棄率、インターフェイス使用率に影響します

CIT:Interface	ETI:Interface Utilization	値:正常域より高
現象 3		
CIT:J2EE Server	ETI:Active Sockets Count	値:高
現象 4		
CIT:J2EE Server	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
現象 5		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlets Loaded	値:高
現象 6		
CIT:J2EE Server	ETI:Thread Pool Utilization	値:高
現象 7		
CIT:J2EE Server	ETI:Thread Requests Pending	値:高
現象 8		
CIT:JVM	ETI:JVM Memory Utilization	値:高

J2EE::J2EE サーバ:ロードされたサーブレット >> JVM メモリ使用率

説明:J2EE サーバステータスは、Real User トランザクション可用性、合成ユーザ トランザクションの可用性、Real User セッション可用性に影響します

原因		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlets Loaded	値:高
現象 1		
CIT:J2EE Server	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
現象 1		
CIT:JVM	ETI:JVM Memory Utilization	値:高

J2EE::J2EE サーバ:スレッド プール使用率 >> 実行キュー待機数、アクティブ ソケット数、サーブレット パフォーマンス、遅延スレッド要求、スレッド要求待ち時間、保留中のスレッド要求、スレッド要求サービス時間、スレッド プール可用性、JVM メモリ使用率

説明: J2EE サーバのスレッド プール使用率は、実行キュー待ち数、アクティブソケット数、サーブレットパフォーマンス、遅延スレッド要求、スレッド要求待ち時間、保留中のスレッド要求、スレッド要求サービス時間、スレッド プール可用性、JVM メモリ使用率に影響します

原因

CIT:J2EE Server	ETI:Thread Pool Utilization	値:高
-----------------	-----------------------------	-----

現象 1

CIT:J2EE Application	ETI:Servlet Performance	値:低
----------------------	-------------------------	-----

現象 2

CIT:J2EE Server	ETI:Active Sockets Count	値:高
-----------------	--------------------------	-----

現象 3

CIT:J2EE Server	ETI:Deferred Thread Requests	値:高
-----------------	------------------------------	-----

現象 4

CIT:J2EE Server	ETI:Execute Queue Wait Count	値:高
-----------------	------------------------------	-----

現象 5

CIT:J2EE Server	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
-----------------	----------------------------	-----

現象 6

CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Performance	値:低
-----------------	-------------------------	-----

現象 7

CIT:J2EE Server	ETI:Thread Pool Availability	値:低
-----------------	------------------------------	-----

現象 8

CIT:J2EE Server	ETI:Thread Request Service Time	値:高
-----------------	---------------------------------	-----

現象 9

CIT:J2EE Server	ETI:Thread Request Wait Time	値:高
-----------------	------------------------------	-----

現象 10

説明:J2EE サーバのスレッド プール使用率は、実行キュー待ち数、アクティブソケット数、サブレットパフォーマンス、遅延スレッド要求、スレッド要求待ち時間、保留中のスレッド要求、スレッド要求サービス時間、スレッド プール可用性、JVM メモリ使用率に影響します

CIT:J2EE Server	ETI:Thread Requests Pending	値:高
現象 11		
CIT:JVM	ETI:JVM Memory Utilization	値:高

J2EE::J2EE サーバ:合計ガベージコレクション回数 >> CPU 負荷

説明:J2EE サーバの合計ガベージコレクション回数は、CPU 負荷に影響します

原因

CIT:J2EE Server	ETI:Total Garbage Collection Count	値:高
現象 1		
CIT:Computer	ETI:CPU Load	値:過負荷

J2EE::J2EE サーバ:合計ガベージコレクション時間 >> CPU 負荷

説明:J2EE サーバの合計ガベージコレクション時間は、CPU 負荷に影響します

原因

CIT:J2EE Server	ETI:Total Garbage Collection Time	値:高
現象 1		
CIT:Computer	ETI:CPU Load	値:過負荷

J2EE::J2EE サーバ:合計スレッド数 >> CPU 負荷、メモリ使用レベル

説明:J2EE サーバの合計スレッド数は、CPU 負荷、メモリ使用レベルに影響します

原因

CIT:J2EE Server	ETI:Total Number Of Threads	値:高
現象 1		
CIT:Computer	ETI:CPU Load	値:過負荷
現象 2		
CIT:Computer	ETI:Memory Usage Level	値:正常域より高

説明:J2EE サーバの合計スレッド数は、CPU 負荷、メモリ使用レベルに影響します

現象 3

CIT:Computer	ETI:Memory Usage Level	値:正常域より非常に高
--------------	------------------------	-------------

J2EE::J2EE サーバ:トランザクション アプリケーション エラー >> ロールバックされたトランザクション

説明:J2EE サーバトランザクション アプリケーション エラーは、ロールバックされたトランザクションに影響します

原因

CIT:J2EE Server	ETI:Transaction Application Errors	値:高
-----------------	------------------------------------	-----

現象 1

CIT:J2EE Server	ETI:Transactions Rolled Back	値:高
-----------------	------------------------------	-----

J2EE::J2EE サーバ:トランザクション リソース エラー >> ロールバックされたトランザクション

説明:J2EE サーバトランザクション リソース エラーは、ロールバックされたトランザクションに影響します

原因

CIT:J2EE Server	ETI:Transaction Resource Errors	値:高
-----------------	---------------------------------	-----

現象 1

CIT:J2EE Server	ETI:Transactions Rolled Back	値:高
-----------------	------------------------------	-----

J2EE::J2EE サーバ:トランザクション システム エラー >> ロールバックされたトランザクション

説明:J2EE サーバトランザクション システム エラーは、ロールバックされたトランザクションに影響します

原因

CIT:J2EE Server	ETI:Transaction System Errors	値:高
-----------------	-------------------------------	-----

現象 1

CIT:J2EE Server	ETI:Transactions Rolled Back	値:高
-----------------	------------------------------	-----

J2EE::J2EE サーバ:トランザクション時間 >> JDBC 接続プール待ち数

説明:J2EE サーバのトランザクション時間は、JDBC 接続プール待ち数に影響します

原因

説明: J2EE サーバのトランザクション時間は、JDBC 接続プール待ち数に影響します		
CIT: J2EE Server	ETI: Transaction Time	値: 高
現象 1		
CIT: J2EE Server	ETI: JDBC Connection Pool Wait Count	値: 高
現象 2		
CIT: JDBC Data Source	ETI: JDBC Connection Pool Wait Count	値: 高

J2EE::J2EE サーバ:トランザクション タイムアウト エラー >> ロールバックされたトランザクション

説明: J2EE サーバトランザクション タイムアウト エラーは、ロールバックされたトランザクションに影響します		
原因		
CIT: J2EE Server	ETI: Transaction Timeout Errors	値: 高
現象 1		
CIT: J2EE Server	ETI: Transactions Rolled Back	値: 高

J2EE::JDBC データソース:データソース接続プールの可用性 >> EJB パフォーマンス、トランザクション タイムアウト率、トランザクション コミット率

説明: JDBC データソース接続プールの可用性は、EJB パフォーマンス、トランザクション タイムアウト率、トランザクション コミット率に影響します		
原因		
CIT: JDBC Data Source	ETI: Data Source Connection Pool Availability	値: 低
現象 1		
CIT: J2EE Application	ETI: EJB Performance	値: 低
現象 2		
CIT: J2EE Server	ETI: EJB Performance	値: 低
現象 3		
CIT: J2EE Server	ETI: Transaction Commit Rate	値: 高
現象 4		

説明:JDBC データソース接続プールの可用性は、EJB パフォーマンス、トランザクション タイムアウト率、トランザクション コミット率に影響します

CIT:J2EE Server	ETI:Transaction Timeout Rate	値:高
-----------------	------------------------------	-----

J2EE::JDBC データソース:データソース接続プール パフォーマンス >> EJB パフォーマンス

説明:JDBC データソース接続プールのパフォーマンスは、EJB パフォーマンスに影響します

原因

CIT:JDBC Data Source	ETI:Data Source Connection Pool Performance	値:低
----------------------	---	-----

現象 1

CIT:J2EE Application	ETI:EJB Performance	値:低
----------------------	---------------------	-----

現象 2

CIT:J2EE Server	ETI:EJB Performance	値:低
-----------------	---------------------	-----

J2EE::JDBC データソース:データソース接続待ち >> データソース接続プールの可用性

説明:JDBC データソース接続待ちは、データソース接続プールの可用性に影響します

原因

CIT:JDBC Data Source	ETI:Data Source Connection Waiters	値:高
----------------------	------------------------------------	-----

現象 1

CIT:J2EE Server	ETI:Data Source Connection Pool Availability	値:低
-----------------	--	-----

現象 2

CIT:JDBC Data Source	ETI:Data Source Connection Pool Availability	値:低
----------------------	--	-----

J2EE::JDBC データソース:データソース接続プール使用率 >> トランザクション容量使用率、JDBC 接続プール待ち数、トランザクション時間、トランザクション コミット率、トランザクション開始率、データソース接続プールの可用性

説明:JDBC データソース接続プール使用率は、トランザクション容量使用率、JDBC 接続プール待ち数、トランザクション時間、トランザクション コミット率、トランザクション開始率、データソース接続プールの可用性に影響します

原因

説明:JDBC データソース接続プール使用率は、トランザクション容量使用率、JDBC 接続プール待ち数、トランザクション時間、トランザクションコミット率、トランザクション開始率、データソース接続プールの可用性に影響します		
CIT:JDBC Data Source	ETI:Data Source Connection Pool Utilization	値:高
現象 1		
CIT:J2EE Server	ETI:Data Source Connection Pool Availability	値:低
現象 2		
CIT:J2EE Server	ETI:JDBC Connection Pool Wait Count	値:高
現象 3		
CIT:J2EE Server	ETI:Transaction Capacity Utilization	値:高
現象 4		
CIT:J2EE Server	ETI:Transaction Commit Rate	値:高
現象 5		
CIT:J2EE Server	ETI:Transaction Start Rate	値:高
現象 6		
CIT:J2EE Server	ETI:Transaction Time	値:高
現象 7		
CIT:JDBC Data Source	ETI:DataSource Connection Pool Availability	値:低
現象 8		
CIT:JDBC Data Source	ETI:JDBC Connection Pool Wait Count	値:高

J2EE::JDBC データソース:データソースのリークされた接続の率 >> データソースの接続プール使用率

説明:JDBC データソースのリークされた接続の率は、データソースの接続プール使用率に影響します

原因

CIT:JDBC Data Source	ETI:DataSource Leaked Connections Rate	値:高
現象 1		
CIT:J2EE Server	ETI:DataSource ConnectionPool Utilization	値:高
現象 2		
CIT:JDBC Data Source	ETI:DataSource ConnectionPool Utilization	値:高

J2EE::JVM:全プロセッサ平均負荷 >> CPU 負荷

説明:JVM 全プロセッサ平均負荷は、CPU 負荷に影響します

原因

CIT:JVM	ETI:All Processors Average Load	値:高
現象 1		
CIT:Computer	ETI:CPU Load	値:過負荷

J2EE::JVM:JVM メモリ使用率 >> Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンス

説明:JVM メモリ使用率は、Real User トランザクション パフォーマンス、合成ユーザトランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンスに影響します

原因

CIT:JVM	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
現象 1		
CIT:Business Application	ETI:Real User Sessions Performance	値:危険域
現象 2		
CIT:Business Application	ETI:Real User Transaction Performance event	値:危険域

J2EE::JVM:JVM メモリ使用率 >> 合成ユーザトランザクション パフォーマンス

説明:JVM メモリ使用率は、合成ユーザトランザクション パフォーマンスに影響します		
原因		
CIT:JVM	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
現象 1		
CIT:Business Application	ETI:Synthetic User Transaction Performance event	値:危険域

J2EE::JVM:JVM メモリ使用率 >> トランザクション時間、トランザクション システム エラー、サーブレット パフォーマンス

説明:JVM メモリ使用率は、トランザクション時間、トランザクション システム エラー、サーブレット パフォーマンスに影響します		
原因		
CIT:JVM	ETI:JVM Memory Utilization	値:高
現象 1		
CIT:J2EE Application	ETI:Servlet Performance	値:低
現象 2		
CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Performance	値:低
現象 3		
CIT:J2EE Server	ETI:Transaction System Errors	値:高
現象 4		
CIT:J2EE Server	ETI:Transaction Time	値:高

J2EE::JVM:合計ガベージ コレクション回数 >> CPU 負荷

説明:JVM 合計ガベージ コレクション回数は、CPU 負荷に影響します		
原因		
CIT:JVM	ETI:Total Garbage Collection Count	値:高
現象 1		
CIT:Computer	ETI:CPU Load	値:過負荷

J2EE::JVM:合計ガベージコレクション時間 >> CPU 負荷

説明:JVM 合計ガベージコレクション時間は、CPU 負荷に影響します		
原因		
CIT:JVM	ETI:Total Garbage Collection Time	値:高
現象 1		
CIT:Computer	ETI:CPU Load	値:過負荷

J2EE::JVM:合計スレッド数 >> CPU 負荷、メモリ使用レベル

説明:JVM 合計スレッド数は、CPU 負荷、メモリ使用レベルに影響します		
原因		
CIT:JVM	ETI:Total Number Of Threads	値:高
現象 1		
CIT:Computer	ETI:CPU Load	値:制約
現象 2		
CIT:Computer	ETI:Memory Usage Level	値:正常域より高

J2EE::ネットワーク インターフェイス:インターフェイス通信ステータス >> サーバステータス

説明:ネットワーク インターフェイスの通信ステータスは、サーバステータスに影響します		
原因		
CIT:Interface	ETI: Interface Communication Status	値:利用不可
現象		
CIT:J2EE Server	ETI:Server Status	値:利用不可

J2EE::ネットワーク インターフェイス:インターフェイス使用率 >> Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンス

説明:ネットワーク インターフェイス使用率は、Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンスに影響します		
原因		
CIT:Interface	ETI:Interface Utilization	値:正常域より高

説明: ネットワーク インターフェイス使用率は、Real User トランザクション パフォーマンス、Real User セッション パフォーマンスに影響します

現象 1

CIT:Business Application	ETI:Real User Sessions Performance	値:危険域
--------------------------	------------------------------------	-------

現象 2

CIT:Business Transaction	ETI:Real User Transaction Performance event	値:危険域
--------------------------	---	-------

J2EE::ネットワーク インターフェイス:インターフェイス使用率 >> サーブレット パフォーマンス

説明: ネットワーク インターフェイス使用率は、サーブレット パフォーマンスに影響します

原因

CIT:Interface	ETI:Interface Utilization	値:正常域より高
---------------	---------------------------	----------

現象 1

CIT:J2EE Application	ETI:Servlet Performance	値:低
----------------------	-------------------------	-----

現象 2

CIT:J2EE Server	ETI:Servlet Performance	値:低
-----------------	-------------------------	-----

J2EE::ネットワーク インターフェイス:インターフェイス使用率 >> 合成ユーザトランザクション パフォーマンス

説明: ネットワーク インターフェイス使用率は、合成ユーザトランザクション パフォーマンスに影響します

原因

CIT:Interface	ETI:Interface Utilization	値:正常域より高
---------------	---------------------------	----------

現象 1

CIT:Business Application	ETI:Synthetic User Transaction Performance	値:危険域
--------------------------	--	-------

Operations Orchestration (OO) フロー

OO フローのマッピングを作成する際に、以下の表に記載された属性のデフォルト値を設定できます。この値は、フローを実行するたびに指定する必要はありません。

属性	説明
omServerPort	HPOM ツール WS のポート番号。この属性はオプションです。
omServerUser	HPOM ツール WS で使用する HPOM サーバのユーザ名。
omServerPassword	HPOM ツール WS で使用する HPOM サーバのパスワード。

次に、OO フローを説明します。

Application Server Health Check (アプリケーション サーバの状況チェック)

このフローは、アプリケーション サーバの状況のチェックに使用できます。

このフローは、CIT **J2EE**Server にマッピングする必要があります。

次の表に、この OO フローの実行時にユーザが入力する項目をまとめます。

フローへの入力	説明
omNode	ノードの FQDN。HPOM サーバで使用する管理対象ノードを指定します。OO フローを実行するたびに指定する必要があります。
jeeserver	タイプを決定します。有効値は wls/wbs です。OO フローを実行するたびに、この値を指定する必要があります。
omServer	HPOM サーバの FQDN。この入力は、イベントの属性 Originating Server にマッピングできます。
jeeserverName	J2EE サーバの名前。この入力は、CI タイプ J2EE Server の CI 属性 J2eeserver_fullname にマッピングできます。
timeout	ノード上でリモート コマンドを実行しているときに使用します。これはオプションの属性であり、デフォルト値は 100000 です。

Application Server Performance Check (アプリケーション サーバのパフォーマンスチェック)

このフローは、アプリケーション サーバのパフォーマンスのチェックに使用できます。

このフローは、CIT **J2EE**Server にマッピングする必要があります。

次の表に、この OO フローの実行時にユーザが入力する項目をまとめます。

フローへの入力	説明
omNode	ノードの FQDN。HPOM サーバで使用する管理対象ノードを指定します。OO フローを実行するたびに指定する必要があります。
jeeserver	タイプを決定します。有効値は wls/wbs です。OO フローを実行するたびに、この値を指定する必要があります。
omServer	HPOM サーバの FQDN。この入力は、イベントの属性 Originating Server にマッピングできます。

フローへの入力	説明
jeeserverName	J2EE サーバの名前。この入力は、CI タイプ J2EEServer の CI 属性 J2eeserver_fullname にマッピングできます。
timeout	ノード上でリモート コマンドを実行しているときに使用します。これはオプションの属性であり、デフォルト値は 100000 です。

JDBC Health Check (JDBC の状況チェック)

このフローは、JDBC 接続の状況のチェックに使用できます。

このフローは、CI **J2EEServer** にマッピングする必要があります。

次の表に、この OO フローの実行時にユーザが入力する項目をまとめます。

フローへの入力	説明
omNode	ノードの FQDN。HPOM サーバで使用する管理対象ノードを指定します。OO フローを実行するたびに指定する必要があります。
jeeserver	タイプを決定します。有効値は wls/wbs です。OO フローを実行するたびに、この値を指定する必要があります。
omServer	HPOM サーバの FQDN。この入力は、イベントの属性 Originating Server にマッピングできます。
jeeserverName	J2EE サーバの名前。この入力は、CI タイプ J2EEServer の CI 属性 J2eeserver_fullname にマッピングできます。
timeout	ノード上でリモート コマンドを実行しているときに使用します。これはオプションの属性であり、デフォルト値は 100000 です。

HI 割り当て

以下の表に、OMi MP for Oracle WebLogic の HI 割り当てを示します。

HI マッピング	HI 割り当て
J2EE Application	J2EE アプリケーション マッピング - HI 割り当て
	J2EE アプリケーション マッピング - 空の監視元を使用した HI 割り当て
J2EE Cluster	J2EE クラスター - HI 割り当て
	J2EE クラスター - 空の監視元を使用した HI 割り当て

HI マッピング	HI 割り当て
J2EE Domain	J2EE ドメイン マッピング - HI 割り当て
	J2EE ドメイン マッピング - 空の監視元を使用した HI 割り当て
J2EE Server	J2EE サーバマッピング - HI 割り当て
	J2EE サーバマッピング - 空の監視元を使用した HI 割り当て
JDBC Data Source	JDBC データソース マッピング - HI 割り当て
	JDBC データソース マッピング - 空の監視元を使用した HI 割り当て
JVM	JVM マッピング - HI 割り当て
	JVM マッピング - 空の監視元を使用した HI 割り当て

KPI 割り当て

以下の表に、OMi MP for Oracle WebLogic の KPI 割り当てを示します。

CI タイプ	KPI 割り当て
J2EE Application	J2EE アプリケーション マッピング (サービス状況)
	J2EE アプリケーション マッピング (SLM)
J2EE Cluster	J2EE クラスタ マッピング (サービス状況)
	J2EE クラスタ マッピング (SLM)
J2EE Domain	J2EE ドメイン マッピング (サービス状況)
	J2EE ドメイン マッピング (SLM)
J2EE Server	J2EE サーバマッピング (サービス状況)
	J2EE サーバマッピング (SLM)
JDBC Data Source	JDBC データソース マッピング (サービス状況)
	JDBC データソース マッピング (SLM)

CI タイプ	KPI 割り当て
JVM	JVM マッピング (サービス状況)
	JVM マッピング (SLM)

グラフ

OMi MP for Oracle WebLogic には、WebLogic CI にマッピングされた一連のグラフがあります。

次の表は、OMi MP for Oracle WebLogic に含まれるグラフテンプレートとマッピングされているメトリックの一覧です。

グラフ テンプレート	説明	メトリック名
WebLogic Cluster	このグラフは WebLogic クラスターの詳細を表します。	<ul style="list-style-type: none"> クラスタ実行時再送信要求 クラスタ発信メッセージ失敗率 マルチキャストメッセージリスト数 クラスタ受信メッセージ失敗率 クラスタ状況
WebLogic EJB	このグラフは WebLogic EJB の詳細を表します。	<ul style="list-style-type: none"> 現在の EJB プール待ち数 EJB プール待機率 EJB プール実行時タイムアウト数 EJB タイムアウト率 EJB Transaction Throughput Rate EJB トランザクションのロールバック率 EJB 実行時キャッシュアクセス数 EJB 破棄合計数

WebLogic Connections	このグラフは WebLogic 接続の詳細を表します。	<ul style="list-style-type: none"> • 現在のアクティブ接続数 • コネクタプール使用率 • 現在の空き接続数 • 現在の待ち数 • 現在の接続拒否数 • エラーで破棄された接続の合計数 • 遅延要求数
WebLogic JDBC	このグラフは WebLogic JDBCの詳細を表します。	<ul style="list-style-type: none"> • 現在のアクティブ JDBC 接続数 • JDBC 接続プール使用率 • JDBC 接続プールのスループット率 • 現在の JDBC 接続待ち数 • JDBC 接続合計数 • JDBC リークした接続数 • JDBC 接続失敗
WebLogic JMS	このグラフは WebLogic JMSの詳細を表します。	<ul style="list-style-type: none"> • 処理済みメッセージ数 • メッセージ保留数 • スループット メッセージ率 • JMS 使用率 (バイト数) • JMS 使用率 (メッセージ数) • JMS 実行時メッセージ受信数 • JMS 実行時バイト受信数

WebLogic JVM	このグラフは WebLogic JVM の詳細を表します。	<ul style="list-style-type: none"> • JVM メモリ使用率 • JVM ヒープの空きメモリ • ガベージコレクション回数 • 全プロセス平均負荷 • 現在のオープンソケット数 • ソケットトラフィック率
WebLogic Server	このグラフは WebLogic Server の詳細を表します。	<ul style="list-style-type: none"> • サーバステータス • 無効なログオン試行合計数 • 要サーバ再起動
WebLogic Servlets	このグラフは WebLogic サーブレットの詳細を表します。	<ul style="list-style-type: none"> • サーブレット平均実行時間 • サーブレット要求率 • サーブレット時間数 • Webapp セッション数 • Webapp ヒット率
WebLogic Threads	このグラフは WebLogic スレッドの詳細を表します。	<ul style="list-style-type: none"> • 実行スレッド数 • アイドルスレッド数 • 実行キュー待ち数 • 保留ユーザ要求数 • 実行キュースループット • スタンバイスレッド数 • 実行中のスレッド要求 • 完了済みスレッド要求 • 要求最長待ち時間

WebLogic Transactions	このグラフは WebLogic トランザクションの詳細を表します。	<ul style="list-style-type: none"> • コミットされたトランザクションの合計数 • ロールバックされたトランザクションの合計数 • トランザクション平均時間 • トランザクションスループット率 • トランザクションヒューリスティック数 • トランザクション容量使用率
WebLogic XML Cache	このグラフは WebLogic XML キャッシュの詳細を表します。	<ul style="list-style-type: none"> • XML キャッシュディスクサイズ • XML キャッシュメモリサイズ

ツール

OMi MP for Oracle WebLogic では、WebLogic アプリケーション サーバ CI の管理や監視、トラブルシューティングを可能にするツールがパッケージ化されています。OMi MP for Oracle WebLogic は、以下のツールで構成されています。

ツールにアクセスする方法

1. [ツール] ペインを開きます。

BSM では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[操作コンソール]** > **[ツール]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[操作コンソール]** > **[ツール]** をクリックします。

2. [CI タイプ] ペインで、**[ConfigurationItem]** > **[InfrastructureElement]** > **[RunningSoftware]** > **[ApplicationServer]** > **[J2EE Server]** > **[Weblogic AS]** をクリックします。

CI タイプ	ツール カテゴリ	ツール	説明
Computer	Weblogic モニタリングツール	Weblogic モニタの再起動	管理対象サーバに対する Weblogic モニタを再起動します。
		Weblogic モニタの開始	管理対象サーバに対する Weblogic モニタを開始します。
		Weblogic モニタの停止	管理対象サーバに対する Weblogic モニタを停止します。

第4章: OMi MP for Oracle WebLogic のカスタマイズ

OMi MP for Oracle WebLogic は、監視要件に合うようにカスタマイズできます。WebLogic アプリケーションサーバ環境の監視要件に合わせて WebLogic 管理テンプレートを編集または新規作成できます。

この項では、デプロイ前の WebLogic 管理テンプレートのカスタマイズについて説明します。

デプロイ前の WebLogic 管理テンプレートのカスタマイズ

OMi MP for Oracle WebLogic をカスタマイズして、環境内の WebLogic アプリケーションサーバを最適かつシームレスに監視できます。OMi MP for Oracle WebLogic では、以下のカスタマイズシナリオを用意しています。

- 「[WebLogic 管理テンプレートの作成](#)」
- 「[WebLogic 管理テンプレートの編集](#)」

WebLogic 管理テンプレートの作成


1. [管理テンプレートおよびアспект] マネージャを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。



OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。



[構成フォルダ] > [アプリケーションサーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] をクリックします。



3. Weblogic 構成フォルダを選択します。新しい構成フォルダを作成する必要がある場合は、 をクリックします。[構成フォルダの作成] が開きます。
4. 新しい構成フォルダの名前と説明を入力します。たとえば、新しい構成フォルダの名前を <Test> と入力します。
5. [OK] をクリックします。新しい構成フォルダが作成されます。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [テスト]

6. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインで、新しい構成フォルダを選択します。続いて、 をクリックし、 **[管理テンプレートの作成]** をクリックします。[管理テンプレートの作成] ウィザードが開きます。
7. [一般] ページで、新しい WebLogic 管理テンプレートの **[名前]** を入力します。**[次へ]** をクリックします。
8. WebLogic 管理テンプレートでは、WebLogic アプリケーション サーバ CI とそれに関連するすべての従属 CI を管理できます。トポロジビューとして、リストから **Weblogic_Deployment_View** を選択します。Weblogic_Deployment_View では、WebLogic CI と関連するすべての CI タイプが表示されます。
9. トポロジ マップのアイテムをクリックし、この管理テンプレートで管理できる CI の **CI タイプ** を選択します。これは、管理テンプレートの割り当てが可能な CI のタイプを表します。たとえば、WebLogic アプリケーション サーバを監視するには、[J2EE Application] を選択します。

[次へ] をクリックします。

10. [アスペクト] ページで  をクリックします。続いて、 **[既存アスペクトの追加]** をクリックし、既存のアスペクトを新しい WebLogic 管理テンプレートに追加します。[既存アスペクトの追加] ダイアログボックスが開きます。追加するアスペクトを選択し、**[OK]** をクリックします。


適切なアスペクトが存在しない場合は  をクリックします。続いて、 **[新規アスペクトの追加]** をクリックしてここからアスペクトを作成します。

11. 追加した各アスペクトについて、少なくとも 1 つの **ターゲット CI** を指定する必要があります。

リストのアスペクトをクリックします。続いて、トポロジ マップで、この管理テンプレートを割り当てるときにアスペクトで監視する CIT をクリックします(複数の CIT を選択するには、**[CTRL]** を押します。)ここで選択する各 CIT は、アスペクト内で割り当てた CIT の 1 つ (または、こうした CIT の子) と対応させる必要があります。たとえば、トポロジ マップから WebLogic CI を選択できます。

12. [パラメータ] ページで、この管理テンプレートに追加したアスペクトにあるすべてのパラメータの一覧を参照できます。


パラメータを結合するには、以下の操作を行います。

- a. **[CTRL]** を押して、結合するパラメータをクリックします。
- b.  をクリックします。[パラメータの編集/結合] ダイアログボックスが開きます。
- c. 結合パラメータの **[名前]** を入力します。
- d. (オプション) **[説明]** および **[デフォルト値]** を指定します。また、結合パラメータが **[読み取り専用]**、**[エキスパート設定]**、**[非表示]** のいずれかも指定します。

特定のデフォルト値を指定できるほか、**[CI 属性から]**をクリックしてCI属性を参照することもできます。CI属性を指定する場合、Operations ManagementはこのCI属性の実際の値を使用して、基になるポリシーテンプレートのデプロイ時に自動的にパラメータ値を設定します。また、条件付きパラメータ値を変更することもできます。(条件は読み取り専用で、管理テンプレートレベルでは変更できません。)

[読み取り専用]にすることで、構成アイテムに管理テンプレートを割り当てる際にパラメータ値が変更されないようにできます。[非表示]にしても変更を防げますが、管理テンプレートの割り当て時やパラメータの調整中はパラメータも見えなくなります。ユーザは割り当て時に、エキスパート設定を表示するかどうかを選択できます。

- e. **[OK]**をクリックします。

また、複数のパラメータを結合せずに編集し、アスペクトまたはポリシーテンプレートのデフォルト値を上書きすることもできます。パラメータを1つクリックし、をクリックします。[パラメータの編集/結合]ダイアログボックスが開きます。

13. [管理テンプレートの作成]ウィザードで**[完了]**をクリックし、管理テンプレートを保存してからウィザードを閉じます。新しい管理テンプレートが、[管理テンプレートおよびアスペクト]ペインに表示されません。

WebLogic 管理テンプレートの編集

WebLogic 管理テンプレートを編集して、以下のコンポーネントを変更できます。

- パラメータ
- WebLogic アスペクト

パラメータの編集

事例: 環境内のWebLogic JVM ヒープメモリ使用率を監視するため、基本 WebLogic 管理テンプレートを使用しています。JVM の使用中ヒープ領域の割合を監視しており、JVM ヒープ領域に対応するパラメータを変更して、メモリ使用率を厳密に監視します。

環境内のJVMヒープ領域を厳密に監視するには、JVMヒープ領域パラメータ([JVMの使用中ヒープ領域の割合の頻度]、[JVMの使用中ヒープ領域の割合の重要度]、[JVMの使用中ヒープ領域の割合のしきい値])を変更する必要があります。


1. [管理テンプレートおよびアスペクト]を開きます。

BSMでは、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]**をクリックします。

OMiでは、**[管理]** > **[監視]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]**をクリックします。

2. [構成フォルダ]ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [管理テンプレート] > [基本 Weblogic 管理テンプレート] をクリックします。

3. リストから [基本 Weblogic 管理テンプレート] を選択し、 をクリックします。[管理テンプレートの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [パラメータ] タブをクリックします。パラメータのリストが表示されます。
5. [JVM の使用中ヒープ領域の割合] パラメータをダブルクリックします。[パラメータの編集] ウィンドウが表示されます。

このインスタンスでは、[JVM の使用中ヒープ領域の割合] パラメータは、[JVM の使用中ヒープ領域の割合の頻度]、[JVM の使用中ヒープ領域の割合の重要度]、[JVM の使用中ヒープ領域の割合のしきい値] です。

6. ドロップダウンテキストを使用して、デフォルト値を変更できます。たとえば、[JVM の使用中ヒープ領域の割合の重要度を下げる] パラメータの値を、[警戒域] から [重要警戒域] に変更できます。
7. [OK] をクリックします。[管理テンプレートの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
8. [OK] をクリックします。WebLogic 管理テンプレートのバージョンが1つ増加します。

注: WebLogic 管理テンプレートのバージョン数は、WebLogic 管理テンプレートがカスタマイズされるたびに増加します。

WebLogic アスペクトの編集

事例: 詳細 WebLogic 管理テンプレートを使用して、J2EE 環境を監視しています。詳細 WebLogic 管理テンプレートの一部であるアスペクトのうちいくつかは使用しません。


1. [管理テンプレートおよびアスペクト] マネージャを開きます。


BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [管理テンプレート] > [詳細 Weblogic 管理テンプレート] をクリックします。

3. リストから [詳細 Weblogic 管理テンプレート] を選択し、 をクリックします。[管理テンプレートの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [アスペクト] タブをクリックします。アスペクトのリストが表示されます。
5. リストから削除するアスペクトを選択します。たとえば、[Weblogic JCA 統計] を削除します。

6.  をクリックして選択したアスペクトを削除します。
7. **[OK]** をクリックします。WebLogic 管理テンプレートのバージョンが1つ増加します。

第5章: デプロイメント シナリオ

この項では、さまざまな WebLogic Server 構成での OMi MP for Oracle WebLogic のデプロイについて説明します。OMi MP for Oracle WebLogic は、次の構成の監視に使用できます。

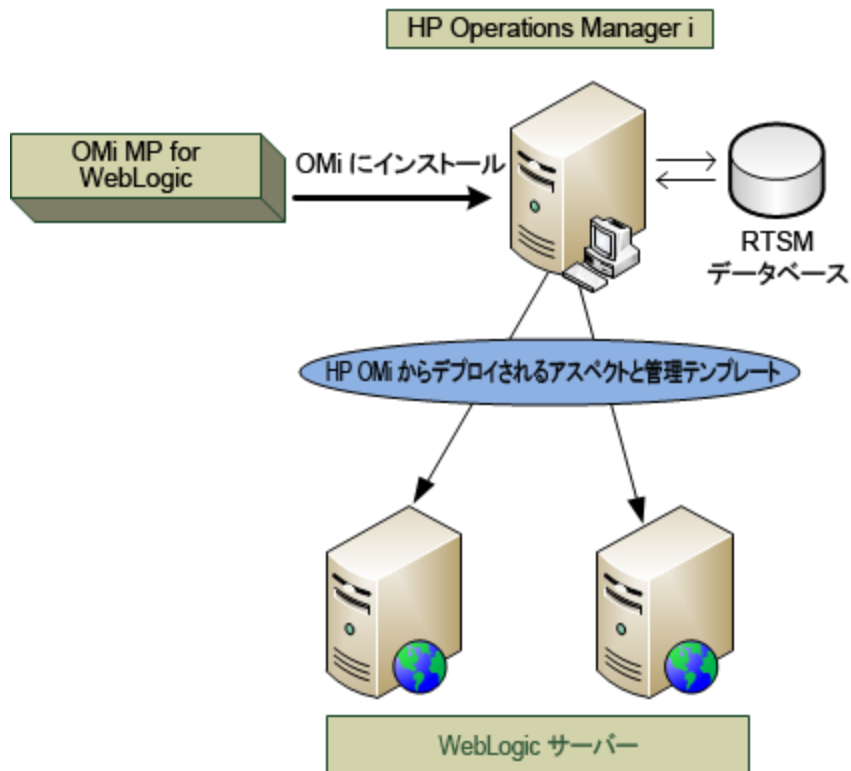
- シングルドメイン
- クラスタ
- LDAP または SSL 認証を使用したセキュア構成
- 高可用性環境 (ハードウェア クラスタ)

標準環境での WebLogic アプリケーション サーバ

WebLogic 標準環境は、管理サーバで管理されるスタンドアロン WebLogic Server で構成されます。WebLogic 標準環境に OMi MP for Oracle WebLogic をデプロイするには、次の手順を実行します。

1. 監視するノードを OMi コンソールに追加する必要があります。詳細については、「[タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加](#)」(BSM) および「[タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加](#)」(OMi) を参照してください。
2. WebLogic アプリケーション サーバ CI を検出するための WebLogic 検出アスペクトを管理対象ノードにデプロイします。詳細については、「[タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。
3. 監視要件に従って、WebLogic 管理テンプレートを特定してデプロイします。詳細については、「[タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。

次の図は、OMi MP for Oracle WebLogic を標準の非クラスタ環境の WebLogic Server にデプロイする場合の典型的なデプロイメント シナリオを示しています。



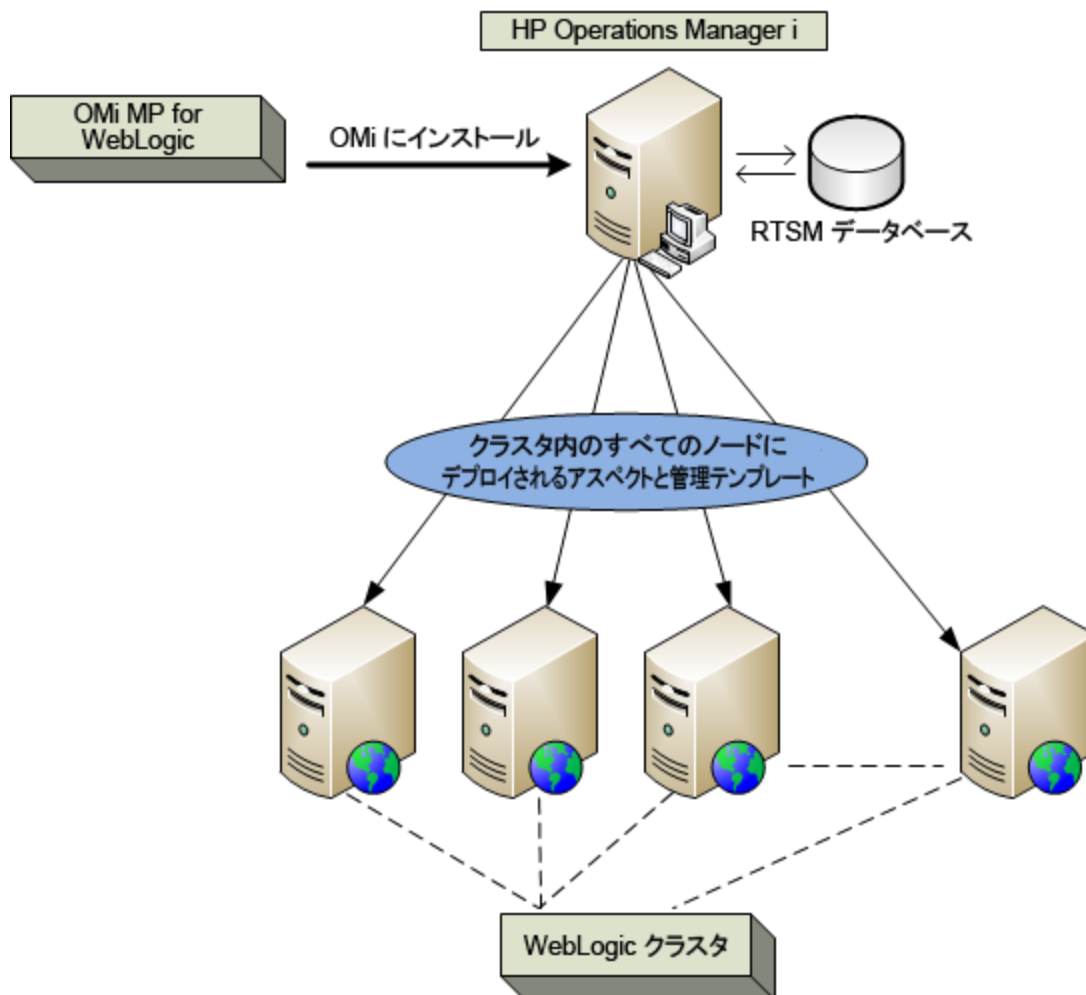
クラスタ環境でのWebLogic アプリケーション サーバ

WebLogic クラスタ環境は、高可用性および拡張性を実現するために同時に相互接続された WebLogic サーバインスタンスで構成されます。WebLogic クラスタ環境に OMi MP for Oracle WebLogic をデプロイするには、以下の手順を実行します。

注: OMi MP for Oracle WebLogic は、監視する WebLogic クラスタ環境内のすべての WebLogic アプリケーション サーバにデプロイされている必要があります。

1. 監視するノードを OMi コンソールに追加する必要があります。詳細については、「[タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加](#)」(BSM) および「[タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加](#)」(OMi) を参照してください。
2. WebLogic CI を検出するための WebLogic 検出アスペクトをクラスタ内の管理対象ノードにデプロイします。詳細については、「[タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。
3. 詳細 WebLogic 管理テンプレートを、監視するクラスタ内のすべてのノードにデプロイします。詳細については、「[タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定制とデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定制とデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。

次の図は、OMi MP for Oracle WebLogic を WebLogic Server クラスタにデプロイする場合の典型的なデプロイ例を示しています。



LDAP または SSL 認証プロバイダを使用している WebLogic アプリケーション サーバ

Secure Sockets Layer (SSL) や Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) のような認証プロバイダを使用して、WebLogic アプリケーション サーバを設定することで、セキュアで安定したサーバ環境を実現できます。SSL および LDAP 認証を使用している WebLogic アプリケーション サーバに OMi MP for Oracle WebLogic をデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. 監視するノードを OMi コンソールに追加する必要があります。詳細については、「[タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加](#)」(BSM) および「[タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加](#)」(OMi) を参照してください。
2. WebLogic アプリケーション サーバ CI を検出するための WebLogic 検出アスペクトを管理対象ノードにデプロイします。


- a. [管理 テンプレート およびアспект] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。

- b. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。


[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [アспект] をクリックします。

- c. [WebLogic アспект] フォルダで **Weblogic 検出アспект** をクリックし、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。


- d. [構成アイテム] タブで検出アспектをデプロイする構成アイテムをクリックし、[次へ] をクリックします。

[必要なパラメータ] タブが開きます。


- e. [必要なパラメータ] タブでは、必須パラメータ [ユーザ名] と [パスワード] を指定します。


- i. リストの [Weblogic ユーザ名] パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: Weblogic ユーザ名] ダイアログボックスが開きます。

- ii. [値] をクリックして、認証タイプに応じて LDAP ユーザ名を指定し、[OK] をクリックします。

- iii. リストの [Weblogic パスワード] パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: Weblogic パスワード] ダイアログボックスが開きます。

- iv. [値] をクリックして、認証タイプに応じて LDAP パスワードを指定し、[OK] をクリックします。

- f. [次へ] をクリックして [パラメータ サマリ] タブ (OMi) [すべてのパラメータ] タブ (BSM) に進みます。パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

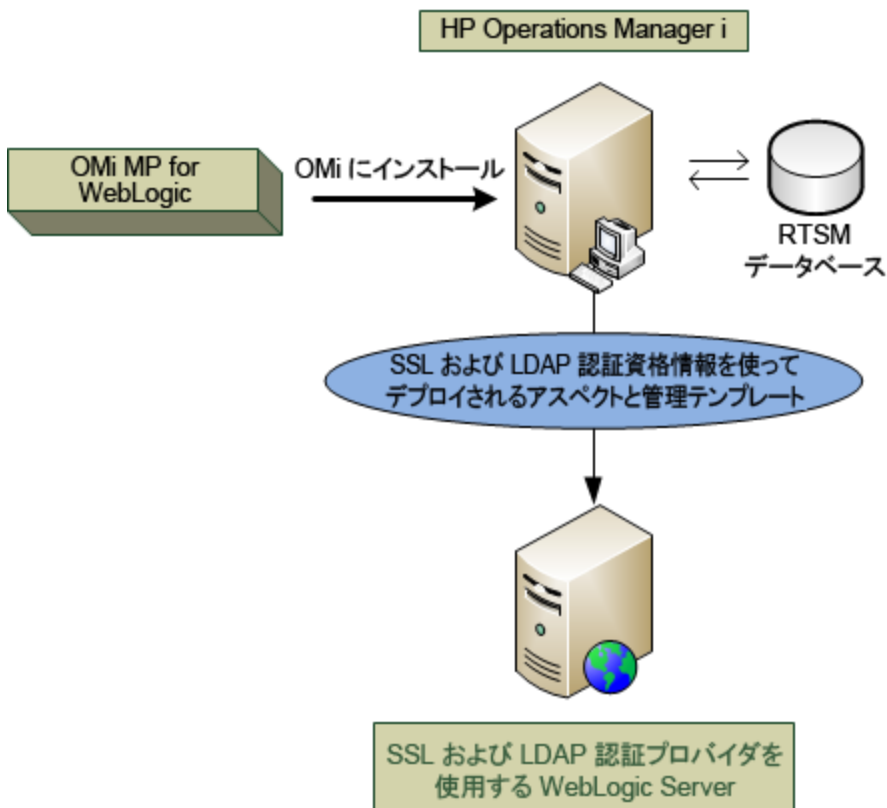
注: [すべてのパラメータ] / [パラメータ サマリ] タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、アспект レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 [エキスパート パラメータの表示] をクリックします。

- g. [次へ] をクリックします。

- h. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、[割り当ての有効化] チェックボックス (OMi) および [割り当てオブジェクトの有効化] チェックボックス (BSM) を外します。[割り当ておよび調整] マネージャを使用して、後で割り当てを有効化できます。

- i. **[完了]**をクリックします。

次の図は、OMi MP for Oracle WebLogic を SSL または LDAP 認証プロバイダを使用している WebLogic Server にデプロイする場合の典型的なデプロイメント例を示しています。



高可用性環境での WebLogic アプリケーション サーバ

高可用性環境に OMi MP for Oracle WebLogic をデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. 監視するノードを OMi コンソールに追加する必要があります。詳細については、「[タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加](#)」(BSM) および「[タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加](#)」(OMi) を参照してください。
2. WebLogic アプリケーション サーバ CI を検出するための WebLogic 検出アスペクトを管理対象ノードにデプロイします。詳細については、「[タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ](#)」「[タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。
3. 監視要件に従って、Weblogic 管理テンプレートを特定してデプロイします。詳細については、「[タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(BSM) および「[タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」(OMi) を参照してください。

4. OMi MP for Oracle WebLogic 監視機能の設定ファイルを作成するWebLogic 環境用のクラスタアプリケーション設定ファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

- a. 以下の構文を使用して、WebLogic.apminfo.xml ファイルを作成します。

注: OMi MP for Oracle WebLogic は、クラスタアプリケーション設定ファイルと連携する監視設定ファイル WebLogic.apminfo.xml を使用します。WebLogic.apminfo.xml ファイルには、管理対象ノードの WebLogic 管理テンプレートがすべてリストされます。そのため、非アクティブなノードとアクティブノードに応じて、これらのテンプレートを無効または有効にすることができます。

```
<?xml version="1.0"?>
<APMApplicationConfiguration>
<Application>
<Name> ...</Name>
<Template> ...</Template>
<StartCommand>Weblogic_Perl Weblogic_Config.pl</StartCommand>
<StopCommand>Weblogic_Perl Weblogic_Config.pl stopMonitoring</StopCommand>
</Application>
</APMApplicationConfiguration>
```

- b. <Name></Name> タグ内に、**namespace_name** を入力します。
 - c. HTTPS エージェントの場合には、%OVADATADIR%/bin/instrumentation/conf ディレクトリに保存します。
5. クラスタ化されたアプリケーションの設定ファイルを作成します。クラスタアプリケーション設定ファイル apminfo.xml を作成するには、以下の手順を実行します。

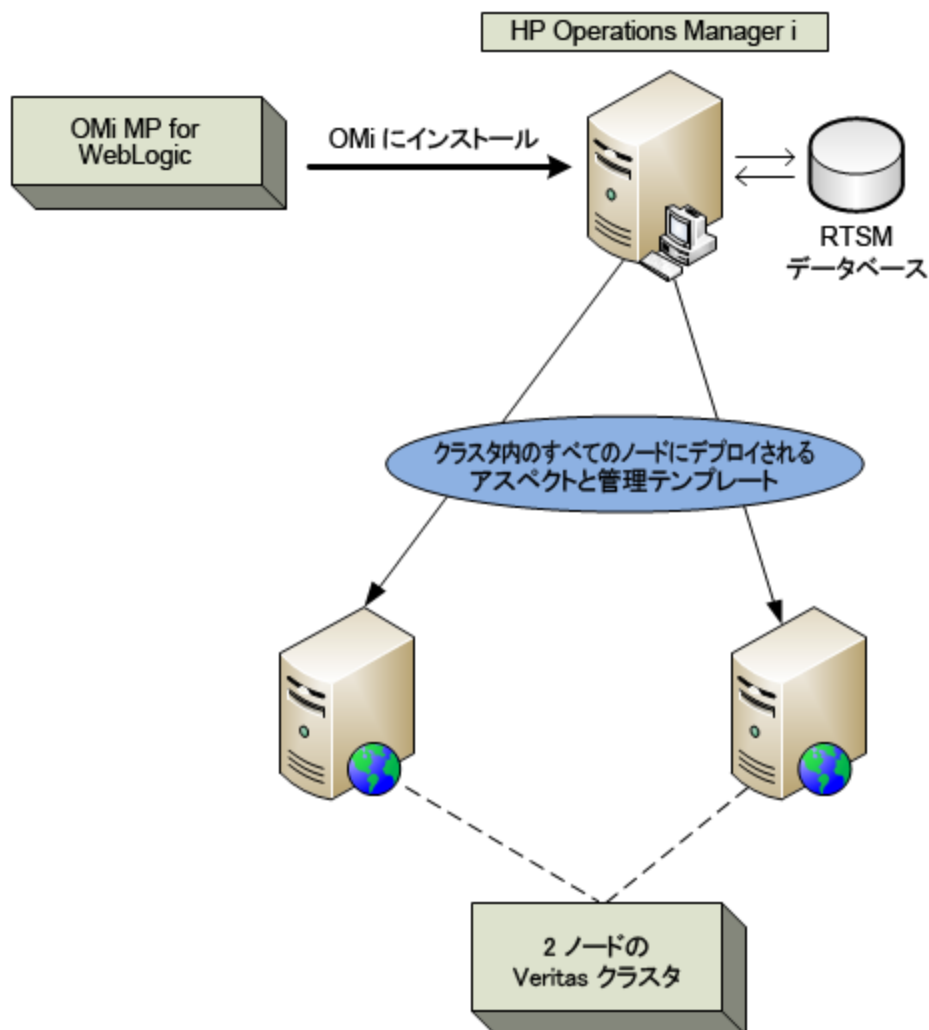
- a. テキスト エディタを使用して、ファイルを作成します。構文は以下のとおりです。

```
<?xml version="1.0"?>
<APMClusterConfiguration>
<Application>
<Name>namespace_name</Name>
<Instance>
<Name><Instance Name></Name>
<Package><Package Name></Package>
</Instance>
```

```
<Application>  
</APMClusterConfiguration>
```

- b. <Name></Name> タグ内に、**namespace_name** を入力します。
- c. HTTPS エージェントの場合には、apminfo.xml ファイルを %OVADATADIR%/conf/conf ディレクトリに保存します。

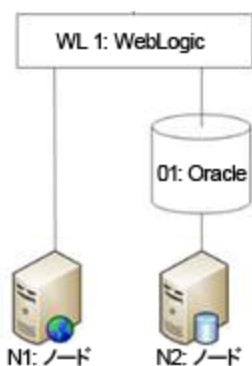
以下の図は、OMi MP for Oracle WebLogic を Veritas の 2 ノード クラスタにデプロイする場合の典型的なデプロイメント例を示しています。



第6章: 複合アプリケーション

この項では、WebLogic アプリケーション サーバ、Oracle Database、インフラストラクチャを含む複合アプリケーションの監視について説明します。

以下の図のような、WebLogic サーバ、Oracle Database、WebLogic サーバおよび Oracle Database に接続されたノードで構成される複合アプリケーションのインスタンスのエンタープライズ環境トポロジを考えてみましょう。WebLogic アプリケーション サーバ、Oracle インスタンス、インフラストラクチャの各要素を監視するには、詳細 WebLogic およびデータベース管理 テンプレートをデプロイする必要があります。



複合アプリケーションの監視

複合アプリケーションのインスタンスを監視するには、次のタスクを実行します。

タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加

複合アプリケーションのインスタンスを監視する前に、監視するノードを OMi コンソールに追加し、OMi コンソールに追加されているすべてのノードに Agent がインストールされていることを確認する必要があります。

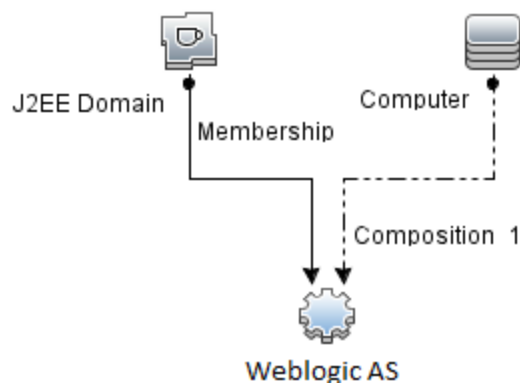
注: OMi コンソールへのノードの追加の詳細については、「作業の開始」を参照してください。

タスク 2: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ

WebLogic 検出アスペクトにより、環境内の WebLogic Server インスタンスを検出できます。追加した管理対象ノード上の WebLogic アプリケーション サーバ構成アイテム (CI) を検出するには、WebLogic 検出アスペクトを Computer CI にデプロイする必要があります。

WebLogic 検出アスペクトをデプロイすると、次の CI タイプ (CIT) の CI が検出されます。

- j2eedomain
- weblogicas



注: 検出アスペクト 1.01 をデプロイする前に、次の手順を実行します。

- WebLogic 検出アスペクト 1.0 に関連付けられた CI 割り当てを削除します
- WebLogic 検出アスペクト 1.0 をデプロイ解除します
- WebLogic 検出アスペクト 1.01 をデプロイします

WebLogic アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。


1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。


OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト] をクリックします。


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [アスペクト] をクリックします。

3. [アスペクト] フォルダで [Weblogic 検出] アスペクトをクリックし、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. [構成アイテム] ページで検出アスペクトをデプロイする構成アイテムをクリックし、[次へ] をクリックします。

[必要なパラメータ] タブが開き、この割り当てに編集が必要なパラメータが存在しないことを示すメッセージが表示されます。

5. **[必要なパラメータ]** タブで、**[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブ (OMi) および **[すべてのパラメータ]** タブ (BSM) に進みます。
6. (オプション) **[パラメータ サマリ]** タブ (OMi) および **[すべてのパラメータ]** タブ (BSM) で、パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択してから  をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: **[パラメータ サマリ]** タブ (OMi) および **[すべてのパラメータ]** タブ (BSM) では、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、アスペクトレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックス (OMi) および **[割り当ての有効化]** チェックボックス (BSM) を外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

注: WebLogic 検出アスペクトをデプロイすると、**[割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました]** から始まるメッセージが表示されます。デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、**[管理] > [監視] > [デプロイメント ジョブ]** (OMi) および **[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [デプロイメント ジョブ]** (BSM) を選択します。

タスク3: 検出の確認

BSM の場合:

検出アスペクトをデプロイした後、View Explorer に CI が表示されていることを確認する必要があります。表示された CI を確認するには、以下の手順を実行します。

1. **[アプリケーション] > [オペレーション管理] > [Event Perspective]** をクリックします。

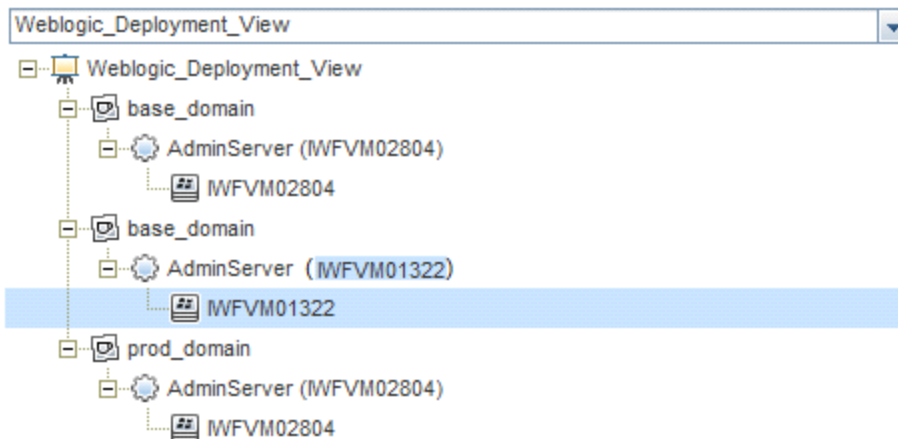
[View Explorer] で、ドロップダウンリストから **Weblogic_Deployment_View** を選択します。**Weblogic_Deployment_View** に関連付けられている CI を確認できます。

OMi の場合:

検出アスペクトをデプロイした後、**[360° View]** に CI が表示されていることを確認する必要があります。表示された CI を確認するには、以下の手順を実行します。

[360° View] に CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. OMi コンソールで、[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [360⁰ View] をクリックします。
2. ドロップダウンリストから [360⁰ View] を選択します。[360⁰ View] ページが表示されます。
3. [360⁰ View] ペインで **Weblogic_Deployment_View** を選択します。[360⁰ View] に CI が表示されています。




タスク 4: 詳細 WebLogic 管理テンプレートのデプロイ


詳細 WebLogic 管理テンプレートを WebLogic ドメインレベルでデプロイするには、以下の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアспект] マネージャを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。


OMi では、[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект] をクリックします。
2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [管理テンプレート] > [詳細 Weblogic 管理テンプレート] をクリックします。
3. [詳細 Weblogic 管理テンプレート] をクリックしてから、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードをクリックします。
4. [構成アイテム] タブで管理テンプレートを割り当てる WebLogic ドメイン CI をクリックし、[次へ] をクリックします。アイテムを複数選択するには、[CTRL] キーや [SHIFT] キーを押しながらアイテムを選択してください。
5. [必要なパラメータ] では、必須パラメータ [ユーザ名] と [パスワード] を指定します。これらのパラメータ

の値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

注: 設定を続行するには、すべてのパラメータの値を指定する必要があります。

6. [パラメータ サマリ] タブ (OMi) および [すべてのパラメータ] タブ (BSM) では、パラメータのデフォルト値を上書きできます。

注: [パラメータ サマリ] タブ (OMi) および [すべてのパラメータ] タブ (BSM) では、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 [エキスパート パラメータの表示] をクリックします。

7. [次へ] をクリックします。
8. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、[割り当てオブジェクトの有効化] チェックボックス (BSM) および [割り当ての有効化] チェックボックス (OMi) を外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. [完了] をクリックします。

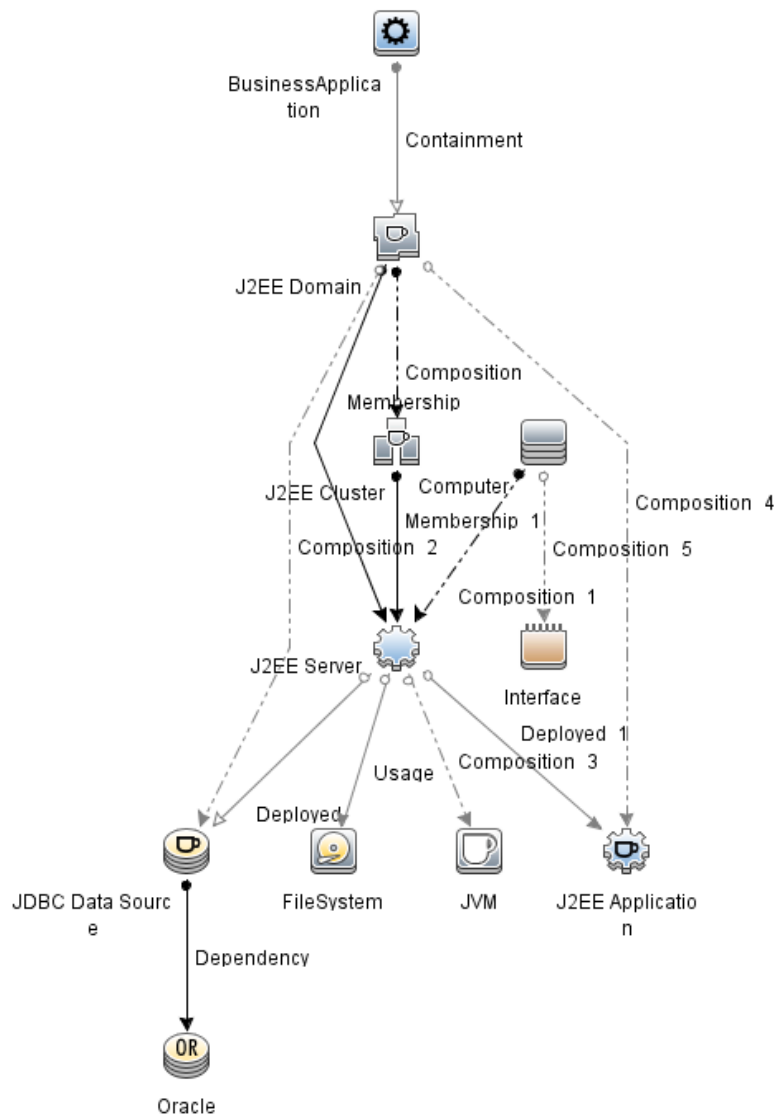
注: 管理テンプレートのデプロイ時に与えられる資格情報には、OMi MP for Oracle WebLogic のデータ収集権限が必要となります。詳細については、『OMi MP for Oracle WebLogic インストールガイド』の「ユーザ権限」を参照してください。

タスク5: 詳細 WebLogic およびデータベース管理テンプレートのデプロイ

WebLogic 管理テンプレートをデプロイする前に、WebLogic 検出アスペクトをデプロイする必要があります。詳細については、「[タスク2: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ](#)」

WebLogic 管理テンプレートでは、次の CIT の CI を検出し、次の図に示すトポロジを完成します。

- JVM
- アプリケーション サーバ
- JDBC と基になるデータベース
- Oracle



詳細 WebLogic およびデータベース管理 テンプレートを WebLogic ドメインレベルでデプロイするには、以下の手順を実行します。



1. [管理 テンプレート および アスペクト] マネージャを開きます。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理 テンプレート および アスペクト] をクリックします。

OMi では、[管理] > [監視] > [管理 テンプレート および アスペクト] をクリックします。


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [Application Server Management] > [Oracle WebLogic Management] > [管理テンプレート] > [詳細 Weblogic およびデータベース管理テンプレート] をクリックします。

3. **[詳細 WebLogic およびデータベース管理テンプレート]** をクリックしてから、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードをクリックします。
4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる WebLogic ドメイン CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。アイテムを複数選択するには、**[CTRL]** キーや **[SHIFT]** キーを押しながらアイテムを選択してください。
5. **[必要なパラメータ]** タブでは、必須パラメータ **[ユーザ名]** と **[パスワード]** を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: 設定を続行するには、すべてのパラメータの値を指定する必要があります。

6. **[パラメータ サマリ]** タブ (OMi) および **[すべてのパラメータ]** タブ (BSM) では、パラメータのデフォルト値を上書きできます。

注: **[パラメータ サマリ]** タブ (OMi) および **[すべてのパラメータ]** タブ (BSM) では、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。
8. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックス (BSM) および **[割り当ての有効化]** チェックボックス (OMi) を外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

注: 管理テンプレートのデプロイ時に与えられる資格情報には、OMi MP for Oracle WebLogic のデータ収集権限が必要となります。詳細については、『OMi MP for Oracle WebLogic インストールガイド』の「ユーザ権限」を参照してください。

詳細 Weblogic およびデータベース管理テンプレートをデプロイした後、WebLogic アスペクトが WebLogic アプリケーション サーバ CI に、インフラストラクチャアスペクトが Node CI に、Oracle アスペクトが JDBC データソースに関連する Oracle CI にデプロイされます。これで、1 つのデプロイメントから複合アプリケーションを監視できるようになります。

WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic ベースアスペクトをデプロイした後、[View Explorer] に CI が表示されるかどうかを確認できます。

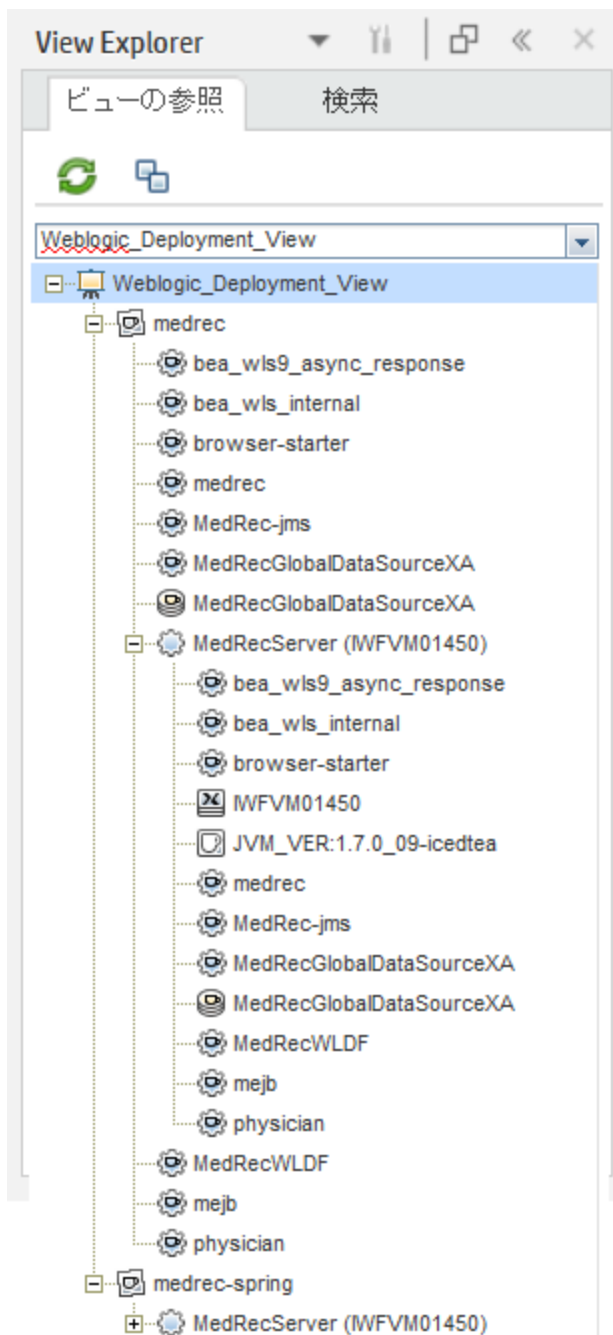
[View Explorer] で CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. 次の手順で [Event Perspective] ペインを開きます。

BSM では、次をクリックします。[アプリケーション] > [オペレーション管理] > [Event Perspective]

OMi では、次をクリックします。[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Event Perspective]

2. [View Explorer] で、ドロップダウン リストから **Weblogic_Deployment_View** を選択します。次の図に示すように、**Weblogic_Deployment_View** に関連付けられている CI から構成される拡張トポロジを確認できます。



第7章:トラブルシューティング

この項では、トラブルシューティングについて説明します。

注: ここで説明するトラブルシューティング手順は、WebLogic ノードで実行する必要があります。

ライセンス数が更新されない

問題: ライセンス管理でライセンス数が更新されません。


解決策: この問題を解決するには、以下の手順を実行します。

1. OMi MP for Oracle WebLogic のインストール後、以下の手順を実行して、ライセンスがアクティブになっていることを確認します。

- a. [ライセンス管理]を開きます。

BSM では、[管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理]をクリックします。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理]をクリックします。

- b. をクリックし、license.dat ファイルを選択します。ライセンスの詳細情報が[ライセンス管理]ウィンドウに表示されます。

ライセンス管理では、名前、ライセンスのタイプ、残り日数、有効期限、ライセンス数などの情報が表示されます。

2. 管理対象ノードでのライセンスの使用をチェックするには、管理対象ノードで以下のコマンドを実行します。

```
<OvAgentDir>/bin/ovodetect -t
```

前のコマンドの出力が mpinstance="1" である場合、Oracle WebLogic は監視されています。前のコマンドの出力が mpinstance="0" である場合、Oracle WebLogic は監視されていません。

3. それでも [ライセンス管理] に反映されない場合は、次のコマンドを実行し、管理対象ノードでエージェントを再起動します。

```
<OvAgentDir>/bin/ovc- restart opcmsga
```

管理テンプレートとアスペクトが管理対象ノードにデプロイされない

問題:管理テンプレートとアスペクトが管理対象ノードにデプロイされません。

解決策:この問題を解決するには、以下の手順を実行します。

1. デプロイメント ステータスを確認します。

BSM では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[デプロイメント ジョブ]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[監視]** > **[デプロイメント ジョブ]** をクリックします。

2. 割り当てステータスを確認します。

BSM では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[割り当ておよび調整]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[監視]** > **[割り当ておよび調整]** をクリックします。

3. 次の OMi ログファイルを確認します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/log/EJBContainer/opr-webapp.log
```

```
/opt/HP/BSM/log/EJBContainer/opr-configserver.log
```

Windows の場合:

```
%topaz_home%\log\EJBContainer\opr-webapp.log
```

```
%topaz_home%\log\EJBContainer\opr-configserver.log
```

インストール時の OMi MP for Oracle WebLogic 表示エラー

問題: OMi MP for Oracle WebLogic のインストールがエラーを返します。

解決策: mpinstall.log ログファイルをチェックして、エラーを確認します。

mpinstall.log ログファイルは、以下の場所にあります。

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\log\mpinstall.log
```

UNIX の場合:

\$TOPAZ_HOME/log/mpinstall.log

管理パックのアップロード時のOMi MP for Oracle WebLogic 表示エラー

問題: アップロード時に OMi MP for Oracle WebLogic がエラーを返します。

解決策: opr-configserver.log ログファイルをチェックして、エラーを確認します。

opr-configserver.log ログファイルは、以下の場所にあります。

Windows の場合:

%TOPAZ_HOME%\log\EJBContainer\opr-configserver.log

UNIX の場合:

\$TOPAZ_HOME/log/EJBContainer/opr-configserver.log

WebLogic 検出アスペクトをデプロイした後、ビューが表示されない

問題: WebLogic 検出アスペクトをデプロイした後、OMi MP for Oracle WebLogic のビューが表示されません。

解決策: 以下の手順を実行して、エラーを確認します。

1. Oracle WebLogic インストルメンテーション フォルダを開きます。

Windows の場合:

%OVADATADIR%\bin\instrumentation

UNIX の場合:

/var/opt/OV/bin/instrumentation

2. インストルメンテーション フォルダで次のファイルを探します。

bin/instrumentation/Weblogic_Discovery_Log4j.properties

3. Weblogic_Discovery_Log4j.properties ファイルを開きます。

4. log4j.appender.FILE.Threshold を選択し、log4j.appender.FILE.Threshold=trace に変更します。

Weblogic 検出に対してトレースが有効になっています。WeblogicDiscovery.log ログファイルが作成されます。

5. WeblogicDiscovery.log ログファイルをチェックして、エラーを確認します。

WeblogicDiscovery.log ログファイルは、以下の場所にあります。

Windows の場合:

```
%OVDATADIR%\log\Weblogic\
```

UNIX の場合:

```
/var/opt/OV/log/Weblogic/
```

WebLogic 検出アスペクトのデプロイメント中の「接続を確立できませんでした」エラー

問題: WebLogic 検出アスペクトのデプロイメント中に「接続を確立できませんでした」エラーが返されます。

解決策: この問題を解決するには、以下の手順を実行します。

1. デプロイメント中に入力した資格情報に WebLogic Application Server への必要なアクセス権があるかどうかを確認します。
2. WebLogic Application Server が SSL 認証プロバイダを使用している場合、WebLogic キーストアおよびパスフレーズを設定します。

Collection Manager for OMi MP for Oracle WebLogic が起動しない

問題: データ収集のための Collection Manager for OMi MP for Oracle WebLogic が起動しません。

解決策: この問題を解決するには、以下の手順を実行します。

1. Oracle WebLogic インストルメンテーション フォルダを開きます。

Windows の場合:

```
%ovdatadir%\bin\instrumentation
```

UNIX の場合:

```
/var/opt/OV/bin/instrumentation
```

2. インストルメンテーション フォルダで次のファイルを探します。

bin/instrumentation/Weblogic_cmlog4j.properties

3. **Weblogic_cmlog4j.properties** ファイルを開きます。
4. `log4j.appender.FILE.Threshold` を選択し、`log4j.appender.FILE.Threshold=trace` に変更します。

WebLogic Collection Manager に対してトレースが有効になっています。

5. `Collector.log` および `CollectionManager.log` ログ ファイルをチェックして、エラーを確認します。

`Collector.log` ログファイルは、以下の場所にあります。

Windows の場合:

```
%OVDATADIR%\log\Weblogic
```

UNIX の場合:

```
/var/opt/OV/log/Weblogic
```

`CollectionManager.log` ログファイルは、以下の場所にあります。

Windows の場合:

```
%OVDATADIR%\log\Weblogic\collectionManager
```

UNIX の場合:

```
/var/opt/OV/log/Weblogic/collectionManager
```

Performance Manager i (PMi) グラフ用のデータがない

問題: PMi グラフを作成するための情報を OMi MP for Oracle WebLogic から利用できません。

解決策: この問題を解決するには、以下の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行してグラフのデータソースが生成されているかどうかを確認します。

```
ovcodautl -obj WEBLOGIC_DATA
```

2. 以下のコマンドを実行して、WEBLOGIC_DATA データソースのデータダンプを確認します。

```
ovcodautl -dumpds WEBLOGIC_DATA
```

空のインスタンスがある場合、ステップ3および4を実行します。

3. `Weblogic_cmlog4j.properties` ファイルから `log4j.appender.FILE.Threshold` を選択し、`log4j.appender.FILE.Threshold=trace` に変更します。

WebLogic Collection Manager に対してトレースが有効になっています。

4. `Collector.log` および `CollectionManager.log` ログファイルをチェックして、エラーを確認します。

`Collector.log` ログファイルは、以下の場所にあります。

Windows の場合:

```
%OVDATADIR%\log\Weblogic
```

UNIX の場合:

```
/var/opt/OV/log/Weblogic
```

`CollectionManager.log` ログファイルは、以下の場所にあります。

Windows の場合:

```
%OVDATADIR%\log\Weblogic\collectionManager
```

UNIX の場合:

```
/var/opt/OV/log/Weblogic/collectionManager
```

Oracle WebLogic lib フォルダにアクセスできない

問題: 非 root ユーザが lib フォルダにアクセスできません。

解決策: 非 root ユーザに WebLogic インストールパスの Oracle WebLogic lib フォルダへの読み取りアクセス権を付与する必要があります。

メトリックのデータログに-1の値が表示される場合がある

問題: 次のいずれかの理由で、一部のメトリックのデータログに-1の値が表示される場合があります。

- WebLogic の実行時 MBean が未処理メトリックに対して Null 値を返す場合。
- 計算メトリックのオペランドが Null 値を持つ未処理メトリックを含む場合。

- 最初のスケジュールされた収集で、デルタや変更率のメトリックは -1 の値になります。これは想定される動作です。

解決策: -1 の値が表示される原因の詳細を確認するには、次の手順を実行します。

1. メトリックのデータログを表示するには、次のコマンドを実行します。

```
ovcodautl -dumpds WEBLOGIC_DATA
```

2. メトリック名を識別し、CODA ダンプで -1 とログ記録された値を含むメトリックをチェックします。

3. 次の場所にある WebLogic_MetricDefinition.xml を使用してメトリック ID を特定します。

```
%ovdatadir%/bin/instrumentation
```

4. 管理対象ノード上でコレクタログを確認し、次の場所にある collector.log ファイルで、Null 値のリターンメッセージを含む例外を表す収集 ID をチェックします。

```
%ovdatadir%/log/WebLogic
```

このメッセージを利用して、失敗した MBean クエリおよびメトリックに対して Null 値を返した MBean の詳細を確認できます。

収集プロセスが失敗する

問題: Expat.so ライブラリが /etc/profile ファイルで見つからないため、収集プロセスが失敗します。

解決策: 次の手順を実行して、/etc/profile ファイルを更新します。

1. 次のコマンドを使用して、Solaris 管理対象ノードで libgcc_s.so を検索します。

```
find / -name libgcc_s.so
```

2. 次のコマンドを使用して、32ビットの libgcc_s.so を検索します。

```
file <libgcc_s.so とパス>
```

3. 32ビットの libgcc_s.so がインストールされていない場合は、GCC ランタイムライブラリパッケージをインストールします。

4. /etc/profile で LD_LIBRARY_PATH を 32ビットの libgcc_s.so に設定します。

5. /etc/profile で LD_LIBRARY_PATH をエクスポートします。

検出した WebLogic サーバの接続エラー

問題: config.xml サーバのポート番号が間違っているため、検出した WebLogic サーバで接続エラーが発生します。

解決策: 次のとおり、config.xml サーバのポートを正しく設定します。

```
<server>  
<name>AdminServer</name>  
<listen-port>7007</listen-port>  
<listen-address></listen-address>  
</server>
```

注: リッスンポート番号は要件に従って変更できます。

付録: メトリックおよびデータソース

次の表に、OMi MP for Oracle WebLogic のテーブル名と関連するメトリックを示します。

注: WEBLOGIC_DATA は、OMi MP for Oracle WebLogic が収集データをログに記録するために使用するデータソースです。

テーブル クラス名	アспект	ポリシー名	メトリック	メトリックの データタイプ
WEBLOGI C_ CLUSTER	Weblogic ク ラスタステー タス	Weblogic_ ClusterOutMessageFailRate	WeblgcClisOutMsF ailRt	REAL64
		Weblogic_ ClusterInMessageFailureRate	Weblgc_ ClisInMsFailRt	REAL64
		Weblogic_ClusterHealthStatus	Weblgc_ ClusterHealth	REAL64
			WeblgcClusRTRsn dRqst	REAL64
			Weblgc_ McastMsgLstCt	REAL64

テーブル クラス名	アスペクト	ポリシー名	メトリック	メトリックの データタイプ
WEBLOGI C_EJB	Weblogic EJB パ フォーマンス		WeblgcEJBPIWtrC urCnt	REAL64
			SumWaiterCurrCnt	REAL64
			WeblgcEJBPoolWt RtSum	REAL64
		Weblogic_EJBPoolWaitCount	WeblgcEJBPoolWt Rt	REAL64
			WeblgcEJBPIRTT motCnt	REAL64
			SumTimeoutTotalC ount	REAL64
		Weblogic_EJBTimeoutCount	WeblgcEJBTimeout RtSm	REAL64
		Weblogic_EJBTimeoutRate	WeblgcEJBTimeout Rt	REAL64
			EJBMissTotalCount	REAL64
			SumEJBMissTotal Count	REAL64
		Weblogic_ SumOfEJBMissedCountRate	WeblgcEJBMssdC ntRtSm	REAL64
		Weblogic_ EJBMissedCountRate	WeblgcEJBMssdC ntRt	REAL64
		Weblogic_ EJBDestroyedTotalCount	WeblgcDstroydTIC nt	REAL64

テーブル クラス名	アスペクト	ポリシー名	メトリック	メトリックの データタイプ
WEBLOGI C_EJB_ CACHE	Weblogic EJB パ フォーマンス	Weblogic_ EJBCacheHitPercentage	WeblgcEJBCache HitPct	REAL64
			WeblgcEJBRTCac AccCnt	REAL64
			WeblgcEJBRTCac MisCnt	REAL64
			WeblgcEJBCache MisPct	REAL64
WEBLOGI C_EJB_ TRANS	Weblogic EJB パ フォーマンス	Weblogic_ EJBTransactionThroughputRate	WeblgcEJBTranThr uRt	REAL64
		Weblogic_ NumberEJBTransactionRollBac kRate	WeblgcEJBTranRb Rt	REAL64
			WeblgcTrnscComT otCnt	REAL64
			SumTrnscComTota lCnt	REAL64
			TrnscRIBkTotalCnt	REAL64
			SumTrnscRIBk	REAL64

テーブル クラス名	アスペクト	ポリシー名	メトリック	メトリックの データタイプ
WEBLOGI C_JCA	Weblogic JCA 統計	Weblogic_ JCAConnectionsUtilizationPct	WeblgcCnctrPoolUtil	REAL64
			WeblgcFreeConnC urCnt	REAL64
			WeblgcMaxCapacit y	REAL64
			WeblgcNumWaitrC urCnt	REAL64
		Weblogic_ NumWaitersCurrentCount	NumWaitrCurrCnt	REAL64
			WeblgcConRejTota lCnt	REAL64
		Weblogic_ ConnectionsRejectedTotalCoun t	ConnRejectedTotal Cnt	REAL64
			WeblgcConDeBErT otCnt	REAL64
		Weblogic_ ConnectionsDestroyedByErrorT otalCount	ConnDestByErrTot Cnt	REAL64
			WeblgcActivConCu rCnt	REAL64
WEBLOGI C_JCA_ RQSTS	Weblogic キャッシュ使 用率	Weblogic_ DeferredRequestsCount	WeblgcDeferredRe qCnt	REAL64
			WeblgcTCnstRTDe fRqst	REAL64

テーブル クラス名	アスペクト	ポリシー名	メトリック	メトリックの データタイプ
WEBLOGI C_JDBC			WeblgcJDBCConP oolUtl	REAL64
	Weblogic JDBC 接続 プールの テータス	Weblogic_ JDBCConnectionPoolUtilization	WeblgcJDBCConPI ThrRt	REAL64
			WeblgcWaiFrConC urCnt	REAL64
			WeblgcJDBCCnPI RTCrCy	REAL64
	Weblogic JCA 統計	Weblogic_ RequestsWaitingForConnection	WeblgcJDBCConPI WtCnt	REAL64
			WeblgcConnTotCnt	REAL64
			WeblgcLeakedCon nCnt	REAL64
	Weblogic JDBC 接続 プールの テータス	Weblogic_ JDBCConnectionLeakRate	WeblgcJDBCConL kRt	REAL64
			SumLeakedConnC ount	REAL64
			WeblgcJDBCConL kRtSum	REAL64
	Weblogic JDBC 接続 プールの テータス	Weblogic_ FailuresToReconnectCount	WeblgcJDBCConF ail	REAL64
	Weblogic JDBC 接続 プールの テータス	Weblogic_ ConnectionDelayTime	WeblgcJDBCConTi me	REAL64

テーブル/クラス名	アスペクト	ポリシー名	メトリック	メトリックのデータタイプ
	Weblogic JCA 統計	Weblogic_ WaitSecondsHighCount	WeblgcWaitSecHighCnt	REAL64
			WaitingForConFailTtl	REAL64
			WeblgcActvConnConnectorCnt	REAL64
WEBLOGIC_JDBC_CPTY			WeblgcJDBCCnPI RTCrCy	REAL64

テーブル クラス名	アスペクト	ポリシー名	メトリック	メトリックの データタイプ
WEBLOGI C_JMS	Weblogic JMS パ フォーマンス		WeblgcMsgPending Cnt	REAL64
			WeblgcMsgsCurCn t	REAL64
			JMSThruMessageR t	REAL64
			WeblgcJMSRTByt PndCnt	REAL64
			WeblgcJMSRTByt CurCnt	REAL64
			JMSServerThruByt eRt	REAL64
			WeblgcJMSRTMsg ThrTim	REAL64
		Weblogic_ JMSMessagesThresholdTime	WeblgcJMSThrBy MsgPct	REAL64
			WeblgcJMSRTByt ThrTim	REAL64
		Weblogic_ JMSBytesThresholdTimePerce ntage	WeblgcJMSThrByB ytPct	REAL64
			WeblgcJMSRTMsg RcvCnt	REAL64
			WeblgcJMSRTByt RcvCnt	REAL64
WEBLOGI C_JMS_ PROCMSG			WeblgcProcesedM sgCnt	REAL64
			MDBProcMsgRate	REAL64

テーブルクラス名	アスペクト	ポリシー名	メトリック	メトリックのデータタイプ
WEBLOGIC_JMS_UTIL	Weblogic JMS パフォーマンス		WeblogicJMSMsgMaximum	REAL64
		Weblogic_JMSUtilizationByMessagesPercentage	WeblogicJMSUtilByMsgPct	REAL64
			WeblogicJMSBytesMax	REAL64
		Weblogic_JMSUtilizationByBytesPercentage	WeblogicJMSUtilByBytePct	REAL64
WEBLOGIC_JROCKIT	Weblogic JVM ヒープメモリ		WeblogicJRktRTTotalGCCnt	REAL64
		Weblogic_GarbageCollectionCount	WeblogicGCCCount	REAL64
		Weblogic_GarbageCollectionTime	WeblogicJRktRTTotalGCTme	REAL64
			WeblogicJRktRTTotalIThr	REAL64
		Weblogic_GarbageCollectionThread	WeblogicGCThread	REAL64
			WeblogicJRktRTAIPrAvLd	REAL64
		Weblogic_ProcessorsAverageLoad	WeblogicAllProcAvgLoad	REAL64
WEBLOGIC_JTA			WeblogicJTA_MaxTmsec	REAL64
WEBLOGIC_JVM	Weblogic JVM ヒープメモリ		WeblogicJRktRTHpFreePct	REAL64
		Weblogic_JVMHeapUsage	WeblogicJVMMemUtilPct	REAL64
			WeblogicJVMHeapFreeMem	REAL64

テーブル クラス名	アスペクト	ポリシー名	メトリック	メトリックの データタイプ
WEBLOGI C_ SECURITY	Weblogic 認証		WeblgcInvlLogAtTo Cnt	REAL64
		Weblogic_ InvalidLoginAttemptsCount	WeblgcInvLoginAtt Cnt	REAL64
WEBLOGI C_SERVER	Weblogic Server ス テータス	Weblogic_ServerStatus	ServerStatus	INT
			WeblgcSvrRestRe qrd	REAL64
			WeblgcOpenSocCu rCnt	REAL64
			ROCWeblgcOpnSo cCurCt	REAL64
			WeblgcSocketTrafi cRt	REAL64
WEBLOGI C_ SERVLETS	Weblogic サーブレット パフォーマンス	Weblogic_ ServletAverageExecutionTime	WeblgcSrvltAvExTi me	REAL64
			WeblgcSrvltRTExT mTtl	REAL64
			WeblgcSrvltTimeC nt	REAL64
			WeblgcSrvltRTInvT ICt	REAL64
		Weblogic_ServletRequestRate	WeblgcSrvltReqRat e	REAL64
WEBLOGI C_ SRVLTSES N	Weblogic Web アプリ ケーション ス テータス	Weblogic_ WebApplicationSessionsCount	WeblgcWebAppSs nCnt	REAL64
			WeblgcSsnOpnTot alCnt	REAL64
			WeblgcWebAppHit Rt	REAL64

テーブル クラス名	アスペクト	ポリシー名	メトリック	メトリックの データタイプ
WEBLOGI C_ THREADC ONS	Weblogic キャッシュ使 用率	Weblogic_ RequestWaitTimeforThread	WeblgcReqWaitTi mThrd	REAL64
		Weblogic_ PendingRequestCount	WeblgcPendingReq Count	REAL64
		Weblogic_ PendingRequestPercentage	WeblgcPendingReq Pct	REAL64
			WeblgcExecutingR equests	REAL64
			WeblgcCompleted Requests	REAL64
		Weblogic_ RequestMaxWaitTime	WeblgcReqMaxWai tTime	REAL64

テーブル/クラス名	アスペクト	ポリシー名	メトリック	メトリックのデータタイプ
WEBLOGIC_THREADPOOL			WebLgcThrPIRTExThrCt	REAL64
	Weblogic サブレット パフォーマンス	Weblogic_ ExecuteQThreadsInUse	WebLgcExQThrdUtilPct	REAL64
			WebLgcTPIRTExThIdlCt	REAL64
			WebLgcExQueWaitCnt	REAL64
			WebLgcTPIRTExThToCt	REAL64
	Weblogic スレッド ステータス	Weblogic_ ThreadPoolOverloadCondition	WebLgcGlbThrPIOvld	REAL64
			WebLgcShrCapFrWrkMgr	REAL64
			WebLgcPndngUsrRqstCt	REAL64
			WebLgcExQThroug hput	REAL64
	Weblogic キャッシュ使用率	Weblogic_ StandbyThreadCount	WebLgcStandbyThrdCnt	REAL64

テーブル/クラス名	アスペクト	ポリシー名	メトリック	メトリックのデータタイプ
WEBLOGIC_TRANSACTION	Weblogicトランザクション		WeblgcTmScComTotCnt	REAL64
		Weblogic_TransactionAverageTime	WeblgcTranAvgTime	REAL64
			WeblgcSecActvTotCnt	REAL64
			WeblgcTmScRIBkTotCnt	REAL64
		Weblogic_TransactionSystemErrorRollbackPercentage	WeblgcTranRIBkPct	REAL64
			WeblgcTmScTotalCnt	REAL64
		Weblogic_TransactionResErrorRollbackPercentage	TranResErrRbPct	REAL64
		Weblogic_TransactionAppErrorRollbackPercentage	TranAppErrRbPct	REAL64
		Weblogic_TransactionTimeErrorRollbackPercentage	TranTimErrRbPct	REAL64
			TranSysErrRbPct	REAL64
			TranThruRate	REAL64
			WeblgcTmRIBkResToCt	REAL64
			WeblgcTmRIBkAppToCt	REAL64
			WeblgcTmRIBkTmOtCnt	REAL64
Weblogic_TransactionSystemErrorRollbackPercentage	WeblgcTmRIBkSysToCt	REAL64		

テーブル クラス名	アスペクト	ポリシー名	メトリック	メトリックの データタイプ
		Weblogic_ TransactionHeuristicsTotalCount	WeblgcTranHeurCnt	REAL64
			WeblgcActvTmToCnt	REAL64
		Weblogic_ TransactionCapacityUtilizationPct	WeblgcTranCapUtil	REAL64
WEBLOGIC_ XMLCACHE			WeblgcXMLCachDiskSize	REAL64
			WeblgcXMLCachMemSize	REAL64

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on ユーザガイド (OMi Management Pack for Oracle WebLogic 1.01)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。